八尾市文化財調査報告50
平成16年度国庫補助事業

八尾市内遺跡平成16年度発掘調査報告書

2005年3月

八尾市教育委員会

八尾市内遺跡平成16年度発掘調査報告書　正誤表		
頁・行	誤	正
4頁　35行	含んいる。	含んでいる。
6頁　12行	られていた、	られていた。
7頁　10行	攪	撹
29頁　36行	共同住宅建設に伴う遺構確認調査	個人住宅建設に伴う発掘調査
抄録	2.25｜個人住宅建設に伴う遺構確認調査	2.25｜個人住宅建設に伴う発掘調査
抄録	4｜共同住宅建設に伴う遺構確認調査	4｜個人住宅建設に伴う発掘調査

はじめに

八尾市は、大阪府のほぼ中央部に位置し、生駒山地の山麓部から大阪平野の東部にかけての範囲に市域を有しております。古くは、河内湖、河内潟に面し、旧大和川をはじめとする多くの河川によって、肥沃な平野が形成されてきました。旧石器時代から連綿と遺跡が形成されており、全国的にも有数な遺跡の宝庫と呼べる地域であります。

本書は、当教育委員会が平成16年度に(財)八尾市文化財調査研究会に委託して実施した市内の埋蔵文化財包蔵地における個人住宅等の建設や民間の各種事業の工事等に伴う遺構確認調査の成果を収めております。

今後、市内の貴重な埋蔵文化財が、市民の方々をはじめ、多くの人々に親しまれるよう、保存・活用されていくことが重要な課題となるでしょう。本書が、その役割の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査に際し、ご理解とご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成17年３月

八尾市教育委員会

教育長　森　　卓

例　　言

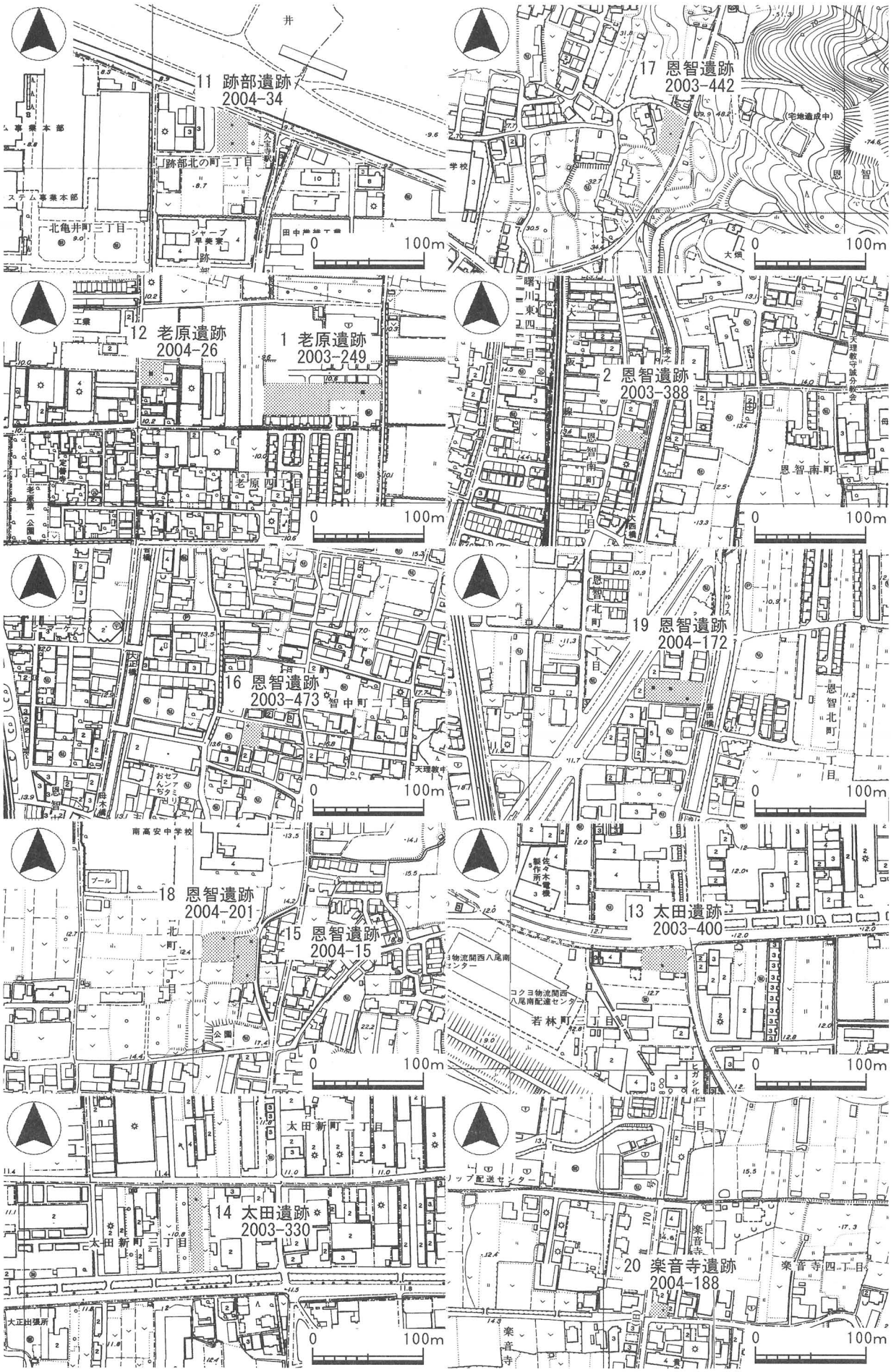
1．本書は平成16年度の国庫補助事業(市内遺跡)として、八尾市内で実施した発掘調査の報告書である。
　平成15年度実施分についても一部掲載している。
2．これらの調査は、八尾市教育委員会が(財)八尾市文化財調査研究会に委託して実施したものである。
3．本書の作成にあたっては、(財)八尾市文化財調査研究会の各調査担当者(岡田清一・高萩千秋・成海佳子・西村公助・原田昌則・樋口　薫)が執筆を行い、執筆分担は各報告の文末に記した。
4．本書の編集は、八尾市教育委員会生涯学習部文化財課において行った。

本文目次

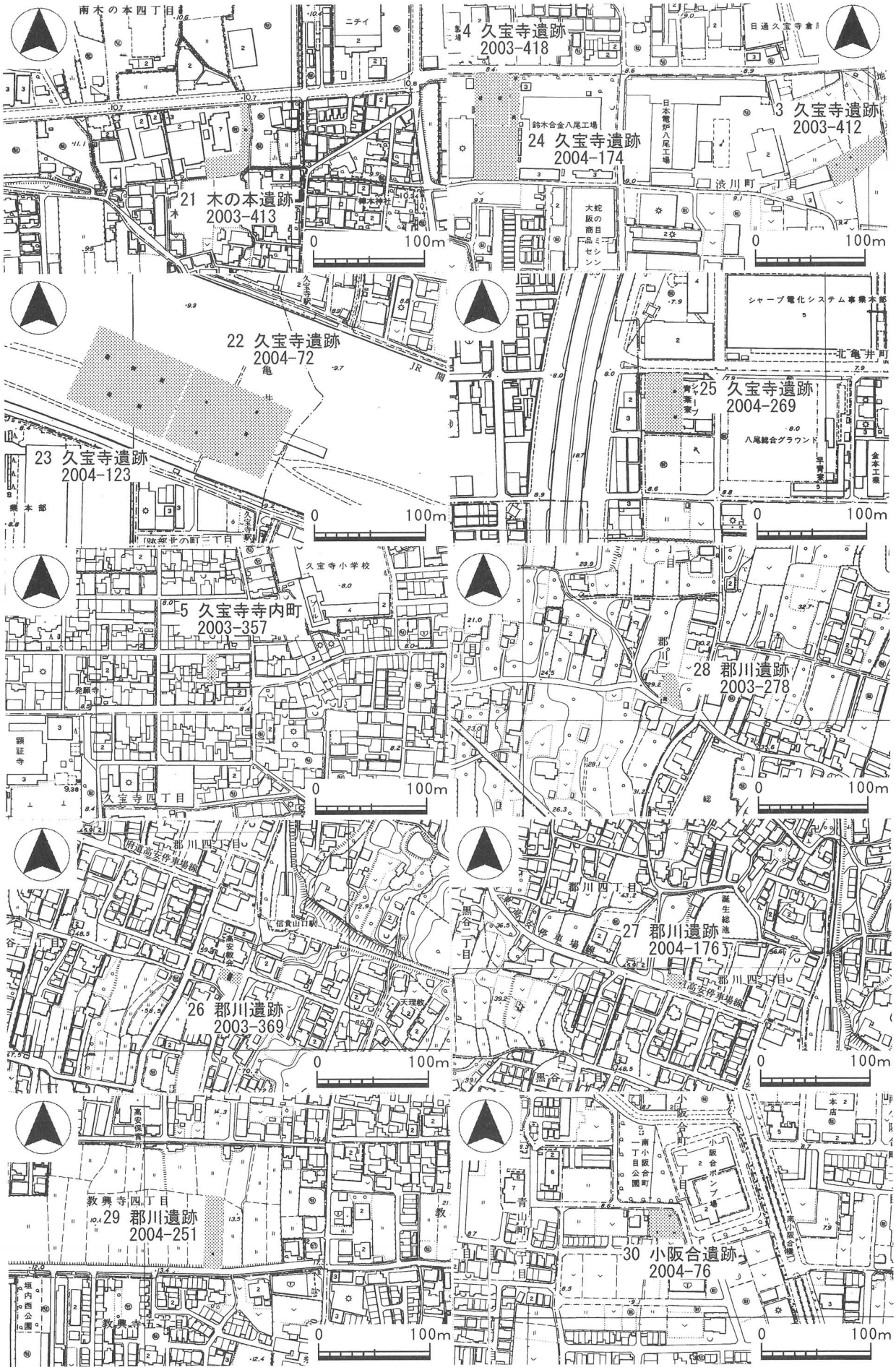
調査地位置図Ⅰ～Ⅳ
1　老原遺跡(2003－249)の調査 …… 1
2　恩智遺跡(2003－388)の調査 …… 1
3　久宝寺遺跡(2003－412)の調査 …… 1
4　久宝寺遺跡(2003－418)の調査 …… 2
5　久宝寺寺内町(2003－357)の調査 …… 3
6　東郷遺跡(2003－368)の調査 …… 3
7　東郷遺跡(2003－464)の調査 …… 4
8　水越遺跡(2003－356)の調査 …… 5
9　八尾寺内町(2003－450)の調査 …… 6
10　弓削遺跡(2003－319)の調査 …… 6
11　跡部遺跡(2004－ 34)の調査 …… 6
12　老原遺跡(2004－ 26)の調査 …… 7
13　太田遺跡(2003－400)の調査 …… 7
14　太田遺跡(2003－330)の調査 …… 8
15　恩智遺跡(2004－ 15)の調査 …… 8
16　恩智遺跡(2003－473)の調査 …… 9
17　恩智遺跡(2003－442)の調査 …… 9
18　恩智遺跡(2004－201)の調査 ……10
19　恩智遺跡(2004－172)の調査 ……10
20　楽音寺遺跡(2004－188)の調査 ……11
21　木の本遺跡(2003－413)の調査 ……11
22　久宝寺遺跡(2004－ 72)の調査 ……11
23　久宝寺遺跡(2004－123)の調査 ……12
24　久宝寺遺跡(2004－174)の調査 ……14
25　久宝寺遺跡(2004－269)の調査 ……14
26　郡川遺跡(2003－369)の調査 ……15
27　郡川遺跡(2004－176)の調査 ……18
28　郡川遺跡(2003－278)の調査 ……18
29　郡川遺跡(2004－251)の調査 ……19
30　小阪合遺跡(2004－ 76)の調査 ……19
31　成法寺遺跡(2004－119)の調査 ……20
32　神宮寺遺跡(2004－291)の調査 ……20
33　太子堂遺跡(2004－183)の調査 ……22
34　大正橋遺跡(2004－164)の調査 ……22
35　東郷遺跡(2004－ 16)の調査 ……23
36　東郷遺跡(2004－ 79)の調査 ……24
37　東郷遺跡(2004－141)の調査 ……24
38　東郷遺跡(2004－128)の調査 ……25
39　東郷遺跡(2004－226)の調査 ……25
40　東郷遺跡(2004－300)の調査 ……26
41　中田遺跡(2004－ 46)の調査 ……26
42　中田遺跡(2004－135)の調査 ……27
43　中田遺跡(2004－160)の調査 ……27
44　中田遺跡(2004－295)の調査 ……28
45　水越遺跡(2004－ 37)の調査 ……28
46　美園遺跡(2003－487)の調査 ……29
47　矢作遺跡(2004－ 85)の調査 ……29
48　矢作遺跡(2004－154)の調査 ……30
49　矢作遺跡(2004－302)の調査 ……31
50　山賀遺跡(2004－124)の調査 ……31
51　弓削遺跡(2004－259)の調査 ……32

図版目次

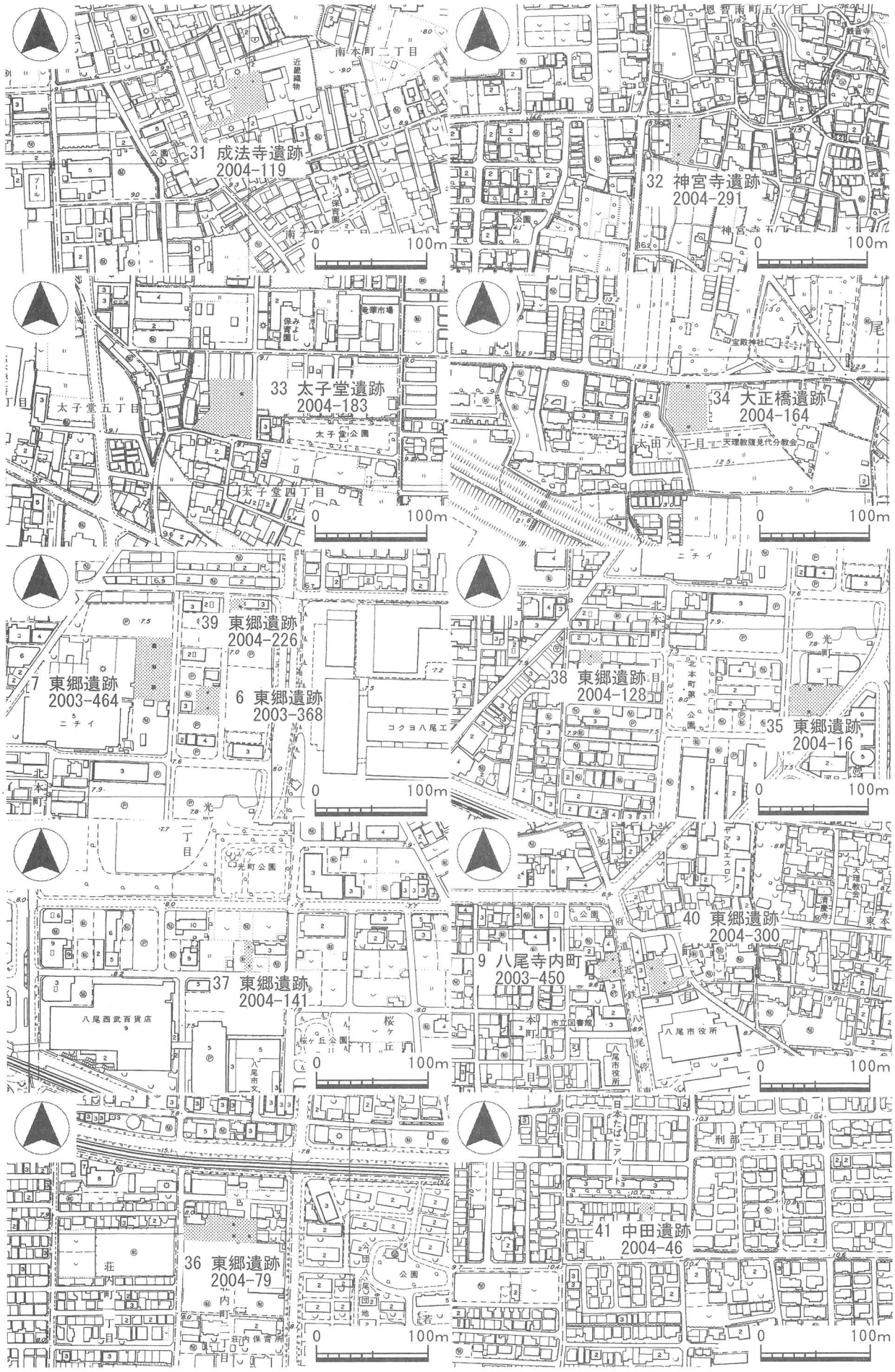
図版1　1　老原2003－249
　　2　恩智2003－388
　　3　久宝寺2003－412
　　4　久宝寺2003－418
図版2　5　久宝寺寺内町2003－357
　　6　東郷2003－368
　　7　東郷2003－464
　　8　水越2003－356
図版3　9　八尾寺内町2003－450
　　10　弓削2003－319
　　11　跡部2004－34
　　12　老原2004－26
図版4　13　太田2003－400
　　14　太田2003－330
　　15　恩智2004－15
　　16　恩智2003－473
図版5　17　恩智2003－442
　　18　恩智2004－201
　　19　恩智2004－172
　　20　楽音寺2004－188
図版6　21　木の本2003－413
　　22　久宝寺2004－72
　　23　久宝寺2004－123
　　24　久宝寺2004－174
図版7　25　久宝寺2004－269
　　26　郡川2003－369
　　27　郡川2004－176
　　28　郡川2003－278
図版8　29　郡川2004－251
　　30　小阪合2004－76
　　31　成法寺2004－119
　　32　神宮寺2004－291
図版9　33　太子堂2004－183
　　34　大正橋2004－164
　　35　東郷2004－16
　　36　東郷2004－79
図版10　37　東郷2004－141
　　38　東郷2004－128
　　39　東郷2004－226
　　40　東郷2004－300
図版11　41　中田2004－46
　　42　中田2004－135
　　43　中田2004－160
　　44　中田2004－295
図版12　45　水越2004－37
　　46　美園2003－487
　　47　矢作2004－85
　　48　矢作2004－154
図版13　49　矢作2004－302
　　50　山賀2004－124
　　51　弓削2004－259
　　8　水越2003－356出土遺物
図版14　16　恩智2003－473出土遺物
　　26　郡川2003－369出土遺物
　　32　神宮寺2004－291出土遺物



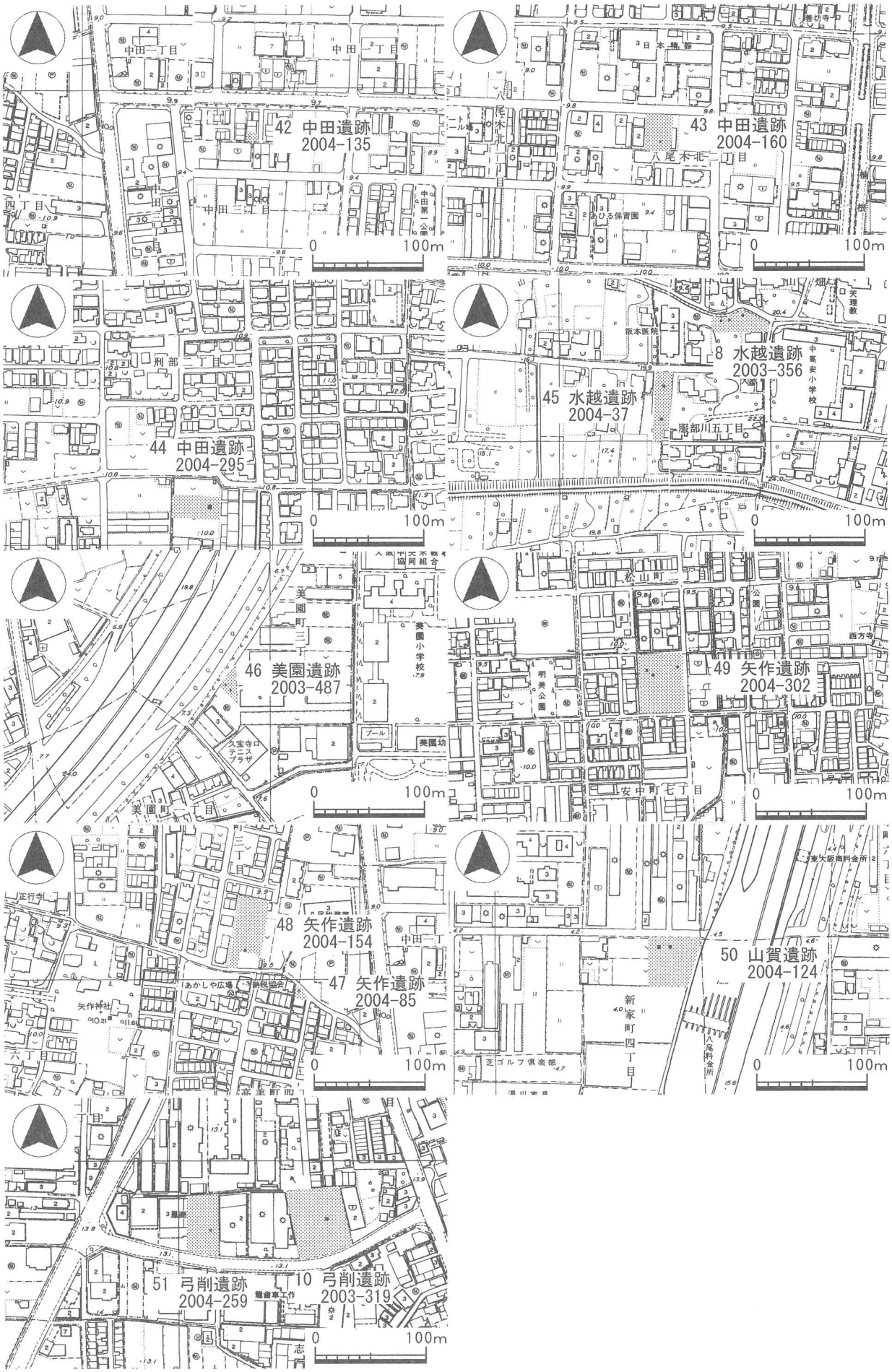
第１図　調査地位置図Ⅰ（Ｓ＝1/5000）



第２図　調査地位置図Ⅱ（Ｓ＝1/5000）



第３図　調査地位置図Ⅲ（Ｓ＝1/5000）



第４図　調査地位置図Ⅳ（Ｓ＝1/5000）

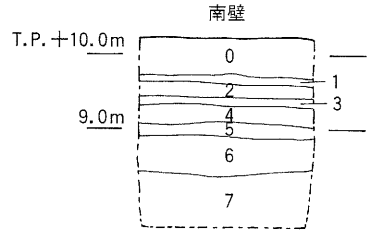
1　老原遺跡(2003ー249)の調査

1．調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市老原３丁目62番の１の一部、62番２・６

3．調査期間：平成16年１月21日

4．調査方法：建築予定地内の東寄りで、基礎工事部分にあたる地点に３ｍ四方の調査区を１箇所設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.＋10.2m前後)下約2.5mまでの掘削を実施した。



第５図　地層断面図(Ｓ＝1/100)

5．調査概要：現地表から0.5m前後は盛土（第０層)、その下に0.15m前後の近現代にあたる耕作土層(１層－5B2/1青黒色シルト)が堆積する。その下層は、第２層－5G3/1暗緑灰色シルト、第３層－7.5YR7/4にぶい橙色砂礫混じりシルト(中世とみられる土師器片を若干含む)、第４層－10YR8/6黄橙色シルト、第５層－5YR7/6橙色シルト(管状マンガンがみられる)で、第３～５層には酸化鉄分が含まれ、各層ともにフラットな様相(水平堆積)を呈する。さらにその下層は、第６層10BG7/1明青灰色砂質シルト、第７層－N7/0灰白色砂質シルト～極細粒砂といった水成層で、第７層からの湧水が著しいものとなった。また、壁面も崩壊しはじめたため、当初の予定掘削深度は現地表下３ｍまでであったが、現地表下2.5mの時点で調査を断念した。

6．まとめ：今回の調査では、現地表下約0.6～1.4m(T.P.＋約9.6～8.8m)間にあたる第３～５層が、近隣における調査成果から平安時代～室町時代にあたる堆積層と思われる。また、遺物の稀少さと堆積状況から勘案して、当該期の生産域に比定されるものと判断する。　(岡田清一)

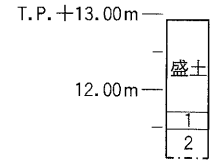
2　恩智遺跡（2003ー388）の調査

1．調査名：分譲住宅建築に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市恩智南町１丁目５番

3．調査期間：平成16年３月５日

4．調査方法：調査区１箇所を設定して、現地表以下1.8mまでの掘削を行い、遺構・遺物の状況を確認した。高さの基準は、北東60mの茶之木橋東詰(八尾市発行1/2500の地図に記載の値＝T.P.＋13.40m)から移動した。



1　2.5Y5/4黄褐色細～中粒砂混粘土質シルト
2　2.5Y5/2暗灰黄色中～粗粒砂混砂質シルト

第６図　地層断面図(Ｓ＝1/100)

5．調査概要：調査地の現状は共同住宅を取り壊した更地で、現地表面の高さはT.P.＋13m前後である。盛土は現地表下1.2(T.P.＋11.7)ｍまでなされていた。以下には、第１層2.5Y5/4黄褐色細～中粒砂混粘土質シルト(層厚0.2～0.25m)、第２層2.5Y5/2暗灰黄色中～粗粒砂混砂質シルト(層厚0.4m以上)の２層が堆積しているのを確認した。盛土は軟弱で、コンクリートやブロック、人頭大からそれ以上の自然石等が多量に埋められており、壁面は崩壊した。第１・２層ともに酸化鉄が斑紋状にみられ、第１層には炭が少量含まれている。第２層中には、陶磁器の極小破片が極少量含まれていた。

6．まとめ：盛土が厚く軟弱であったため、近現代の地層までしか確認できなかった。　(成海佳子)

3　久宝寺遺跡(2003ー412)の調査

1．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

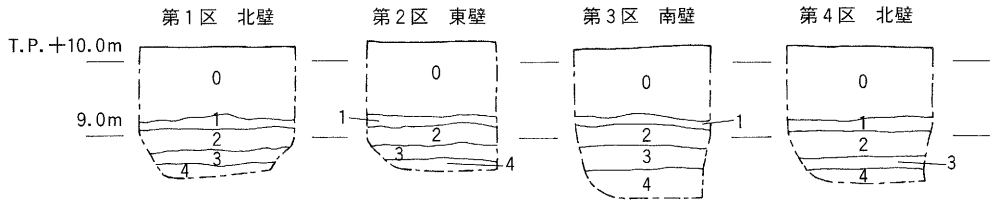
2．調査地：八尾市渋川町１丁目27番

3．調査期間：平成16年２月９日

4．調査方法：人孔部分に規模2.0×2.0mの調査区を４箇所設定した。西側を第１区、中央北側を第２区、中央南側を第３区、東側を第４区と呼称する。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南東側道路上T.P.＋10.4m)を使用した。

5．調査概要：【第１～４区】現地表下約2.0mまでに５層の堆積を確認した。０層は盛土でコンクリートなどの産業廃棄物が埋められていた。１層はN3/0暗灰色細粒砂混粘土で、旧耕作土である。２層は

5B5/1青灰色粗粒砂混粘土、３層は10YR5/1褐灰色粗粒シルト混粘土、４層は10YR4/4褐色粗粒シルト混粘土である。遺構の検出および遺物の出土はなかった。　　（西村公助）



第７図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

参考文献

・岡田清一　1997「Ⅱ久宝寺遺跡（第17次調査）」『久宝寺遺跡　財団法人　八尾市文化財調査研究会報告55』財団法人　八尾市文化財調査研究会

４　久宝寺遺跡（2003－418）の調査

１．調査名：工場建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市南久宝寺１丁目23番、24番、25番の一部、26番の一部

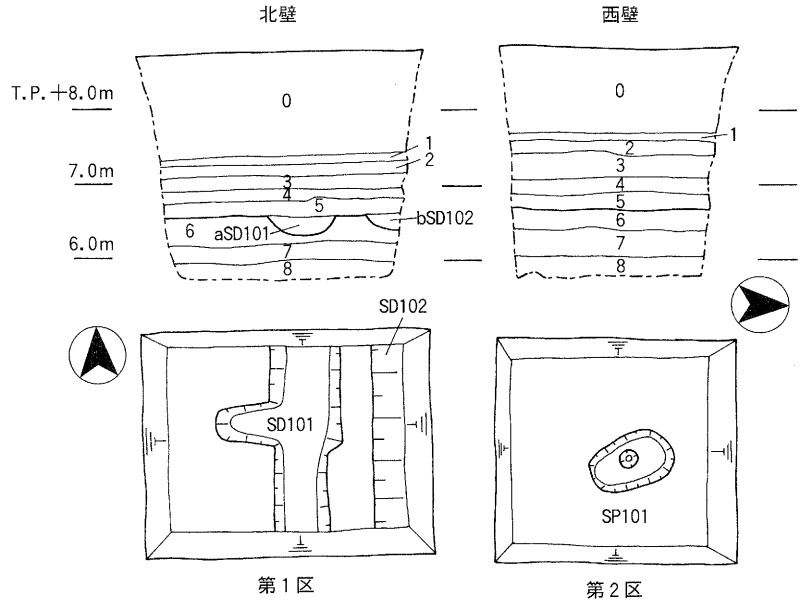
３．調査期間：平成16年３月25日

４．調査方法：建築予定地内に３×３ｍの調査区を２箇所（西側－第１区、東側－第２区）設定し、工事深度に準じて現地表（T.P.＋8.7～8.8m）下約３ｍまでの掘削を実施した。

５．調査概要：【層序】第０層：盛土。第１層：5B2/1青黒色シルト。近・現代の作土層。第２層：7.5GY4/1暗緑灰色シルト。第３層：5B3/1暗青灰色砂礫混じりシルト。第４層：7.5YR6/3にぶい褐色シルト。第５層：7.5YR4/3灰褐色シルト。古墳時代中期～奈良時代にかけての遺物が含まれる。第６層：10YR3/1黒褐色シルト。両調査区ともに本層上面（T.P.＋6.5～6.7m付近）で、飛鳥時代末～奈良時代前半頃に比定される遺構を検出した。第７層：10YR4/1褐灰色粘土質シルト。第２区では、古墳時代前期頃に比定される古式土師器（高杯）の破片が混入。第８層：5B6/1青灰色細粒砂。本層は付近で実施された遺構確認調査から古墳時代初頭以前の河川堆積層と考えられる。

【検出遺構】≪第１区≫現地表下2.1m（T.P.＋6.5m）で、溝２条（ＳＤ101・102）を検出した。いずれも南北方向に伸びる溝である。ＳＤ101は、幅0.8m前後・深さ0.2m前後を測る。埋土は暗青灰色粘土質シルトで、内部から須恵器坏の破片が出土した。ＳＤ102はＳＤ101の東に隣接するもので、幅については掘方の東肩が調査区外に至るため不明で、深さについては検出部分で0.2m前後を測る。埋土は灰白色砂質シルトで、内部から土師器皿の破片が出土した。≪第２区≫　現地表下2.2m（T.P.＋6.7m）で、柱穴１箇所（ＳＰ201）を検出した。北西－南東方向に長い隅丸長方形を呈する。規模は長径1.1m、短径0.7m、深さ0.3m（掘方0.1m・柱穴0.2m）を測る。埋土は灰褐色シルトで、内部から須恵器蓋杯の破片が出土した。

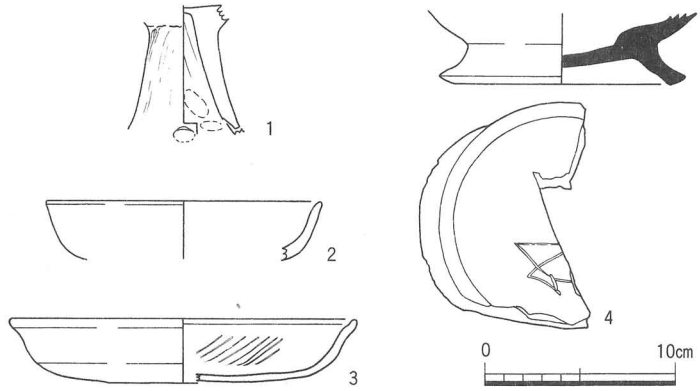
【出土遺物】出土遺物の中で図化できたものは、第２区の第５層から出土した土師器高杯（１）、土師器皿（２・３）、須恵器壷（４）の４点であ



第８図　地層図および平面図（Ｓ＝1/100）

る。1は柱状部のみ残存で、スカシ孔が1箇所確認された。外面は縦方向の板ナデが施される。古墳時代前期(布留式期)の所産と思われる。2・3のうち3の内面には放射状の暗文が施される。4の壷底部にはヘラ記号が確認される。2～4は、形態および調整から飛鳥時代末～奈良時代前半に属する。

6．まとめ：第2区で検出した柱穴については、周囲で瓦の破片が見られることも含めて寺院あるいは官衙等の建物跡が示唆される。　(岡田)



第9図　第2区第5層出土遺物実測図（S＝1/4）

5　久宝寺寺内町（2003－357）の調査

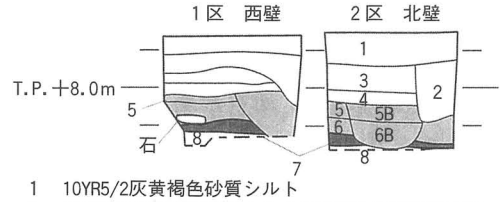
1．調査名：個人住宅建築に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市久宝寺3丁目288番

3．調査期間：平成16年3月4日

4．調査方法：調査区2箇所(南を1区・北を2区と呼ぶ)を設定して、現地表以下1.5～1.6mまでの掘削を行い、遺構・遺物の状況を確認した。高さの基準は、南西170mの顕証寺境内にある大阪府の水準(T.P.＋9.38m)から移動した。

5．調査概要：調査地の旧状は住宅を取り壊した更地で、現地表面の高さはT.P.＋8.7m前後である。1・2区ともに1～8層の地層が確認できた。このうち、1～3層は近世末期～現代の住宅立替に伴う整地等に伴うもので、両調査区でいわゆる「ごみ穴」状の掘り込みが認められた。これらの層中からは、食器(染付け椀・小坏、擂鉢)、巴文軒丸瓦等が出土している。4層は炭を多量に含む層で、厚さ0.15～0.2m前後、上面はT.P.＋8.0m前後を測る。5・6層は極細～中粒砂からなる水成層で、6層には水平ラミナが見られるが、5層は6層中にブロックが多量に混入し、硬くしまっている。6層最下(7層上面)からは、石(長辺40cm・短辺30cm・厚さ10cm)が出土したが、原位置を保っていたかどうかは不明である。7層は既往調査で検出している石山合戦に伴う焼土層で、厚さ0.1～0.15mを測る。最下の8層は、既往調査で上面が室町時代の遺構面と確認されている層である。上面はT.P.＋7.2～7.4mで北(2区)が低い。



1　10YR5/2灰黄褐色砂質シルト
2　10YR5/2灰黄褐色砂質シルトに10YR6/6明黄褐色粘土質シルト
3　7.5Y6/2灰オリーブ極細粒砂に10Y6/6明黄褐色粘土質シルトのブロック
4　7.5Y6/2灰オリーブ極細粒砂～10Y6/6明黄褐色粘土質シルトに炭を含むブロック
5　7.5Y6/3オリーブ黄色～10YR6/6明黄褐色極細～中粒砂に10YR6/6明黄褐色粘土質シルトのブロック
6　7.5Y6/3オリーブ黄色～10YR6/6明黄褐色極細～中粒砂
7　10YR6/6明黄褐色極細粒砂～砂質シルト（焼土）
8　2.5Y5/1オリーブ灰色粘土質シルト

第10図　地層断面図（S＝1/100）

6．まとめ：6層は石山合戦(1570～1580年)後の河川流路と考えられ、5層によって埋め立て・整地されているものと考えられる。　(成海)

参考文献

・岡田清一　1999「11. 久宝寺寺内町遺跡第1次調査(KHC98－1)」『平成10年度　(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会

6　東郷遺跡(2003－368)の調査

1．調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査

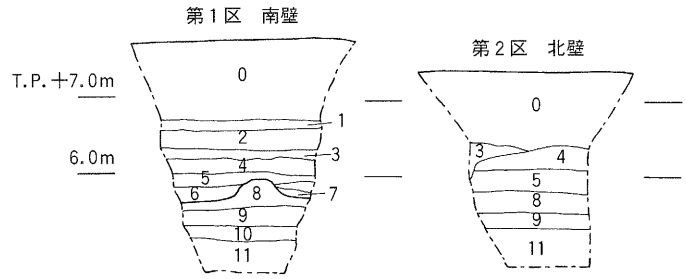
2．調査地：八尾市光町1丁目17、20

3．調査期間：平成16年2月3日

4．調査方法：建築予定地内に3m四方の調査

区を２箇所（北－第１区、南－第２区）設定し、工事深度に準じて現地表（T.P.＋7.4～7.8m）下約2.5～３ｍまでを掘削した。

５．調査概要：【層序】第０層：撹乱および盛土。第１層：7.5YR3/1黒褐色シルト。第１区に遺存する近・現代の旧耕作土層にあたる。第２層：5YR4/2灰褐色砂礫混じりシルト。第１区で確認した中世(瓦器・土師器片少量検出)に相当する堆積層である。第３層：7.5YR6/3にぶい褐色シルト。時期不明の土師器片を含む。第４層：7.5YR8/6浅黄橙色シルト～極細粒砂。第１区で確認した酸化鉄分を多量に含む堆積層である。第５層：5YR4/2灰褐色シルト。第１区では、古式土師器片(古墳時代前期)を検出した。第６層：5YR5/1褐灰色シルト。第１区で確認。第７層：2.5YR4/6赤褐色シルト。第１区で確認した多量の酸化鉄分を含む堆積層である。第８層：5BG3/1暗青灰色粘土質シルト。第１区で確認した堆積層で、上半部に携粋が観察されることと、一部に畦畔状の起伏が見られる状況から水田を想定させる。時期は不明。第９層：5PB5/1青灰色粘土質シルト。第10層：10BG7/1明青灰色砂質シルト。第１区で確認。第11層：N7/0灰白色極細粒砂～中粒砂(層厚0.5m以上)。湧水が著しい。



第11図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

６．まとめ：今回の調査では、現地表下1.2～1.4m(T.P.＋6.6～6.4m)間で中世、その下層の現地表下1.6～1.8m(T.P.＋6.2～6.0m)間で古墳時代前期の相当層と推定される地層を確認した。また、第１区では、さらにそれより下層の現地表下約2.2m(T.P.＋5.8m)付近で、水田遺構の可能性がある堆積層を確認するに至った。（岡田）

7　東郷遺跡(2003－464)の調査

１．調査名：有料老人ホーム建設に伴う遺構確認調査

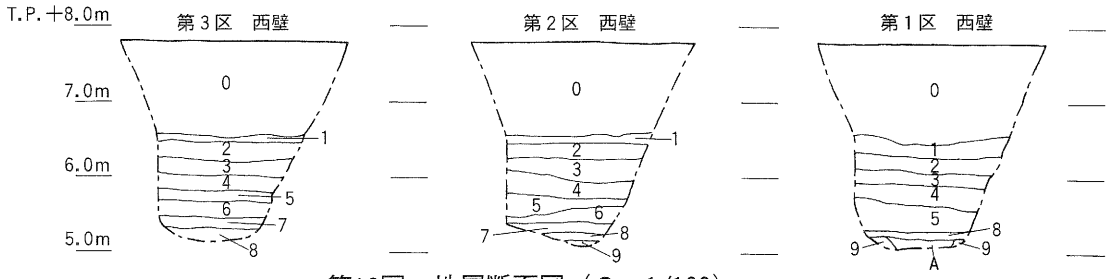
２．調査地：八尾市北本町２丁目201番、202番２、203番２

３．調査期間：平成16年３月17日

４．調査方法：建物基礎部分に3.0×3.0mの調査区を３箇所設定した。北側から第１区、第２区、第３区と呼称する。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南東側道路上T.P.＋7.6m)を使用した。

５．調査概要：【第１～３区】現地表下約2.7mまでに９層の堆積を確認した。０層は盛土でコンクリートなどの産業廃棄物が埋められていた。１層はN3/0暗灰色細粒砂混粘土で、旧耕作土である。２層は5BG5/1青灰色細粒シルト質粘土、３層は10YR7/1灰白色細粒砂混粘土、４層はN6/0灰色粗粒砂混粘土、５層は10YR3/3暗褐色粗粒シルト質粘土、６層は7.5YR4/2灰褐色粗粒シルト、７層は7.5YR5/2灰褐色粘土　８層は5B5/1青灰色細粒シルト、９層は10YR6/1褐灰色粗粒砂である。第１区の９層上面では西へ向って緩やかに下がる落ち込み(Ａ層)を確認した。埋土はN3/0暗灰色細粒シルト質粘土で、炭化物を含んいる。

６．まとめ：９層上面から切り込む落ち込みは、人為的に埋めた痕跡はなく、埋土内の炭化物は植物が腐食したものと思われることから、自然堆積層と考えたい。（西村）



第12図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

8　水越遺跡(2003－356)の調査

1．調査名：グループホーム建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市山畑１番地

3．調査期間：平成16年１月15日

4．調査方法：建築予定地内の基礎工事部分にあたるところに南北３ｍ×東西2.5ｍの調査区を３箇所(西から第１～３区)設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.＋20ｍ前後)下約２ｍまでの掘削を実施した。

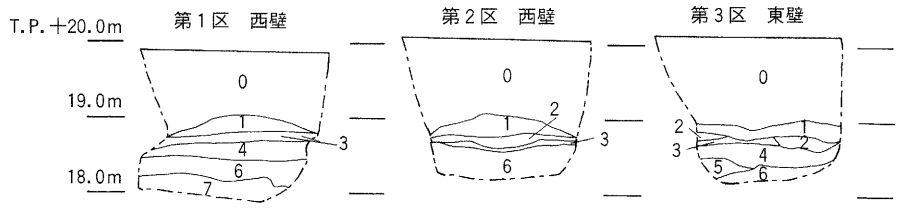
5．調査概要：【層序】３調査区ともに現地表から1.2ｍ前後は駐車場構築に伴う盛土(第０層)、その下に0.2ｍ前後の近現代にあたる耕作土層(第１層)が堆積する。第１区および第３区では、その下層で近世に相当する層厚0.2ｍ前後の堆積層(第４層)、さらにその下層に層厚0.3～0.4ｍを測る平安時代後期～鎌倉時代に相当する暗褐色を呈した堆積層(第６層)を確認した。本層内には当該期に比定される瓦器椀のほか土師器皿の小破片が含まれている。とくに第２区では破片ながら比較的密に包含されていた。また、第１区では当該期の生活面構築層にあたると見られる黄灰色を呈した堆積層(第７層)を確認した。本層は遺物を含まない粘性の強いシルト層で、上面には土壌化と遺構らしき窪みが確認できた。

【出土遺物】出土遺物の中で図化できたものは、第２区第６層出土の土師器皿１点(１)、第３区第６層出の瓦器椀２点(２・３)、平瓦１点(４)の計４点である。１は平坦な底部から直立気味に立ち上がる口縁部を呈する。色調は茶褐色を呈する。２・３はいずれも和泉型で、見込みに格子状の暗文を有し、底部には断面三角形の高台が貼り付けられる。４は凸面に縄目タタキ、凹面に布目が見られる。以上は、12世紀末～13世紀初頭に位置づけられる。

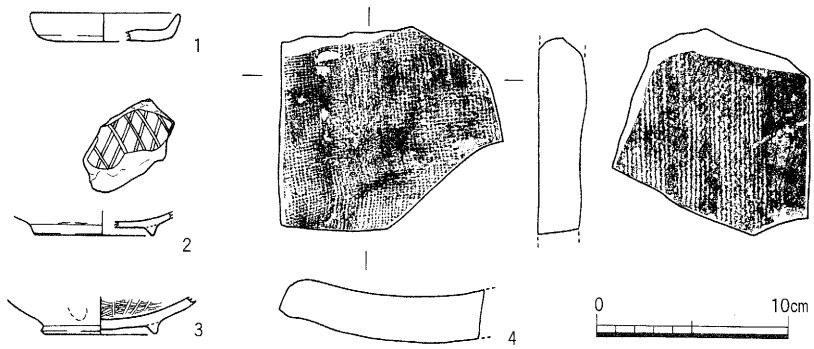
6．まとめ：今回の調査では、現地表下約1.5～1.8ｍ(T.P.＋18.5～18.2ｍ)間で平安時代後期～鎌倉時代にあたる堆積層を確認したが、本層を綿密に細分すると２～３層に分層でき、複数の時期に亘る生活面が捉えられそうである。当該期について当地周辺における既往の調査成果をみると、南西約100ｍ地点で平成８年度に調査が実施されており、鎌倉時代以降の耕作土層が検出されている。しかし、当地一帯はまだまだ調査事例が少なく、未解明なところが多い。今回の遺構確認調査が今後当地周辺における調査の指標になるものと言える。　(岡田)

参考文献

・高萩千秋　1998「ⅩⅧ水越遺跡第6次調査（MS96－6)」『財団法人　八尾市文化財調査研究会報告60』財団法人　八尾市文化財調査研究会



第13図　地層断面図（Ｓ＝1/100）



第14図　出土遺物実測図（第２区第６層－１、第３区第６層－２～４　Ｓ＝1/4)

9　八尾寺内町(2003－450)の調査

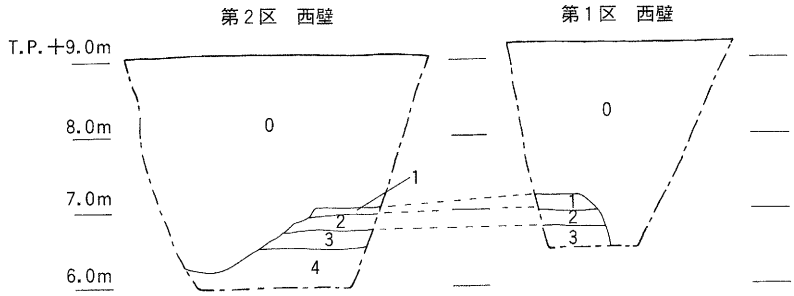
1．**調査名：**共同住宅建設に伴う遺構確認調査

2．**調査地：**八尾市本町２丁目37,38,39,40－２,40－３,164－１

3．**調査期間：**平成16年３月19日

4．**調査方法：**建物基礎部分に3.0×3.0mと4.0×4.0mの調査区を設定した。北側を第１区、南側を第２区と呼称する。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南東側道路上T.P.＋8.9m)を使用した。

5．**調査概要：**【第１・２区】現地表下約3.0mまでに５層の堆積を確認した。０層は盛土で、以前の建物基礎であったコンクリートなどの産業廃棄物が埋められていた、１層は7.5YR4/6褐色細粒シルト混粘土、２層は5B5/1青灰色粘土、３層はN3/0暗灰色粘土質細粒砂、４層はN4/0灰色細粒砂～粗粒砂である。遺構、遺物の検出はなかった。



第15図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

（西村）

参考文献

・原田昌則　1999「Ⅱ東郷遺跡(第37次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告64』(財)八尾市文化財調査研究会

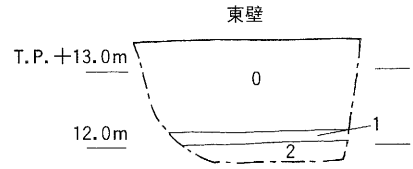
10　弓削遺跡(2003－319)の調査

1．**調査名：**倉庫建設に伴う遺構確認調査

2．**調査地：**八尾市志紀町南２丁目125番･126番

3．**調査期間：**平成16年１月23日

4．**調査方法：**建物基礎部分(規模3.0×3.0m面積９㎡)の調査を行った。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南西側道路上T.P.＋13.1m)を使用した。



第16図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

5．**調査概要：**現地表下約1.6mまでに３層の堆積を確認した。１層は盛土でコンクリートなどの産業廃棄物が埋められていた。２層はN2/0黒色細粒砂混粘土で、旧耕作土である。３層は5B7/1明青灰色細粒砂混粘土である。３層上面で調査を行ったが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。　（西村）

参考文献

・西村公助　1985「８弓削遺跡(第1次調査)」『昭和59年度事業概要報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告７　(財)八尾市文化財調査研究会

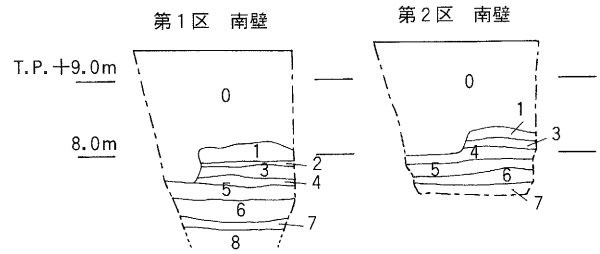
11　跡部遺跡(2004－34)の調査

1．**調査名：**貸ビル建設に伴う遺構確認調査

2．**調査地：**八尾市跡部北の町３丁目３－15・３－16

3．**調査期間：**平成16年５月７日

4．**調査方法：**建築予定地内の南北に２m四方の調査区を２箇所設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.＋9.4～9.5m)下約２mまでの掘削を実施した。なお、北部を第１区、南部を第２区と呼称した。



第17図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

5．**調査概要：**【層序】現地表下約1.5mまでは、以前の建物基礎に伴う盛土およびカクランとなっている。この部分を周辺における調査成果と比較すると、近世～近・現代に比定される島畑や耕作土が確認されている。ところが、当地点においてそれらの堆積層は、現代の開発に伴って削平されたようであ

る。それより以下1.0mまでは、以下の層序に示すように水成層である褐色系のシルト層が連綿と堆積する。第０層－盛土およびカクラン、第１層－7.5YR7/8黄橙色シルト、第２層－5YR6/6橙色砂礫。第１区にのみ存在する。第３層－10YR8/3浅黄橙砂質シルト、第４層－7.5YR7/4にぶい橙色シルト、第５層－7.5YR6/1灰褐色シルト、第６層－5YR6/1褐灰色粘土質シルト。植物ラミナが確認される。第７層－10BG7/1明青灰色極細粒砂、第８層－5BG5/1青灰色砂質シルト。第１区で確認した地層である。

６．まとめ：今回の調査では、遺構・遺物は検出されなかった。当地点の近隣では、北側で道路築造に伴う調査が実施されている（ＫＨ98－24）。この調査成果と今回の対応する地層（第１～８層）を照合すると、時期的には古墳時代中期～室町時代といったかなり長期にわたる堆積層であることがわかる。因みに北側の調査では中世～近世にかけて、島畑や鋤溝といった生産域に関わる遺構が検出されているが、今回の遺構確認調査においてはこのような耕作を示唆する人為的な攪拌は見られなかった。　（岡田）

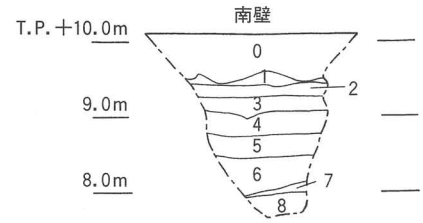
12　老原遺跡（2004－26）の調査

１．調査名：個人住宅建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市老原３丁目81番地

３．調査期間：平成16年５月26日

４．調査方法：建築予定地内に３ｍ四方の調査区を１箇所設定し、工事深度に準じて現地表（T.P.＋10.1m）下約2.5mまでの掘削を実施した。



第18図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

５．調査概要：【層序】第０層－宅地造成に伴う盛土、第１層－5B3/1青黒色シルト。近現代の耕作土にあたる。第２層－7.5GY4/1暗緑灰色シルト、第３層－10YR7/3にぶい黄橙色シルト。中世頃の土師器の小破片が若干含まれる。第４層－10YR8/3浅黄橙色シルト。マンガンの沈着が見られる。中世頃の土師器の小破片が若干含まれる。第５層－7.5YR6/1灰褐色砂礫混じりシルト、第６層－5BG5/1青灰色粘土質シルト。植物遺体および炭酸鉄を含む。第７層－5BG5/1青灰色砂質シルト、第８層－5BG3/0暗青灰色粘土質シルト。植物遺体を含む。

６．まとめ：今回の調査では現地表下約0.8～1.3m（T.P.＋8.8～9.3m）間で、中世頃に比定されると思われる土師器の小破片を数点検出したが、遺構は検出されなかった。地層で言うところの第３・４層にあたるところであるが、これらの堆積層には人為的な攪拌が見られることから、耕作土であることが想定される。当地より北東および東方で実施された本格的な発掘調査では、鎌倉～室町時代にかけての井戸・柱穴・土坑といった居住域に関連した遺構・遺物が多数検出されている。しかし、今回の調査も含め当地周辺で実施された既往の遺構確認調査を見る限り、当該期に相当するところはいずれも遺構・遺物は希薄であり、どちらかというと生産域あるいは空閑地であったことが考えられる。また、今回の調査では中世より以下の下層部分（T.P.＋7.7～8.8m間）については、遺物は皆無で水成層や植物遺体の状況から湿地帯であったことが言える。　（岡田）

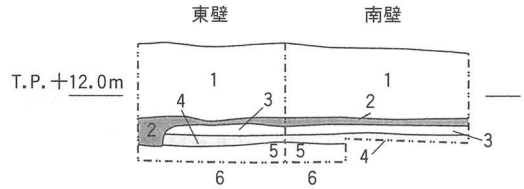
13　太田遺跡（2003－400）の調査

１．調査名：店舗建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市若林町３丁目１、２－２、３－２の各一部

３．調査期間：平成16年５月21日

４．調査方法：浄化槽部分に2.5×2.5mの調査区を設定。標高は隣接する下水道工事（15－30工区）のKBM1（T.P.＋12.737m）を使用。



第19図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

５．調査概要：現地表下約1.5mまでに６層の堆積を確認した。１層（層厚0.8～１ｍ）は盛土で、工場跡地。２層（層厚0.1m）は旧耕土、昭和前半ごろまで水田耕作土と思われる。３層（層厚0.1～0.15m）は乳

灰茶色粘質シルトで、水田の床土。４層(層厚0.1～0.2m)は褐灰色粘質土で、砂礫（１～５㎜）を少量含む層で、中世～近世の耕作土と思われる。上面は標高11.5mを測る。５層(層厚0.3m)は明茶灰色粘質土、６層は灰色微砂で地下水があった。

６．まとめ：今回の調査では遺構・遺物を確認することはできなかった。層位は当地から東側40mで行った当調査研究会太田遺跡第６次調査（OOT2003－６）で確認された上層部の地層とほぼおなじ堆積状況であった。遺構は近現在の耕作土で確認された溝のみで第３～５層は水平堆積である。また遺物を含む層はなかった。（高萩千秋）

参考文献

・高萩千秋　2004「３.太田遺跡第６次調査（OOT2003－６）」『平成15年度　（財）八尾市文化財調査研究会事業報告』財団法人八尾市文化財調査研究会

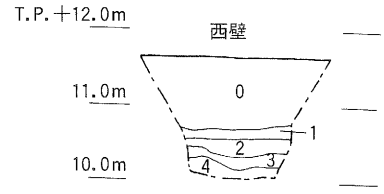
14　太田遺跡(2003－330)の調査

１．調査名：分譲住宅・共同住宅建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市太田新町３丁目90

３．調査期間：平成16年６月10日

４．調査方法：浄化槽部分に規模2.5×2.5mの調査区を設定した。標高については八尾市下水道が使用しているレベル高値(調査地の南東側道路上：T.P.＋11.684m)を使用した。



第20図　地層断面図（S＝1/100）

５．調査概要：現地表(T.P.＋11.65m)下約１.7mまでに５層の堆積を確認した。０層は盛土。１層は10BG4/1暗青灰色粗粒砂混粘土で、旧耕作土である。２層は10YR6/6明黄褐色細粒～粗粒シルトで、マンガン斑が認められる。３層は10YR6/1褐色細粒シルト質粘土。４層は10YR7/1灰白色粗粒シルトと細粒砂のラミナで、流水堆積である。遺構・遺物の検出はなかった。（西村）

参考文献

・亀島重則　1990『太田遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会

・中野篤史・西村公助　1996「Ⅳ太田遺跡(第２次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告53』(財)八尾市文化財調査研究会

15　恩智遺跡(2004－15)の調査

１．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市恩智北町３丁目32･33-１･34-２

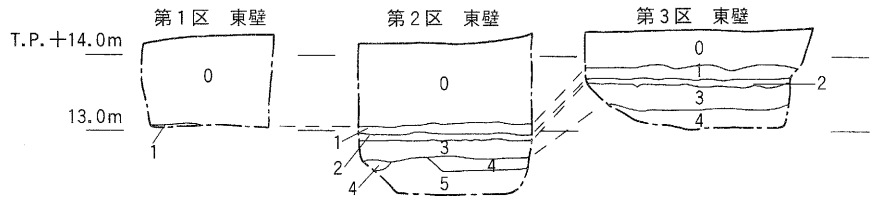
３．調査期間：平成16年４月20日

４．調査方法：建物基礎部分に３箇所【北から第１区(規模1.8×2.5m)、第２区(規模2.3×2.3m)、第３区(規模3.0×2.0m)と呼称】の調査区を設定した。レベル高については八尾市作成1/2500地図に記載されているレベル高値(調査地の北東側道路上：T.P.＋14.2m)を使用した。

５．調査概要：【第１～３区】現地表下約2.0mまでに５層の堆積を確認した。０層は盛土。１層は10YR4/1褐灰色細粒砂混粘土で第３区の１層上面はT.P.＋13.9m、第２・３区の１層上面はT.P.＋13.1mを測る。２層は7.5YR6/2灰褐色細粒シルト質粘土。３層は5YR4/8赤褐色粘土質細粒砂。４層は2.5Y6/1黄灰色粘土質粗粒砂。５層は7.5YR4/2灰褐色礫混粘土質粗粒砂である。遺構・遺物の出土はなかった。（西村）

参考文献

・西村公助　1992「Ⅳ恩智遺跡(第５次調査)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告34　(財)八尾市文化財調査研究会



第21図　地層断面図（S＝1/100）

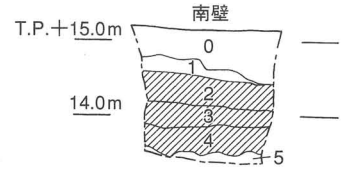
16　恩智遺跡(2003－473)の調査

1．調査名：個人住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市恩智中町２丁目248番地

3．調査期間：平成16年４月22日

4．調査方法：浄化槽部分に２ｍ四方の調査区を設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.＋15.2m)下約２ｍまでの掘削を実施した。



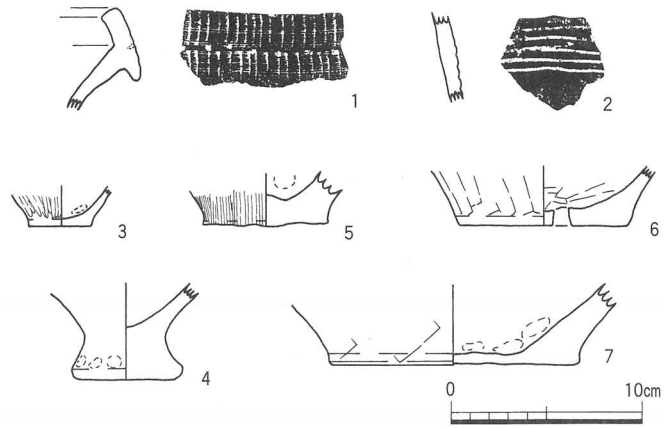
第22図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

5．調査概要：【層序】第０層－盛土、第１層－10YR4/3にぶい黄褐色シルト。西側は削平される。第２層－5G2/1緑黒色砂礫混じりシルト、第３層－5B2/1青黒色砂礫混じりシルト、第４層－N2/0黒色砂礫混じり粘土質シルト、第５層－2.5Y7/4浅黄色砂質シルト。第１～４層まではすべて土壌化した地層で、各層ともに弥生時代中期頃と推定される土器片、およびサヌカイト製の石器が含まれる。第５層は遺物を含まない地層で、その上面には遺構の存在が想定される。

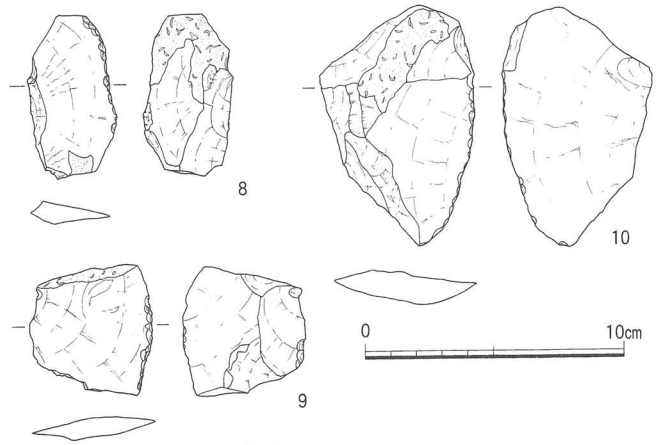
【出土遺物】第１～４層から出土した遺物の中で図化できたものは、壷７点(１～７)とサヌカイト剥片３点(８～10)である。壷はすべて生駒西麓産の胎土を有する。１は上下に肥厚する口縁端部を有する広口壷で、外面には刺突孔と櫛描き簾状文が施される。２は肩部分にあたるもので、ヘラ描き直線文を施す。３・５～７は底部のみ残存で、いずれも平底を呈する。また、６には底部穿孔が認められる。４は突出する高台状を呈するもので、外面はユビオサエとナデで調整する。

6．まとめ：今回の調査では、現地表下約0.5～1.6m(T.P.＋14.6～13.5m)間の層厚約１ｍを測る地層から弥生時代中期頃と推定される遺物を検出した。遺物は小破片であるが、出土状況からは当該期のなかでも数時期にわたって連綿と生活が営まれた様子がうかがえる。また、現地表下約1.7m前後(T.P.＋13.5m)付近においては、当該期の遺構の存在を想定させる起伏を確認した。

因みに当地点の西側においては、平成４年度に八尾市教育委員会が遺構確認調査を実施しており、弥生時代中期に比定される遺物とともに当該期の遺構が検出されている。今回の地点にも「天王の杜」を中心とした同時期の集落跡の存在が追加されることとなった。　　(岡田)



第23図　出土遺物実測図Ⅰ（Ｓ＝1/4）



第24図　出土遺物実測図Ⅱ（石器　Ｓ＝1/3）

参考文献

・吉田野乃　1993「15．恩智遺跡(92－352)の調査」『八尾市文化財調査報告27　平成４年度国庫補助事業』八尾市教育委員会

・森本めぐみ　2002「Ⅵ恩智遺跡第11次調査(ＯＪ2001－11)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告75』財団法人八尾市文化財調査研究会

17　恩智遺跡(2003－442)の調査

1．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市恩智北町４丁目510番１の一部

3．**調査期間：**平成16年５月24日

4．**調査方法：**規模約1.2×1.2m、面積約1.44m² １箇所について、現地表(T.P.＋38.2m前後)下1.2m前後までを調査した。調査におけるレベル高は、八尾市作成１/2500地図に記載のレベル高値を参考に、調査地北東部に位置するＴ字路中央をT.P.＋40.0mと仮定し、これを使用した。

5．**調査概要：**現地表下1.2mまでは、客土・盛土であった。遺構・遺物の検出はなし。　（樋口　薫）

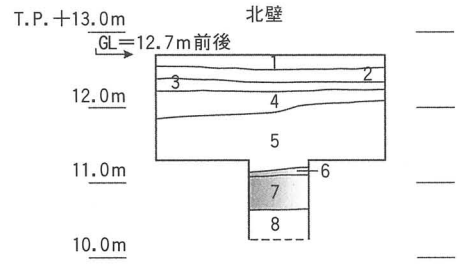
18　恩智遺跡(2004－201)の調査

1．**調査名：**分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

2．**調査地：**八尾市恩智北町３丁目32番、33番１

3．**調査期間：**平成16年９月22日

4．**調査方法：**規模約3.0×3.0m、面積約9.0m² １箇所について、現地表下2.5m前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成１/2500地図に記載のレベル高値(調査地北東に位置する旧国道170号線の中央：T.P.＋14.2m)を使用した。



第25図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

5．**調査概要：**【地層】現地表下2.5m前後までに８層の地層を確認した。１層は現代の畑に伴う耕作土(層厚約0.2m)。２～５層は、黄褐色～黒褐色粘土質シルト～粗粒砂である。１～５cmの角礫が混在する地層で、東から西に向かって若干高度を下げながら堆積している。生駒山地西麓部に展開する扇状地に堆積した水成層と推測される。６層は黒色細礫混シルト質粘土～粘土質シルト。著しく土壌化を呈した地層である。遺物などは混在しないが、本層上面が一時期の生活面であった可能性は極めて高い。７層はオリーブ黒色細礫混粘土質シルト。６層に比べ土壌化の進行は鈍い。８層は灰色粗粒砂～細礫。２～５層同様、扇状地性の堆積物と推測される。

【検出遺構・出土遺物】なし。

6．**まとめ：**特筆すべき成果として、現地表下1.5m前後で検出した６層に注目したい。管見によれば、近鉄恩智駅東側で実施された当調査研究会第14次調査で検出の弥生時代中期の土壌化層に類似する。したがって、本地層上面を追いかけていけば、遺構が検出される可能性が極めて高い。今後、周辺で調査が行われる際には注意されたい。　（樋口）

参考文献

・樋口　薫　2003「Ｉ恩智遺跡第14次調査(ＯＪ2003-14)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告78』（財)八尾市文化財調査研究会

19　恩智遺跡（2004－172）の調査

1．**調査名：**共同住宅建設に伴う遺構確認調査

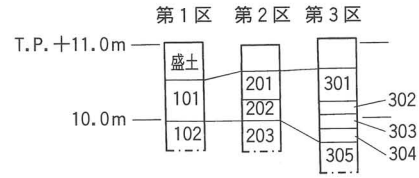
2．**調査地：**八尾市恩智北町１丁目16番

3．**調査期間：**平成16年12月24日

4．**調査方法：**調査区３箇所(西から第１～３区)設定した。高さの基準は調査地東10mの藤田橋東詰(T.P.＋12.1m)から移動した。

5．**調査概要：**各地区とも盛土直下に砂が堆積しており、底からの湧水が激しく、予定の深さ(第１・２区－1.5m、第３区－2.5m)までは掘削できなかった。砂層は東ほど厚く、砂層直下で確認した層は、第１区では粘土質シルト(102層)、第３区では粘土質シルトを含む極細粒砂(305層)である。

6．**まとめ：**今回確認した砂層は、固定される以前の恩智川



101　10YR5/6黄褐色粗粒砂（酸化鉄含む）
102　5B4/1暗青灰色粘土質シルト
　　(下部に極細粒砂含む)
201　10YR7/3にぶい黄橙色粗粒砂
202　10YR5/6黄褐色粗粒砂
203　5BG4/1暗青灰色極細粒砂混粘土質シルト
　　～砂質シルト
301　10YR5/6黄褐色粗粒砂
302　10YR7/3にぶい黄橙色粗粒砂
303　10YR7/3にぶい黄橙色粗粒砂に
　　5BG4/1暗青灰色砂質シルトのブロック
304　10YR7/1灰白色粗粒砂
305　5BG4/1暗青灰色砂質シルト～極細粒砂

第26図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

流路に因むものと考えられる。過去に付近で検出されている弥生～古墳時代の生活面は、さらに下部に存在しているものと考えられる。（成海）

参考文献

・田代克己ほか　1980『恩智遺跡Ⅰ』瓜生堂遺跡調査会

・高萩千秋　1989「Ⅲ恩智遺跡（第１次調査）」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』（財）八尾市文化財調査研究会報告23　（財）八尾市文化財調査研究会

20　楽音寺（2004－188）の調査

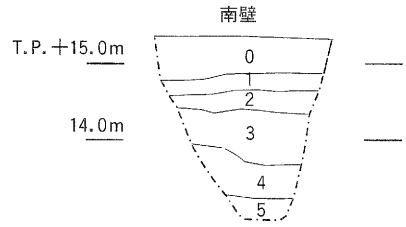
１．**調査名**：個人住宅建設に伴う遺構確認調査

２．**調査地**：八尾市楽寺４丁目86番及び87番

３．**調査期間**：平成16年８月17日

４．**調査方法**：個人住宅建設予定の東部に2.5×2.5m規模の調査区を１箇所設定。

５．**調査概要**：現地表下2.5mまでの間で６層（０～５層）の地層を確認した。０層は客土。層厚50～60cm。１層はN7/0灰色砂質シルト。作土層。２層は2.5Y7/4浅黄色砂質シルト。３層は5BG7/1青灰色粘土質シルト。グライ化が顕著で、西部にいくにつれて層厚が漸増している。４層は10YR3/1黒褐色粘土質シルト。植物遺体が優勢な不均質な層相である。近代遺物を含む。５層はN4/0灰色粘土。層厚30cm以上。粘性が強い。４層から近代の陶磁器、屋瓦、ガラス製品が出土している。



第27図　地層断面図（S＝1/100）

６．**まとめ**：当地付近には近代まで池が存在したことが確認されており、調査で確認した４層の層相がそれに対応するものと考えられる。（原田）

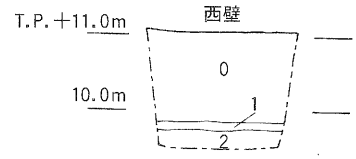
21　木の本遺跡（2003－413）の調査

１．**調査名**：共同住宅建設に伴う遺構確認調査

２．**調査地**：八尾市木の本１丁目３番２、３番４

３．**調査期間**：平成16年６月17日

４．**調査方法**：1.8m四方の調査区を１箇所設定し、工事深度に準じて現地表（T.P.＋11.1m）下約1.5mまでの掘削を実施した。



第28図　地層断面図（S＝1/100）

５．**調査概要**：【層序】現地表下約1.3mまでは、以前の宅地開発に伴う盛土である。以下0.1m前後（T.P.＋9.7～9.8m）は近現代に比定される耕作土、さらに下は緑灰色シルト（層厚0.2m以上）となる。

６．**まとめ**：今回の調査地の西側では、昭和57年度に当研究会による調査が実施されている。その結果、現地表下0.4～0.6m間で平安時代中期（10世紀頃）に比定される遺物包含層、さらにその下面で当該期の土師器皿・黒色土器椀等多量の遺物からなる土器溜め状遺構が検出されている。しかし、今回の調査では対象となる深度が、該期（平安時代中期）にまで達しなかった。それは盛土の厚さから勘案して、先の開発以後に実施された宅地化造成が要因となる。（岡田）

22　久宝寺遺跡（2004－72）の調査

１．**調査名**：店舗・立体駐車場建築に伴う遺構確認調査

２．**調査地**：八尾市大阪竜華都市拠点土地区画整理事業３街区２画地

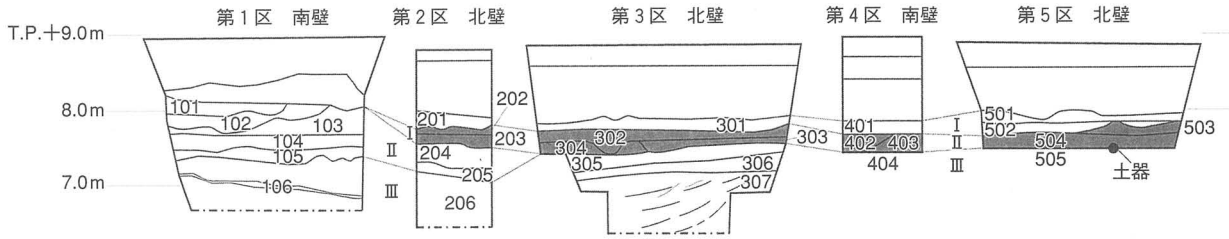
３．**調査期間**：平成16年６月１日

４．**調査方法**：調査地の東部に３箇所（１～３区）、西部に２箇所（４・５区）の調査区を設定した。調査対象は、１～３区が現地表下2.3mまで、４・５区は現地表下1.3mまでである。高さの基準は北70mの仮ベンチマーク（T.P.＋9.3m）から移動した。２区では、湧水のため危険な状態となったため、４区では、調査区の北側2/3が深さ２m以上撹乱を受けていたため、部分的な調査しかできなかった。

5．調査概要：現地表面の高さはT.P.＋9m前後を指し、0.8～1.0m程度の盛土・客土以下、旧耕土（Ⅰ）に至る。1区では、旧耕土（Ⅰ）直下に島畑盛土の可能性のある103層、以下に粘性の強い104・105層（Ⅲ）がある。T.P.＋7.4mで河川流出土（Ⅳ）に達する。ここからの湧水は多い。2～5区では、旧耕土（Ⅰ）以下にマンガン・鉄を含む褐色系の地層（Ⅱ－断面図黒塗りの部分）があり、5区504層からは、布留傾向～布留式甕が出土した。T.P.＋7.5mで河川流出土（Ⅲ）に達する。ここからの湧水はきわめて多い。

6．まとめ：2～5区のⅡ層は、これまでに周辺で確認している古墳時代中期～平安時代頃までの土壌化層に対応するものである。東部の1～3区と西部の4・5区を比較すれば、西部の方が地層も厚く、安定して堆積しているようである。全域で確認したⅢ層は、古墳時代中期までに埋没した数条の河川であろう。

（成海）



第1区
101　10YR4/2灰黄褐色中礫混砂質シルト
102　10YR6/4にぶい黄橙色中礫混砂質シルト
103　5BG6/1青灰色巨礫混粘土質シルト
104　N5/0灰色極細粒砂～中礫混粘土質シルト
105　N5/0灰色粘土
106　N6/0灰色極細粒砂に粘土質シルトの薄いラミナ

第2区
201　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルトと5BG4/1暗青灰色粗粒砂混粘土質シルトのブロック
202　10YR5/4にぶい黄褐色中礫混粘土質シルト
203　10YR6/4にぶい黄橙色極細粒砂混粘土質シルト
204　2.5Y6/1黄灰色極細粒砂混砂質シルト
205　2.5Y6/6明言い褐色砂質～粘土質シルト
206　2.5Y7/3浅黄色細粒砂

第3区
301　5BG4/1暗青灰色粗粒砂混砂質シルト
302　10YR6/6明黄褐色粘土質シルトと10YR6/2灰黄褐色粘土質シルトのブロック
303　10YR6/6明黄褐色砂質シルトと10YR6/2灰黄褐色粗粒砂のブロック
304　2.5GY7/1明オリーブ灰色極細粒砂
305　10YR8/3浅黄色粗粒砂
306　10YR8/3浅黄色粘土質シルト混中～粗粒砂
307　5BG6/1青灰色砂質シルト～粗粒砂に10YR4/1褐灰色粘土質シルトのラミナ

第4区
401　10YR4/1褐灰色粘土質シルトに5BG4/1暗青灰色粘土のブロック
402　10YR6/1褐灰色極細粒砂～砂質シルト
403　10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト
404　10YR4/6褐色細粒砂

第5区
501　5BG3/1暗青灰色粗粒砂～礫混粘土質シルト
502　5BG4/1暗青灰色粗粒砂～礫混砂質シルト
503　10YR6/4にぶい黄橙色粗粒砂混粘土質シルト
504　10YR4/6褐色粗粒砂～礫混粘土質シルト
505　10YR4/6褐色細粒砂

第29図　地層断面図（S＝1/100）

23　久宝寺遺跡（2004－123）の調査

1．調査名：店舗付共同住宅建設に伴う遺構確認調査

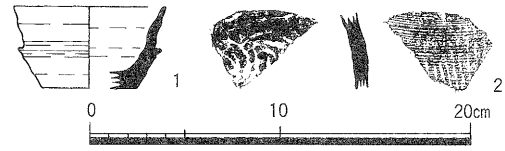
2．調査地：八尾市大字亀井940－9（3街区第1画地）

3．調査期間：平成16年7月1・2日

4．調査方法：建物基礎部分に4.5×4.5mの調査区を3箇所、3.0×2.0mの調査区を1箇所、5.0×3.0mの調査区を1箇所設定した。調査順に南西側を第1区、北西側を第2区、南東側を第3区、北側を第4区、北東側を第5区と呼称する。高さは調査地の北側の道路（JR久宝寺駅南側東西道路）上にある標高値（T.P.＋9.291m）を使用した。

5．調査概要：【第1区】現地表（T.P.＋9.0m）下約4.7mまでに13層の堆積を確認した。0層は盛土で、1層は5B4/1暗青灰色細粒砂混粘土の旧耕作土である。2層は10YR5/8黄褐色細粒砂混粘土で、細粒シルトのブロックが混入する。3層は10YR4/4褐色粗粒シルト混粘土。4層は10YR3/4暗褐色粗粒シルト混粘土である。2～4層は上面が土壌化している。2層からは土師器、3層からは須恵器（1）が出土した。1は底部平底の鉢である。5層は2.5Y7/6明黄褐色粗粒シルト。6層5B5/1青灰色細粒砂混粘土で、上面は凸凹があり、攪拌を受ける。7層は、5B6/1青灰色細粒シルト。8層は5B3/1暗青灰色粘土。9層は10BG4/1暗青灰色細粒砂と粗粒シルトのラミナである。7層と9層は水成層。10層は5G2/1緑黒色粘土。11層は10BG2/1青黒色粘土で、上面は攪拌を受ける。12層は10BG6/1青灰色細粒シルトと細粒砂

のラミナである。近隣の調査結果から２～４層は古墳時代中期～江戸時代、６層は古墳時代前期(布留式期)、11層は古墳時代初頭の地層に相当すると考える。



第30図　出土遺物実測図（Ｓ＝1/4）

【第２区】現地表(T.P.＋8.8m)下約4.5mまでに13層の堆積を確認した。０層は盛土。１層は10YR2/1黒色細粒砂混粘土の旧耕作土である。２層は10BG4/1暗青灰色細粒砂混粘土。３層は10BG5/1青灰色細粒砂混粘土。４層は10YR7/8明黄褐色細粒シルト質粘土で、５層は10YR6/1褐灰色粘土である。４・５層はマンガン斑がみられ、上面は土壌化している。６層は10BG5/1青灰色細粒～粗粒シルトのラミナ。７層はN5/0灰色粘土で、植物遺体を含んでいる。８層はN3/0暗灰色粘土で、上面は攪拌を受けており水田であると思われる。９層は5B5/1青灰色細粒砂の水成層である。10層は5B6/1青灰色粘土。11層は5B3/1暗青灰色粘土で、植物遺体を含む。12層はN5/0灰色細粒～粗粒砂で水成層である。近隣の調査結果から４・５層は古墳時代前期(布留式期)、８層は古墳時代初頭、11層は弥生時代中期の地層に相当すると考える。

【第３区】現地表(T.P.＋9.0m)下約4.3mまでに11層の堆積を確認した。０層は盛土。近世の井戸を検出した。検出した東西幅は約2.0m、南北幅は約1.0m、深さは約0.3mである。井戸枠には瓦を使用しており、枠の径は0.7mを測る。１層は7.5YR6/8橙色細粒砂混粘土で、マンガン斑がみられ粘土質細粒シルトのブロックが混入する。この層からは須恵器の甕(２)の破片が出土した。２の内面は同心円タタキ、外面は平行線タタキのち回転カキメを施す。２層は10YR7/6明黄褐色細粒シルト質粘土。３層は2.5Y7/6明黄褐色粘土質細粒シルト。４層は2.5Y6/1黄灰色粘土。５層は2.5Y7/1灰白色粗粒シルトの水成層。６層は5Y7/1灰白色粘土。７層は5Y3/1オリーブ黒色細粒シルト質粘土で、６・７層は上面に植物遺体を含み、攪拌を受ける。７層上面は凹凸が認められ、この凹凸は足跡と思われる。７層上面では畦畔を検出した。これらのことから６・７層は水田であると判断する。８層は10BG6/1青灰色細粒～粗粒シルトのラミナである。９層は10Y3/1オリーブ黒色粘土。10層は5B5/1青灰色細粒～粗粒砂のラミナ。近隣の調査結果から６・７層は古墳時代前期(布留式期)～古墳時代中期の地層に相当すると考える。

【第４区】現地表(T.P.＋8.8m)下約1.6mまでに４層の堆積を確認した。０層は盛土。１層はN2/0黒色細粒砂混粘土の旧耕作土。２層は5B5/1青灰色粗粒砂混粘土。３層は5B6/1青灰色粗粒シルト質粘土である。近隣の調査結果から２・３層は古墳時代中期～江戸時代の地層に相当すると考える。

【第５区】現地表(T.P.＋8.9m)下約3.0mまでに９層の堆積を確認した。０層は盛土。１層は5B4/1暗青灰色細粒砂混粘土の旧耕作土。２層は10YR4/4褐色細粒砂混粘土。３層は10YR6/1褐灰色細粒砂混粘土でマンガン斑がみられ、粘土のブロックが混入する。上面土壌化しており、土師器や瓦器の破片が出土した。４層は7.5YR4/2灰褐色細粒砂混粘土で、上面は土壌化している。５層2.5Y5/1黄灰色細粒～粗粒シルトのラミナ。６層は2.5Y6/1黄灰色細粒シルト質粘土。７層はN3/0暗灰色粘土で、細粒シルト質粘土のブロックが混入する。上面は攪拌を受ける。８層は5B6/1青灰色細粒～粗粒シルトのラミナ。３層は出土遺物から鎌倉時代以降に相当する。また、４層は近隣の調査結果から古墳時代前期(布留式期)～鎌倉時代、７層は古墳時代前期以前の地層に相当すると考える。

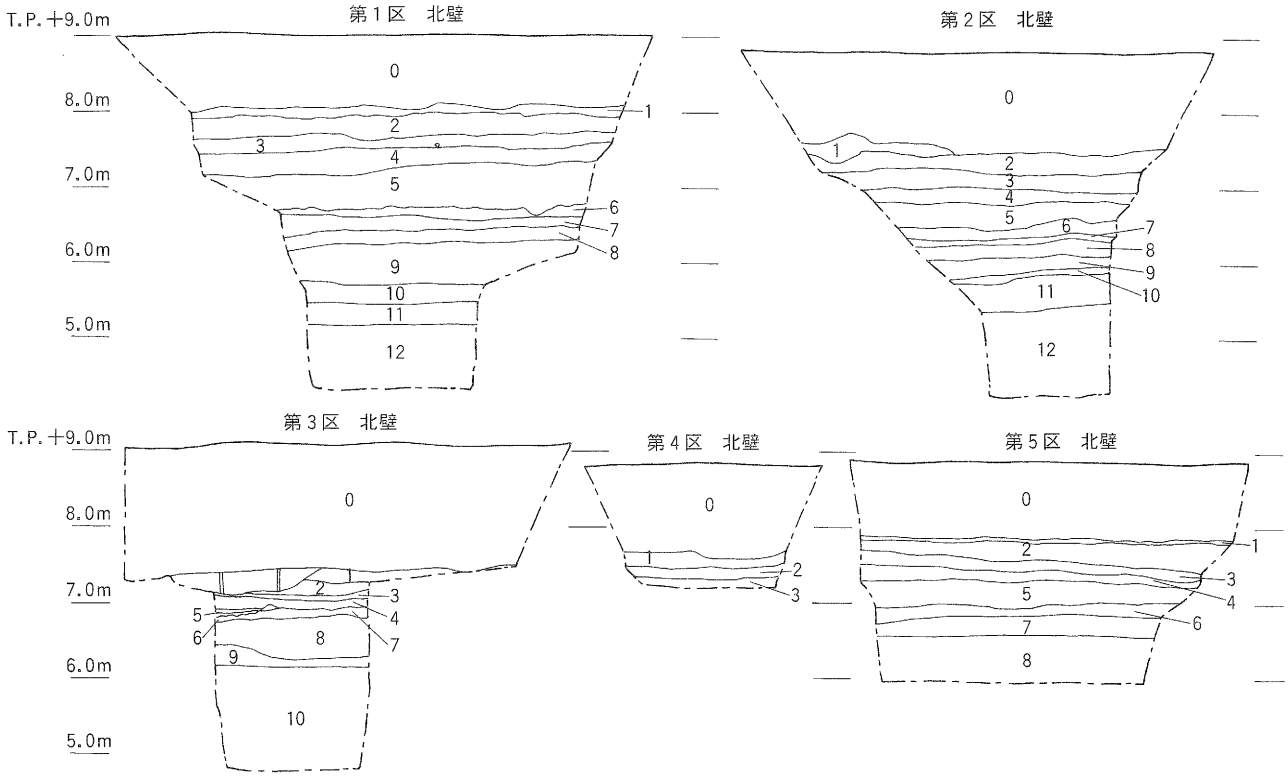
６．まとめ：上記のことから、弥生時代や古墳時代初頭から江戸時代の遺構が今回の調査地にも存在している可能性が高いと思われる。　(西村)

参考文献

・原田昌則他　2001『久宝寺遺跡第24次発掘調査報告書－大阪竜華都市拠点地区竜華東西線３工区の掘削工事に伴う－』(財)八尾市文化財研究会報告69　(財)八尾市文化財研究会

・原田昌則他　2004「Ⅰ久宝寺遺跡(第28次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告77』(財)八尾市文化財研究会

・西村　歩他　2003『八尾市亀井地内所在　久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅴ』－大阪竜華都市拠点土地区画整理事業(都市機能更新事業)に伴う発掘調査－(財)大阪府文化財センター調査報告書　第103集　(財)大阪府文化財センター



第31図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

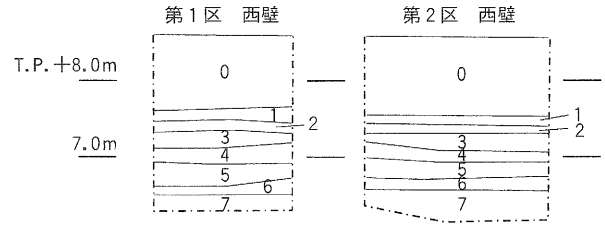
24　久宝寺遺跡（2004－174）の調査

１．**調査名**：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

２．**調査地**：八尾市南久宝寺１丁目23－２・３、25－２～４

３．**調査期間**：平成16年10月21日

４．**調査方法**：分譲住宅建設予定地内に２×２ｍ規模の調査区２箇所を設定。北側を１区、南側を２区と呼称。



第32図　第１・２区地層断面図（Ｓ＝1/100）

５．**調査概要**：１区では現地表下2.3ｍまでの間で８層（０～７層）の地層を確認した。０層は客土。１層は旧作土。N4/0灰色砂質シルト。２層は酸化鉄斑が顕著な10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト。３層は酸化鉄斑・マンガン斑が顕著な2.5GY7/1明オリーブ灰色砂質シルト。４層はN6/0灰色粘土質シルト。５層は10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルト。６層は5Y6/1灰色シルト。７層は粘性が強いN4/0灰色シルト質粘土である。

２区では現地表下2.4ｍまでの間で８層（０～７層）の地層を確認した。１区とほぼ同様の層相が確認されており、１区と共通する地層は１・３・４・５・７層である。２層はグライ化が顕著な10BG6/1青灰色砂質シルト。６層は10YR3/2黒褐色粘土質シルト。５・６層からは土師器の小片が出土している。

６．**まとめ**：２区の５・６層から土師器片が極少量出土しているが、小片のため時期は明確でない。調査地点の北西約200ｍ地点で平成５年度に実施した第17次調査においては、T.P.＋6.5～6.0ｍ付近で弥生時代後期末～古墳時代前期の遺物を含む地層（第８層）が確認されており、２区で検出した５・６層がそれに対応するものと推定される。（原田）

参考文献

・岡田清一　1997「Ⅱ久宝寺遺跡（第17次調査）」『(財) 八尾市文化財調査研究会報告55』(財)八尾市文化財調査研究会

25　久宝寺遺跡（2004－269）の調査

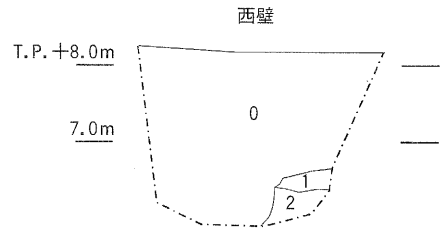
１．**調査名**：スポーツ練習場建設に伴う遺構確認調査

２．**調査地**：八尾市北亀井３丁目（６街区１画地）

３．**調査期間**：平成16年10月28日

４．**調査方法**：スポーツ練習場建設予定地内に2.3×2.3m規模の調査区２箇所を設定。北側の調査区を１区、南側の調査区を２区と呼称した。

５．**調査概要**：１・２調査区の現地表下2.1～2.3mまでの間で３層（０～２層）の地層を確認した。



第33図　第２区地層断面図（S＝1/100）

１区：０層は表土および攪乱層。層厚1.7m。旧建物の建築時および解体整地時における攪乱層で、コンクリート片等を含む。１層は10GY8/1明緑灰色砂質シルト。一部のみ残存。大半が０層により削平を受けている。２層は10YR8/4浅黄橙色極細粒砂～細粒砂で、ラミナの見られる河川堆積層である。層厚は0.4m以上である。

２区：０層は１区０層と同じ。層厚1.5～2.3m。１層は１区１層と同じ。２層は10GY8/1明緑灰色極細粒砂～細粒砂。基本的には１区２層と同様の河川堆積層である。

６．**まとめ**：調査範囲内では、攪乱層が深層におよんでおり、上部層は既に削平された状況であった。１・２区で検出した河川に起因した堆積層の広がりは、調査地点の北部で行った第31次調査（ＫＨ99－31）で確認された古墳時代初頭面に対応する可能性が高い。（原田）

参考文献

・西村公助　2000「14．久宝寺遺跡第31次調査（KH99-31）」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』　財団法人八尾市文化財調査研究会

26　郡川遺跡(2003－369）の調査

１．**調査名**：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

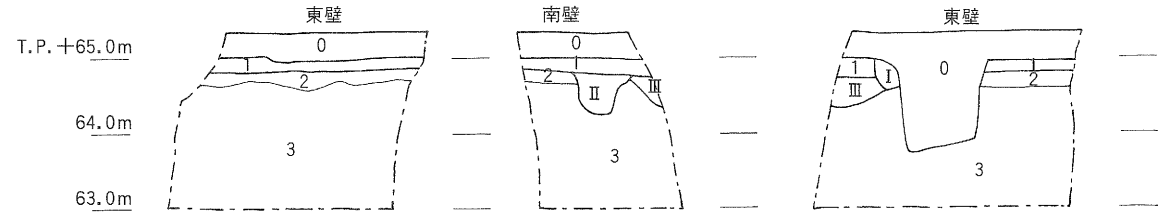
２．**調査地**：八尾市黒谷６丁目171番地１

３．**調査期間**：平成16年３月22日　５月27日・28日

４．**調査方法**：【３月22日】５×1.5mの範囲について調査(地層観察)を行った。

【５月27日・28日】西側に２m四方の調査区を１個所、東側に南北6.5m×東西3.5mの調査区を１箇所の計２箇所の調査区を設定した。西側を第１区、東側を第２区と呼称する。なお、掘削深度については工事深度に準じ、第１区は現地表(T.P.＋65.5m前後)下約1.8m、第２区は0.8mまでを対象とした。

５．**調査概要**：【３月22日】現地表下約2.4mまでに４層の堆積を確認した。０層は盛土。１層は7.5YR4/3褐色細粒砂混粘土で、須恵器・土師器の破片が出土している。２層は7.5YR5/2灰褐色粗粒砂混粘土で、弥生土器の破片が少量出土した。３層は10YR7/6明黄褐色細粒砂で、細礫を多く含む。１層上面から切り込む遺構の埋土はⅠ層10YR4/2灰黄褐色細粒砂混粘土(炭化物含む)で、古墳時代後期以後に比定できる。２層上面から切り込む遺構の埋土はⅡ層10YR3/4暗褐色粗粒砂混粘土とⅢ層7.5YR5/6明褐色粗粒砂混粘土で、弥生時代後期以後に比定できる。



第34図　地層断面図（S＝1/100）

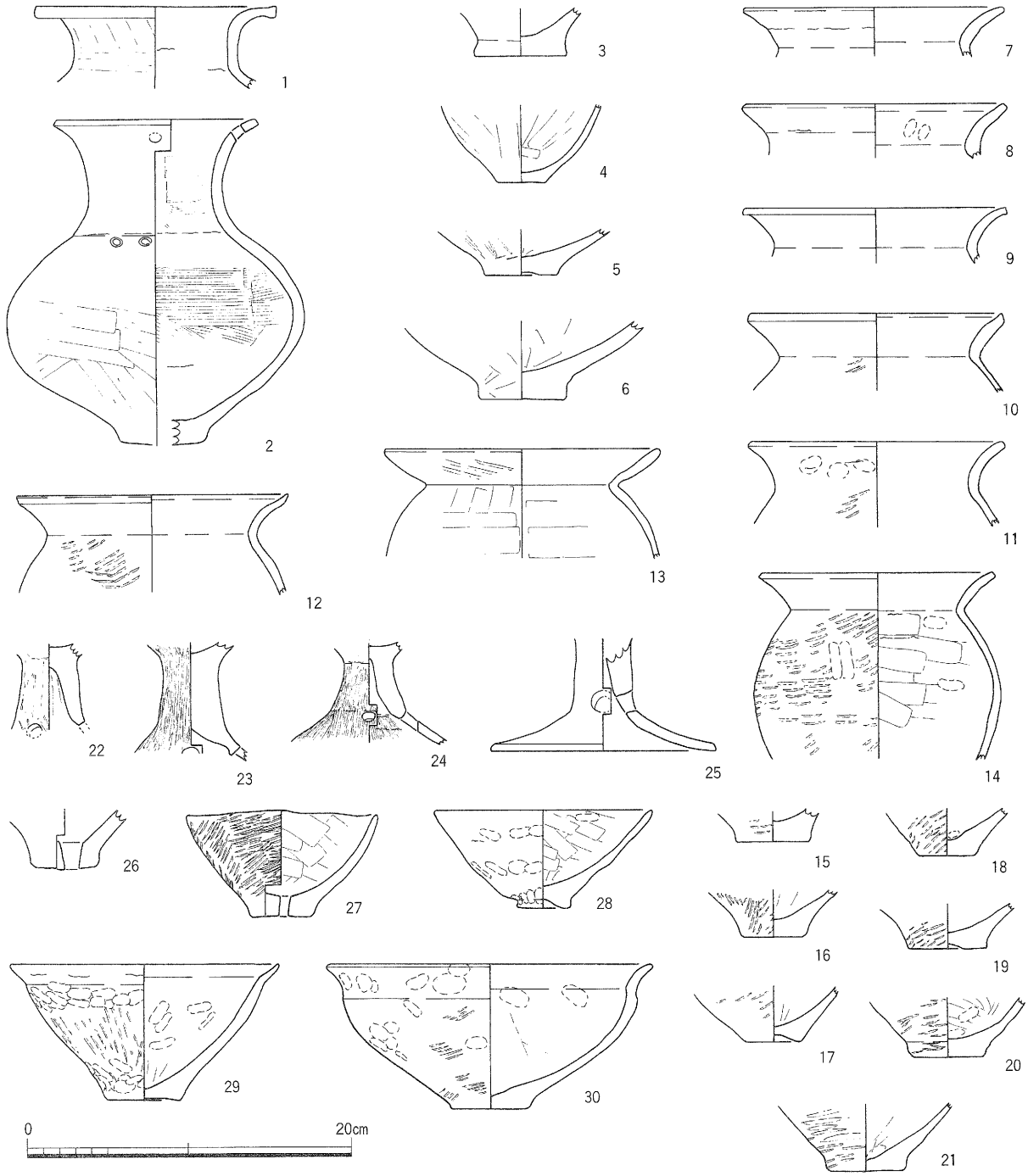
【５月27日・28日】≪第１区≫【層序】第０層－盛土。第１層－10YR4/6褐色砂礫混じりシルト。時期不明の瓦質土器片を含む。第２層－7.5YR3/4暗褐色シルト。古墳時代後期頃の須恵器片を含む。第３層－7.5YR3/1黒褐色シルト。弥生時代後期頃の土器類が多量に含まれる。第４層－10YR8/6黄橙色砂礫混じりシルト。弥生時代後期の遺構構築層にあたる。本層上面(T.P.＋64.4m前後)で、弥生時代後期

の土坑２基（ＳＫ101・102）を検出した。第５層－2.5Y8/4淡黄色中礫混じりシルト。径0.1～0.5mの礫（花崗岩）を多量に含む。

【検出遺構・遺物】現地表下1.0m前後（T.P.＋64.4m前後）のところで、弥生時代後期に比定される土坑２基（ＳＫ101・102）を検出した。

ＳＫ101　調査区の北西隅で東および南側の掘方の一部を検出した。北および西側は調査区外に至る。検出部分の法量は、南北1.0m、東西1.7m、深さ0.36mを測る。埋土は黒色粘土質シルト（ａ層）の単一層である。埋土内からは、弥生時代後期に比定される壷・甕・鉢の破片が出土したが、砕片のため図化はできなかった。

ＳＫ102　調査区の南半部で北および西側の掘方の一部を検出した。南および東側は調査区外に至る。

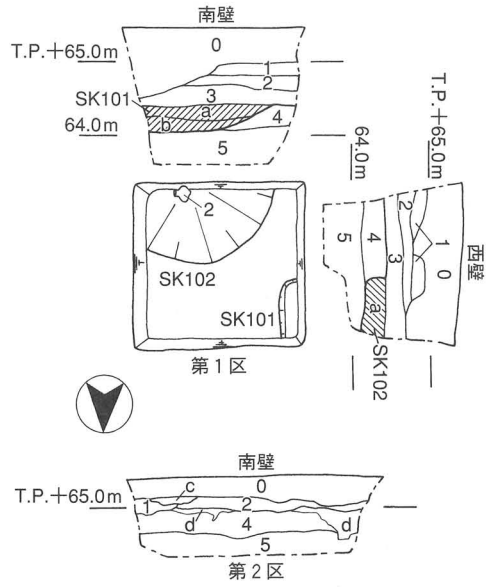


第35図　ＳＫ102出土遺物実測図（Ｓ＝1/4）

検出部分の法量は、南北0.85m、東西0.23m、深さ0.3mを測る。埋土は(a層)－黒色粘土質シルト、下層(b層)－暗灰色粘土質シルトの2層に分層でき、下層(b層)には炭化物が含まれる。埋土内からは、弥生時代後期に比定される広口長頸壷(ほぼ完形品)1点をはじめ、壷・甕・鉢の破片が多量に出土した。そのうち図化できたものは、壷6点(1～6)、甕15点(7～21)、高杯4点(22～25)、鉢5点(26～30)の計30点である。各遺物の法量等については観察表を参照されたい。

≪第2区≫【層序】第1区と異なるところは、第1層と弥生時代後期頃に比定される第3層が確認されないことが挙げられる。古墳時代後期頃に比定される第2層については同レベルで存在しており、当該期の遺構構築の際に弥生時代後期の堆積層が削平されたことが想定される。

【検出遺構・遺物】旧家屋基礎等のカクランにより、遺構は確認されなかった。遺物については、第2層から古墳時代後期頃に比定される須恵器の破片が数点出土した。



第36図　地層図および平面図（S＝1/100）

6．まとめ：今回の調査地の南側で実施された平成11年度市教委調査においても、弥生時代後期と古墳時代に比定される遺構・遺物が検出されている。今回の調査でも同様の遺構・遺物を検出したことから、当地一帯では少なくとも2時期の遺構面が存在することが判明した。　(西村・岡田)

表1　SK102出土遺物観察表（※法量の（　）は復元推定値）

No.	器種	法量(cm)	遺存部	調整および成形
1	広口壷	口径：(14.8)	口縁部1/4	口縁部(外)ヨコナデ、ヘラナデ(内)ヨコナデ、接合痕
2	広口長頸壷	口径：12.4 器高：(20.4) 体部最大径：18.6 底径：(5.3)	底部全体と体部の下半一部欠損	口縁部(外)ヨコナデ、穿孔（内）ヨコナデ、ハケナデ 頸部(内外)接合痕 肩部(外)竹管文 体部(外)ヘラナデ・ヘラケズリ(内)ヘラナデ、接合痕
3	壷	底径：(5.6)	底部2/3	(内外)ナデ
4	壷	底径：2.9	底部のみ	(内外)ヘラナデ、ナデ
5	壷	底径：4.5	底部のみ	(外)ヘラナデのちヘラミガキ(内) ヘラナデ
6	壷	底径：3.2	底部のみ	(内外)ヘラナデ
7	甕	口径：(16.0)	口縁部1/2	口縁部(内外)ヨコナデ(外)接合痕
8	甕	口径：(16.0)	口縁部破片	口縁部(外)ヨコナデ(内)ユビオサエのちヨコナデ
9	甕	口径：(16.2)	口縁部1/4	口縁部(内外)ヨコナデ
10	甕	口径：(15.6)	口縁～頸部のみ	口縁部(内外)ヨコナデ肩部(外)タタキ(内)ナデ
11	甕	口径：(15.5)	口縁部1/3	口縁部(外)ヨコナデ(内)ユビオサエのちヨコナデ
12	甕	口径：(16.8)	口縁～肩部破片	口縁部(内外)ヨコナデ肩部(外)タタキ(内)ナデ
13	甕	口径：(17.0)	口縁～肩部破片	口縁部(外) ユビオサエのちヨコナデ・接合痕(内)ヘラナデ 肩部(外)タタキ(内)ヘラナデ
14	甕	口径：(14.2) 体部最大径：(15.4)	口縁～体部1/3	口縁部(内外)ヨコナデ 頸部～肩部(内)接合痕 体部(外)タタキ(内)ユビオサエのちヘラナデ
15	甕	底径：4.4	底部のみ	(外)タタキ(内)ヘラナデ
16	甕	底径：3.4	底部のみ	(外)タタキ(内)ヘラナデ
17	甕	底径：3.2	底部のみ	(外)タタキ(内)ヘラナデ
18	甕	底径：3.3	底部のみ	(外)タタキ(内)ヘラナデ、ユビオサエ
19	甕	底径：4.8	底部のみ	(外)タタキ(内)ヘラナデ
20	甕	底径：4.4	底部のみ	(外)タタキ(内)ヘラナデ、ユビオサエ
21	甕	底径：(4.6)	底部1/2	(外)タタキ(内)ヘラナデ
22	高杯	残器高：5.4	脚柱部のみ	(外)ヘラミガキ(内)シボリメ
23	高杯	残器高：7.5	脚柱部のみ	(外)ヘラミガキ、穿孔(内)ヘラナデ
24	高杯	残器高：6.4	脚柱部のみ	(外)ヘラミガキ、四方孔(内)シボリメ、ヘラミガキ
25	高杯	裾径：(13.9) 残器高：7.0	脚部1/3	(内外)摩滅で不明瞭、穿孔

26	有孔鉢	底径：3.5	底部のみ	(内外)ナデ、穿孔
27	有孔鉢	口径：(11.6) 器高：6.7 底径：3.4	2/3	(外)タタキ(内)ヘラナデ・底部穿孔
28	鉢	口径：(13.4) 器高：6.2 底径：3.4	1/2	(内外)ユビオサエのちヘラナデ(外)接合痕
29	鉢	口径：(16.7) 器高：8.5 底径：4.4	1/2	口縁部(内外)ヨコナデ、(外)接合痕 体部～底部(外)ユビオサエ、タタキ(内)ユビオサエのちナデ
30	鉢	口径：(20.2) 器高：9.1 底径：4.7	1/3	口縁部(内外)ユビオサエのちヨコナデ 体部～底部(外)ユビオサエ、タタキ(内)ヘラナデ

参考文献

・滝　斎　2001「6．郡川遺跡(1999-627)」『八尾市内遺跡平成12年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告44　平成12年度国庫補助事業　八尾市教育委員会

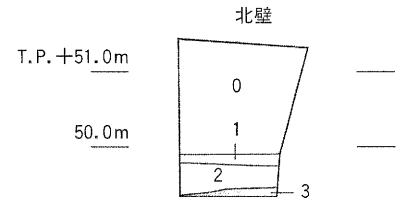
27.　郡川遺跡（2004－176）の調査

1．調査名：個人住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市郡川４丁目190番、206番

3．調査期間：平成16年８月13日

4．調査方法：規模約1.5×1.5m、面積約2.25m² １箇所について、現地表下2.0m前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成1/2500地図に記載のレベル高値(調査地西に位置する府道東高安停車場線の中央：T.P.＋45.9m)を使用した。



第37図　地層断面図（S＝1/100）

5．調査概要：【地層】現地表下1.4～1.5m前後までは現代の客土・盛土(０層)。以下現地表下2.0m前後までの0.5m間で３層の地層を確認した。１層は暗灰色シルト(グライ化)である。谷地形内に堆積した水成層の土壌化部分が本層に相当する。２層は暗オリーブ灰色シルト(グライ化)。谷地形内に堆積した水成層である。３層は灰黄褐色細礫～中礫混シルトである。雲状の酸化マンガンの沈着が著しい。非常に硬く締まっている。地山層である。

【検出遺構・出土遺物】なし。

6．まとめ：今回の調査では、谷地形に堆積したと推測される水成層１・２層と地山層の３層を確認することができた。この谷地形は、郡川遺跡2002－65調査などで確認の谷地形と一連のものと思われる。この推測が可能ならば、本調査地周辺はこの谷地形の南斜面に位置する可能性が高い。　(樋口)

参考文献

・成海佳子　2003「15. 郡川遺跡(2002－65)の調査」『八尾市内遺跡平成14年度発掘調査報告書』八尾市文化財報告48　平成14年度国庫補助事業　八尾市教育委員会

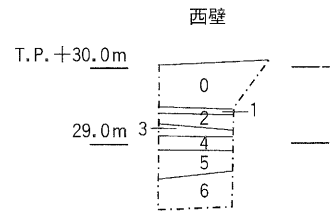
28　郡川遺跡（2003－278）の調査

1．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市郡川２丁目５番１、５番２

3．調査期間：平成16年９月13日、10月22日

4．調査方法：分譲住宅建設予定地の南西部に２×２m規模の調査区１箇所を設定した。



第38図　地層断面図（S＝1/100）

5．調査概要：現地表下1.9mまでの間で７層（０～６層）を確認した。０層は客土。層厚60cm。１層は旧表土。10YR6/1褐灰色砂質シルト。２層は10YR6/2灰黄褐色砂質シルトで、酸化鉄斑が認められる。３層以下は河川に起因した堆積層が連続して認められた。３層はN8/0灰白色細粒砂。４層は中礫を多く含む2.5GY7/1明オリーブ灰色細粒砂。５層は2.5GY8/1灰白色細粒砂～中粒砂。６層は上面に未分解

の植物遺体を含む10GY7/1明緑灰色極細粒砂（層厚40㎝以上）で、50㎝以上の岩石が散見された。遺物は２層および５層から須恵器の小片が極少量出土している。

６．まとめ：３層以下は河川に起因した堆積層が連続しており、河川ないしは谷状地形であったことが推定される。（原田）

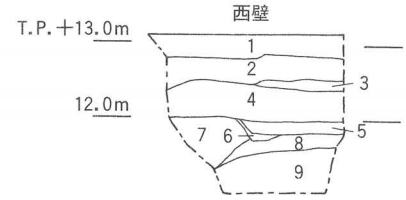
29　郡川遺跡（2004－251）の調査

１．調査名：長屋住宅建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市教興寺４丁目33

３．調査期間：平成16年11月12日

４．調査方法：調査地南部に２ｍ四方の調査区を１箇所設定し、現地表（T.P.＋13.1ｍ前後）から約２ｍまでの掘削を実施した。



第39図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

５．調査概要：【層序】第１層－10YR2/1黒色シルト。現在の水田耕作土である。第２層－10YR6/2灰黄褐色シルト。現在の耕作地が形成される以前の盛土層であると思われる。第３層－7.5YR4/2灰褐色砂礫混じりシルト。調査区全域には広がらず、部分的に散在する地層で、古墳時代中期頃の遺物を少量含む。第４層－10YR3/1黒褐色シルト。やや締りのある堆積層で、一部に炭化物を含む。層内から弥生時代に比定される土器片のほか石器が出土した。第５層－10YR6/3にぶい黄橙色粘土質シルト。調査区の北半部に見られる地層で、上部にはマンガンが少量沈着する。第６層－5YR5/1褐灰色シルト。植物遺体を若干含む。第７層－N3/0暗灰色砂礫混じりシルト。３～５㎝の礫を多量に含む。調査区の南部では上層の第５・６層に切られる。第８層－10BG4/1暗青灰色砂質シルト。水成による堆積層で、締りは良くない。第９層－2.5GY5/1オリーブ灰色砂質シルト。第８層と同様に水成層で、本層からの湧水は著しい。

【検出遺構・遺物】遺構は確認できなかった。遺物は、第３層から古墳時代中期頃と見られる須恵器蓋杯の破片、第４層から弥生時代に比定される土器片数点が出土したが、図化は不能であった。

６．まとめ：当地の近隣では現在までのところ、考古学的な調査が実施されておらず、実態が不明であったが、今回の調査によって、現地表下0.6～1.3ｍ（T.P.＋11.8～12.5ｍ）間に、弥生時代～古墳時代の遺物包含層の存在を確認することができた。（岡田）

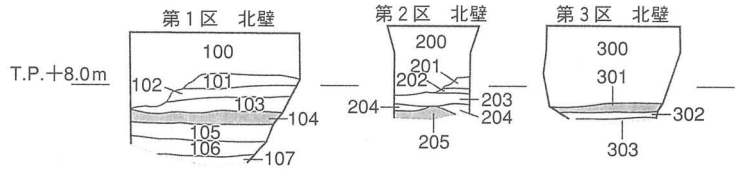
30　小阪合遺跡（2004－76）の調査

１．調査名：老人ホーム建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市青山町３丁目80番

３．調査期間：平成16年６月14日

４．調査方法：調査区は３箇所（１～３区と呼称）。各調査区の平面規模は、１区：2.1×2.1ｍ、２・３区：1.2×1.2ｍである。調査深度は、現地表（T.P.＋8.7～8.8ｍ前後）下1.2～2.1ｍ前後までである。調査におけるレベル高は、八尾市作成1/2500地図に記載のレベル高値（調査地北西部に位置するＴ字路中央：T.P.＋8.6ｍ）を使用した。



第40図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

５．調査概要：

【１区】現地表（T.P.＋8.7ｍ前後）下0.6～1.0ｍ前後までは客土・盛土、および攪乱層（100層）。以下現地表下2.1ｍ前後までの1.1～1.5ｍ間で７層の地層を確認した。101～103層は灰色～オリーブ灰色細礫混粘土質シルト～シルトである。いずれも３～５㎝大のブロックが混在する撹拌を受けた地層で、水田耕作土に相当する。この内101層は旧耕作土に相当する可能性が高い。104層は暗色細礫混粘土質シルト～シルト。105層はグライ化の顕著なオリーブ灰色細礫混粘土質シルト～シルトである。106層はオリーブ灰

色粘土質シルト～シルトで雲状の酸化マンガンを多く含む。地層内には土師器や瓦器の細片が混在する。107層以下は、雲状の酸化マンガンを極めて多く含み、硬く締まった、にぶい黄褐色粘土質シルトである。本層上面が中世の遺構面に相当する可能性が高い。

【２区】現地表(T.P.＋8.8m前後)下0.65～0.9m前後までは、客土・盛土、および攪乱層(200層)。以下現地表下1.2m前後までの0.3～0.5m間で５層の地層を確認した。201～204層は、オリーブ灰色～暗オリーブ灰色細礫混粘土質シルト～シルトである。いずれの地層も３～10cm大のブロックが混在しており、撹拌を受けている。中世以降の水田耕作土であろう。205層は暗オリーブ灰色細礫混粘土質シルト～シルト(３～５cm大ブロック混在)。104層同様の暗色帯と推測される。

【３区】現地表(T.P.＋8.8m前後)下1.0m前後までは、客土・盛土、および攪乱層(300層)。以下現地表下1.2m前後までの0.2m間で３層の地層を確認した。301層はオリーブ黒色細礫混粘土質シルト。104、205層同様の暗色帯と思われる。302、303層は灰色粘土質シルト～シルトである。グライ化が顕著である。水成層か。

６．まとめ：今回の調査地に北接する地点で実施された当調査研究会第10次調査では、T.P.＋7.1m前後で古墳時代前期の、同7.6m前後で中～近世の遺構群を検出している。したがって、当初、これらの遺構の南への広がりを想定していた。結果は上記の通りである。まず古墳時代前期については、掘削深度の関係上、この時期の遺構面レベルに達していないため、詳細は不明である。一方、中世以降については、１区106層が中世の遺物を含む地層であることなどから、当該期の遺構面の広がりが予想される。しかし、調査面積が小さいことなどから、明確な遺構の検出は叶わなかった。　(樋口)

参考文献

・高萩千秋　1990「第４章　第10次調査」『小阪合遺跡―八尾市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査―＜昭和61年度第８次　昭和62年度第10・13次　昭和63年度第16次調査報告＞(本文編)』財団法人八尾市文化財調査報告26　(財)八尾市文化財調査研究会

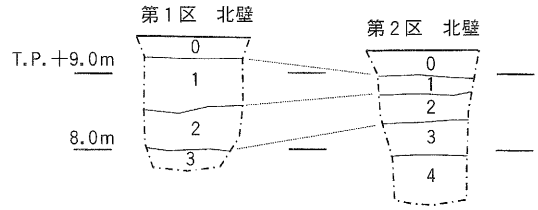
31　成法寺遺跡(2004―119)の調査

１．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市南本町２丁目60番１・65番・66番２及び59番１・59番２・59番３・59番４・59番５・59番６・59番７・66番１・66番４の各一部

３．調査期間：平成16年12月27日

４．調査方法：人孔部分に2.0×2.0mの調査区を２箇所設定し調査を行った。東側を第１区、西側を第２区と呼称する。レベル高は調査地の北西側約50mにある道路上の標高値(T.P.＋9.3m)を使用した。



第41図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

５．調査概要：【第１・２区】現地表下約2.0mまでに５層の堆積を確認した。０層は盛土で、厚さ約0.3mを測る。１層は10YR4/2灰黄褐色細粒砂混粘土で土師器・須恵器・瓦器などの破片を含む近世～近代にかけての整地層である。２層は10YR5/8黄褐色細粒砂、３層は7.5YR4/4褐色細粒シルトと粗粒シルトのラミナ、４層は10YR5/6黄褐色細粒砂と粗粒砂のラミナで、２～４層は河川堆積である。遺構の検出および遺物の出土はなかった。　(西村)

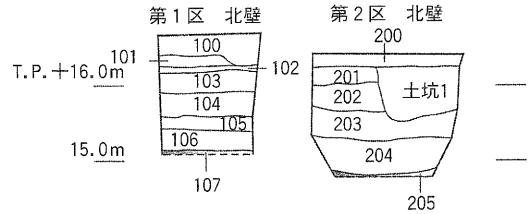
32　神宮寺遺跡（2004―291）の調査

１．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市神宮寺５丁目78・79の一部

３．調査期間：平成16年11月10日

４．調査方法：規模約1.5×1.5m、面積約2.25m²２箇所(北から第１・２区と呼称)について、現地表



第42図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

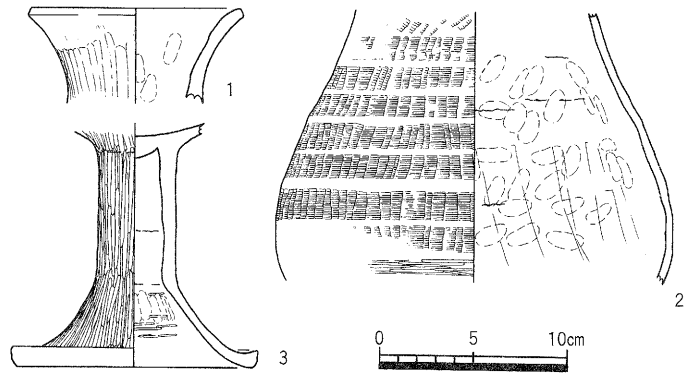
(第１区：T.P.＋16.3m前後　第２区：T.P.＋16.6～16.7m)下1.5m前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成１/2500地図に記載のレベル高値(調査地の北西に位置する旧国道170号線と市道の交差点中央：T.P.＋15.9m)を使用した。

５．調査概要：【地層】(第１区)現地表下0.3m前後までは、客土・盛土(100層)。以下現地表下1.5m前後までの1.2m間で７層の地層を確認した。101層は暗灰黄色極粗粒砂～細礫混粘土質シルト～極細粒砂で、旧耕作土に相当(層厚約0.15m)する。102層はにぶい黄褐色シルト～極細粒砂。雲状の酸化マンガンを多く含む。103・104層は灰黄褐色極粗粒砂～細礫混粘土質シルト～シルト。雲状の酸化マンガンを含む。105層は灰黄褐色極粗粒砂～細礫混シルト～極細粒砂。106層はグライ化の顕著な暗オリーブ灰色極粗粒砂～細礫混シルト～細粒砂。扇状地性の水成層と推測される。107層はグライ化の暗緑灰色極粗粒砂～細礫混粘土質シルト～細粒砂。非常に硬く締まっている。土壌化層である。

(第２区)現地表下0.2m前後までは、客土・盛土(200層)。以下現地表下1.5m前後までの1.3m間で５層の地層を確認した。201層は灰黄褐色極粗粒砂～細礫混粘土質シルト～細粒砂である。202層は暗オリーブ灰色極粗粒砂～細礫混粘土質シルト～細粒砂(グライ化)。203・204層はオリーブ灰色～緑灰色極粗粒砂～細礫混粘土質シルト～細粒砂。両層もグライ化が進む。扇状地性の水成層と推測される。205層は暗オリーブ灰色極粗粒砂～細礫混シルト～極細粒砂(グライ化)。上面は非常に硬く締まっており、土壌化層と推測される。本層内からは、弥生時代中期の土器が出土した。**土坑１**は断面でのみ確認した近・現代の穴である。埋土はオリーブ黒色中粒砂～10cm大の礫で、瓦やゴミが混在する。

【検出遺構】両区ともになし。

【出土遺物】第２区では、掘削時に古式土師器細片が出土したほか、205層内より、弥生時代中期に属する土器が出土した。１は古式土師器の広口長頸壷口縁端部～口頸部の細片である。口頸部は緩やかに外反し、端部には外傾の平坦面が見える。口縁部は横ナデを行い、口頸部外面は縦位ハケナデ後縦位ミガキを施す。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)を呈し、胎土には極粗粒砂～１㎜大の細礫が少量含まれる。２・３は弥生時代中期(河内Ⅳ－２様式)に属するものである。２は広口長頸壷の口頸部～体部である。口頸部～体部上半部には簾状文が施される。簾状文は８条(12本／１条：原体幅は１㎝)確認できる。なお、最上の簾状文のみ、左上がりに施される。体部最大径より下方には横位ミガキが見える。内面は指頭成形後、縦位のナデや板ナデを行う。３は高杯の柱状部～裾端部細片である。中空の柱状部は直線的に垂下する。裾部は若干外反気味に開き、端部には内傾のにぶい平坦面が見える。調整は、外面が縦位ミガキ、裾部内面が指頭成形後横位ミガキを施す。裾端部は両面ともに横ナデ。２・３ともに色調は暗灰色(2.5Y5/2)を呈し、胎土には極粗粒砂～３㎜大の細礫が含まれる。また角閃石が多量に混在する。生駒山地西麓産の土器である。



第43図　地層内出土遺物実測図（Ｓ＝1/4）

６．まとめ：今回の調査では、第２区205層内より出土した弥生時代中期の土器が特筆される。これらの遺物は、①密集した状態で出土している、②土器は磨滅を受けていない、などの特徴を有することから、これらの土器が当該期の遺構に伴う遺物であった可能性が高い。今回の調査地の南約130mで実施された当研究会第１次調査では、弥生時代中期～後期の土器棺をはじめとする遺構群を検出しており、これらの遺構群の北への広がりを肯定し得る成果として注目したい。　(樋口)

参考文献

・岡田清一　1997「Ⅲ神宮寺遺跡(第１次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告57』(財)八尾市文化財調査研究会

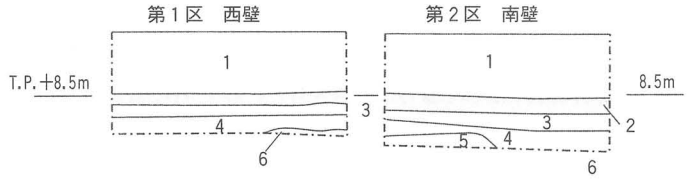
33　太子堂遺跡(2004－183)の調査

1．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市太子堂4丁目16－1の一部、16－3の一部

3．調査期間：平成16年8月18日

4．調査方法：建物基礎部分に２箇所の調査区を設定した。なお、調査区は北を第１区、南を第２区と呼称した。規模はともに３×３ｍである。レベル高については八尾市作成1/2500地図9に記載されているレベル高値(調査地の東側道路上：T.P.＋9.1m)を使用した。



第44図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

5．調査概要：現地表下約1.6m前後まで掘削し、６層の堆積を確認した。１層は盛土(層厚80cm前後)。２層は旧耕作土(層厚15～20cm)。３層は暗青灰色粘土混シルト(層厚15～25cm)で、磨耗した土師器の小片を１片検出。４層は青灰色微砂混シルト(層厚10～25cm)。５層は明茶灰色粘土(層厚20cm)で、第１区のみ確認。６層は淡青灰色微砂(層厚10cm以上)である。なお、６層より地下水があり、これより以下の地層については安全面を優先して掘削を断念した。

6．まとめ：今回の調査では、遺構の検出はなかったが、第２区で確認された５層は南東側に続く粘土層の高まりが見られた。また第３層には磨耗した土師器片が含まれていたが時期を特定するには至らなかった。周辺の調査から奈良時代の地層に想定されている。　(高萩)

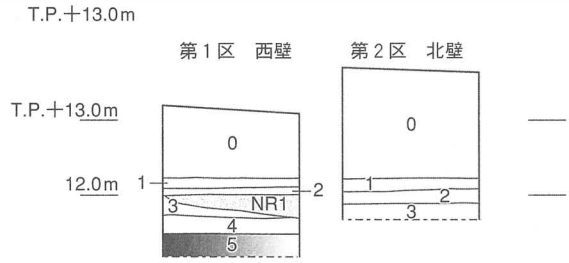
34　大正橋遺跡（2004－164）の調査

1．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市太田８丁目16番１の一部

3．調査期間：平成16年10月22日

4．調査方法：規模約1.8×1.8m、面積約3.24m²２箇所(北から第１・２区と呼称)について、現地表(第１区：T.P.＋13.1～13.2m　第２区：T.P.＋13.6～13.7m)下1.8m前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成１/2500地図に記載のレベル高値(調査地の北西に位置する市道Ｔ字路の中央：T.P.＋12.9m)を使用した。



第45図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

5．調査概要：【地層】(第１区) 現地表下0.9m前後までは、客土・盛土である。以下現地表下1.8m前後までの1.0m間で５層の地層を確認した。１層はグライ化の顕著な暗灰色粘土質シルトである。旧耕作土に相当(層厚約0.15m) する。２層はオリーブ灰色粘土質シルト。こちらも水田耕作土の可能性が高い。３層は灰黄褐色粘土質シルト。雲状の酸化鉄分を少量含む。４層は灰黄褐色粘土質シルトである。雲状の酸化鉄分を極めて多く含む。５層は灰色シルト質粘土～粘土質シルト。水田耕作土の可能性が考えられる。ＮＲ１は断面で確認したもので、３層上面から切り込む流路と推測される。ラミナ構造が見える灰色細粒砂～中粒砂で充填されている。(第２区)現地表下1.4m前後までは客土・盛土である。以下現地表下1.8m前後までの0.4m間で３層(１～３層)の地層を確認した。なお、１～３層は、第１区の１～３層に対応する。

【検出遺構・出土遺物】第１区の断面観察において流路を検出した。遺物の出土はなし。

6．まとめ：第１区３層上面で検出したＮＲ１は、断面観察から復原すると、第１区の北部を南西-北東方向に伸びるものと推測される。また第１区５層は、色調や粒度組成などから推測すると、水田耕作土の可能性が高い。なお、両者ともに、時期を確定し得る遺物の出土は皆無であった。　(樋口)

35　東郷遺跡(2004―16)の調査

1．調査名：保育園建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市光町１丁目38

3．調査期間：平成16年４月21日

4．調査方法：建物基礎部分に2.5×2.5mの調査区を２箇所設定。南側を第１区、北側を第２区と呼称する。レベル高は調査地の南東側約200mにある大阪府下水道の標高値(T.P.＋7.908m)を使用した。

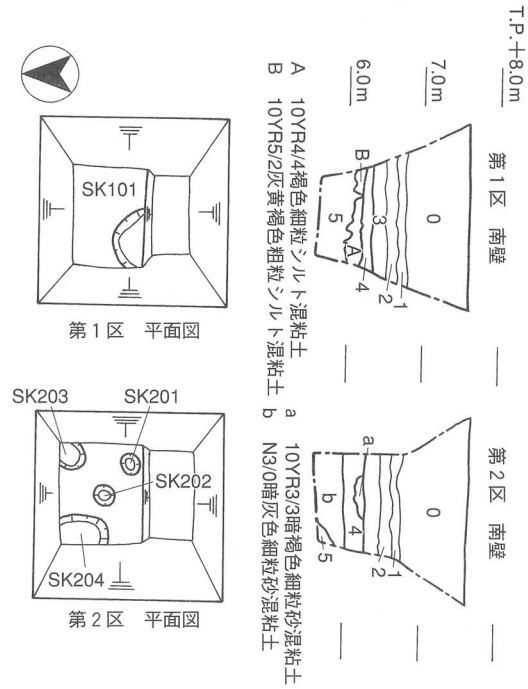
5．調査概要：【地層】現地表下約2.0mまでに５層の堆積を確認した。０層は盛土。１層は10Y5/1灰色細粒砂混粘土の旧耕作土である。２層は2.5Y6/1黄灰色細粒砂混粘土で、マンガン斑が多く認められた。３層は2.5Y7/4浅黄色細粒シルト混粘土。全体的に撹拌されており、中世の整地層と思われる。４層は10YR6/8明黄褐色粗粒砂混粘土で、第２区では上面から切り込む遺構を検出した。時期は平安時代後期頃に比定できる。５層は10Y7/1灰白色細粒シルト～細粒砂の河川堆積である。両調査区ともに上面から切り込む遺構を検出した。時期は古墳時代初頭頃に比定できる。

【第１区】５層上面から切り込む土坑１基(ＳＫ101)を検出した。ＳＫ101は遺構の南西側が調査区外に至るため形状･規模などの詳細は不明である。埋土は10YR4/4褐色細粒シルト混粘土で細粒砂のブロックが混入する。埋土からは古墳時代初頭の土器の破片が出土した。このうち図化し掲載したものは高杯の脚部(１)である。１は直線的に外へ開く脚部で、屈曲し直線的に広がる裾部がつくものと思われる。この他図化できなかったが、庄内式に比定できる甕の破片が出土した。内面ケズリ、外面タタキ(5本/cm)を施し、胎土には角閃石を含む。

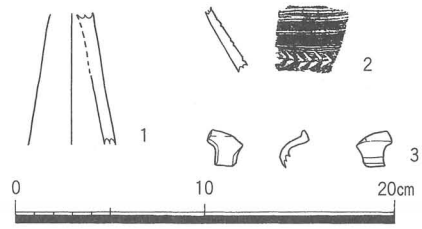
【第２区】４層上面から切り込む土坑４基(ＳＫ201～204)を検出した。ＳＫ201・202はの平面形状は円形で、径約0.25mを測る。深さは約0.15mを測る。ＳＫ203は遺構の北東側が、ＳＫ204は北西側が調査区外に至るため、形状･規模などの詳細は不明である。ＳＫ201～204の埋土は10YR3/3暗褐色細粒砂混粘土で、土師器の破片が極少量出土した。

５層上面では東へ下がる落ち込みを南壁で確認した。

また、この調査区では機械で掘削したあげ土の中から、弥生時代中期前半頃の壷(２)、古墳時代初頭の甕(３)が出土した。２は外面に直線文と綾杉文を施す。３は口縁の形状が東部瀬戸内（讃岐か阿波）地方ものに似ており、搬入品の可能性が考えられる。



第46図　地層断面図・平面図（Ｓ＝1/100）



第47図　出土遺物実測図（Ｓ＝1/4）

6．まとめ：今回の調査地では、古墳時代初頭と平安時代の遺構を検出した。同時期の遺構は北隣の調査地(第36次調査)と南隣の調査地(第44次調査)で検出しており、同時期の居住域が今回の調査地にも存在していることが確認できた。　(西村)

参考文献

・成海佳子　1992「８．東郷遺跡第36次調査(TG91－36)」『平成3年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財研究会

・坪田真一　1998「Ⅱ東郷遺跡(第44次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告61』(財)八尾市文化財調査研究会

36　東郷遺跡(2004―79)の調査

1．**調査名**：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

2．**調査地**：八尾市荘内町２丁目13－１、13－４、13－８、13－９

3．**調査期間**：平成16年７月８日

4．**調査方法**：人孔部分に2.0×2.0mの調査区を３箇所設定し調査を行った。レベル高は調査地の北西側約15mにある道路上の標高値(T.P.＋8.0m)を使用した。

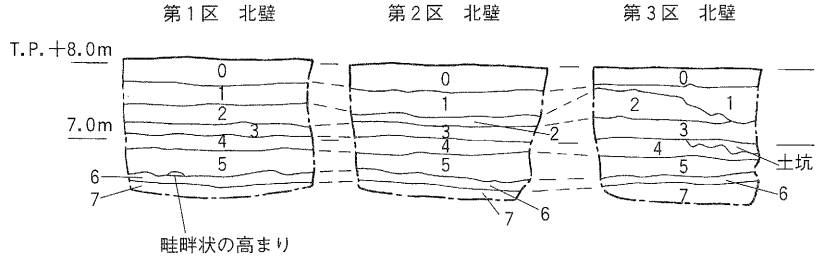
5．**調査概要**：【地層】現地表面の標高はT.P.＋8.0前後を測り、深さ約1.8mまでに８層の堆積を確認した。０層は盛土。１層は10YR7/6明黄褐色細粒シルト質粘土、２層は7.5YR7/2明褐灰色粘土質細粒シルトで、土師器の破片が出土した。３層は7.5YR7/1明褐灰色粘土で、細粒シルト質粘土のブロックが混入する。マンガン斑があり、土師器の破片が出土した。４層は10YR6/2灰黄褐色粘土質細粒シルトで、植物遺体を含む。上面は土壌化している。５層は7.5YR5/1褐灰色細粒砂。６層は5YR6/1褐灰色細粒シルト質粘土で、細粒砂のブロックが混じる。７層は5B3/１暗青灰色粘土で、グライ化している。

【第１区】現地表下約１.0mの４層上面で調査を行ったが遺構の検出はなかった。周辺の調査結果から、４層は奈良時代～平安時代以前に比定できる。また、６層上面では畦畔状の高まりを検出した。埋土は10YR5/1褐灰色細粒砂混粘土である。６層上面は攪拌をうけていることから、水田の可能性が高いと考えられる。遺物の出土がなかった為、６層の時期は不明であるが、古墳時代以前に比定できる。

【第２区】第１区同様、現地表下約１.0mの４層上面で調査を行ったが遺構の検出はなかった。またこの調査区でも水田の可能性が高い６層を確認した。

【第３区】現地表下約１.0mの４層上面で調査を行い土坑を検出した。土坑は調査区外に広がるため形状、規模などの詳細は不明である。土坑の埋土は10YR4/4褐色細粒砂混粘土で、細粒シルト質粘土のブロックが混入し、炭化物も含んでいる。遺物の出土がなかった為、土坑の時期は不明であるが、上層の３層内に奈良時代～平安時代頃に比定できる土師器が出土していることから、奈良時代以前に比定できる。

また、第１・２区同様、この調査区でも水田の可能性が高い６層を確認した。　　(西村)



第48図　地層断面図（S＝1/100）

参考文献

・高萩千秋　1993「XⅡ東郷遺跡（第39次調査）」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告39　(財)八尾市文化財調査研究会

・高萩千秋　1998「XⅣ東郷遺跡（第52次調査）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告60』財団法人八尾市文化財調査研究会

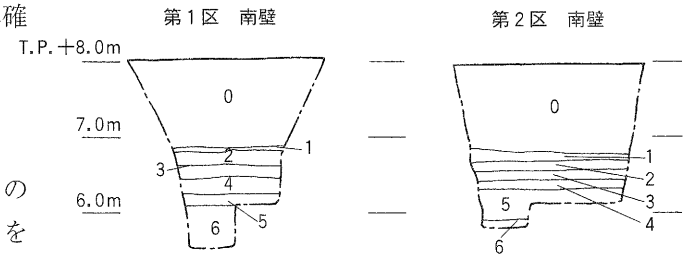
37　東郷遺跡(2004―141)の調査

1．**調査名**：事務所付住宅建設に伴う遺構確認調査

2．**調査地**：八尾市光町２丁目31-３

3．**調査期間**：平成16年７月14日

4．**調査方法**：建物基礎部分に2.5×2.5mの調査区を２箇所設定し調査を行った。北側を第１区、南側を第２区と呼称する。レベル高は調査地の北西側約30mにある道路上の標高



第49図　地層断面図（S＝1/100）

値(大阪府下水道使用ポイントT.P.＋7.908m)を使用した。

5．調査概要：【第１・２区】現地表下約2.5mまでに７層の堆積を確認した。０層は盛土。１層はN3/0暗灰色粗粒砂混粘土の旧耕作土である。２層は5B5/1青灰色粗粒砂混粘土。３層は10YR6/2灰黄褐色細粒シルト混粘土で細礫を含む。第１区では土師器、第２区では瓦器、土師器が出土した。４層は10YR5/8黄褐色粗粒砂混粘土で、マンガン斑が認められる。細粒シルト質粘土のブロック混入。５層は10YR6/6明黄褐色細粒シルト質粘土。６層は10YR6/2灰黄褐色細粒砂～粗粒砂の水成層である。３層から５層上面は土壌化している

6．まとめ：今回確認した３層から５層までの地層は、周辺で行った過去の調査成果から検討すると、中世～弥生時代に比定できる。各層の上面には遺構が存在している可能性が高いと考えられる。(西村)

参考文献

・西村公助　1989「４東郷遺跡（第29次調査：光町2丁目28－1)」『八尾市文化財調査研究会年報　昭和63年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告25　(財)八尾市文化財調査研究会

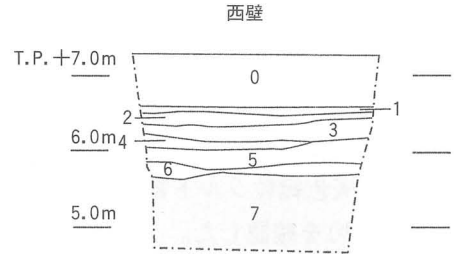
38　東郷遺跡（2004－128）の調査

1．調査名：専用住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市北本町２丁目56番１の一部

3．調査期間：平成16年８月12日

4．調査方法：専用住宅建設予定内に３×３m規模の調査区１箇所を設定。調査深度は当初、現地表下３mを想定していたが、現地表下1.6m以下で河川堆積層が確認され、その部分からの湧水が多大であったため安全面を考慮して現地表下2.6mまでの調査とした。



第50図　地層断面図（S＝1/100）

5．調査概要：現地表下2.6mまでの間で８層（０～７層）の地層を確認した。０層は客土。１層は10BG3/1青灰色砂質シルト。作土層。２層は2.5GY6/1オリーブ灰色砂質シルト。３層は5Y6/1灰色砂質シルト。４層は2.5GY7/1明オリーブ灰色砂質シルトで遺構になる可能性がある。５層は酸化鉄斑が顕著な10YR5/1褐灰色粘土質シルト。瓦器椀片を含む鎌倉時代の包含層。６層は酸化鉄斑が顕著なN6/0灰色粘土質シルト。平安時代と推定される土師器、丸瓦片を極少量含む。７層は7.5GY7/1明緑灰色シルト～中粒砂。河川に起因した洪水砂層と推定される。層厚は１m以上が想定される。

6．まとめ：調査では、５層で鎌倉時代の遺物包含層と６層で平安時代の遺物包含層を確認した。７層は平安時代以前の自然河川に伴う堆積層である。　(原田)

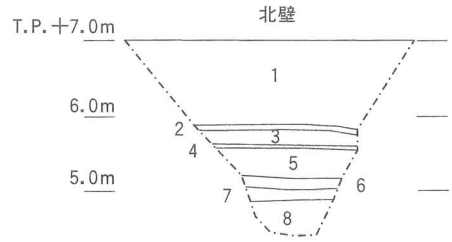
39　東郷遺跡(2004－226)の調査

1．調査名：店舗付住宅に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市光町１丁目３－１、３－２、４－１、４－２、５－１、５－２

3．調査期間：平成16年９月21日

4．調査方法：建物基礎部分に１箇所調査区を設定し掘削を行った。なお、調査では既往建物基礎が残存しており、予定の設定位置よりやや東に調査区（規模約1.5×４m）を設定して掘削した。



第51図　地層断面図（S＝1/100）

5．調査概要：調査区では、現地表下約2.6mまでに８層の堆積を確認した。第１層は盛土（層厚1.1m)。第２層は青灰色粘質シルト（層厚0.1m)。第３層は淡灰色粘土（層厚0.2m)。酸化鉄・マンガン斑を含む。上面はT.P.＋5.8mを測る。第４層は褐灰色砂礫（層厚0.1m)。第５層は灰色粘土（層厚0.4m)。酸化鉄・マンガン斑を少量含む。上面はT.P.＋5.55mを測る。第６層は淡灰青色シルト（層厚0.2m)。

第７層は淡灰青色粘土（層厚0.2m）。第８層は青灰色シルト～細砂（層厚0.5m以上）。地下水有り。

６．まとめ：今回の調査では遺物の出土はなかった。遺構としては第２層が中近世の水田耕作土と思われる。また。第５層についても水田耕作土の可能性が考えられるが時期など詳細は不明である。なお、第８層以下で地下水があり、危険と判断し、それより以下の掘削を断念した。（高萩）

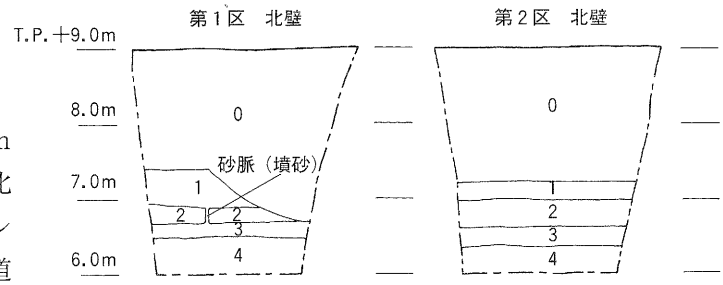
40　東郷遺跡（2004－300）の調査

１．調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市本町1丁目80-３、82、83、84、85

３．調査期間：平成16年12月６日

４．調査方法：建物基礎部分に3.0×3.0mの調査区を２箇所設定し調査を行った。北側を第１区、南側を第２区と呼称する。レベル高は調査地の南東側約100mにある道路上の標高値（T.P.＋8.7m）を使用した。



第52図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

５．調査概要：【第１・２区】現地表下約3.0mまでに５層の堆積を確認した。０層は盛土で、厚さ約1.8～2.3mを測る。１層は10BG6/1青灰色粗粒砂、２層は5B6/1青灰色細粒シルト質粘土、３層は10BG7/1明青灰色細粒砂と粗粒砂のラミナ、４層は5B3/1暗青灰色細粒シルト質粘土で、１～４層は河川堆積と思われる。第１区の２層では縦方向に割れる砂脈（噴砂）を確認した。

６．まとめ：今回確認した河川堆積は、南側約50m地点で行った東郷遺跡第37次調査で検出した自然河川ENR-101（飛鳥時代中葉～奈良時代中葉）に比定できる。（西村）

参考文献

・原田昌則　1999「Ⅱ東郷遺跡（第37次調査）」『（財）八尾市文化財調査研究会報告64』（財）八尾市文化財調査研究会

41　中田遺跡（2004－46）の調査

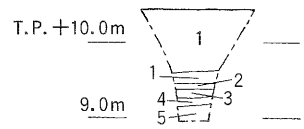
１．調査名：個人住宅建設に伴う発掘調査

２．調査地：八尾市刑部１丁目328番

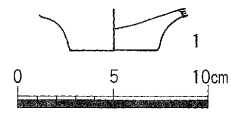
３．調査期間：平成16年６月21・22日

４．調査方法：宅地の東側に1.5×1.5mの調査地を１箇所設定し現地表から深さ約1.5mまで人力で、掘削し調査を行った。レベル高は、八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値（調査地の南東側道路上T.P.＋10.4m）を使用した。

なお、本来、21日（月曜日）に調査を行う予定であったが、台風６号が通過し風雨が激しかった為、現場作業は22日へ順延となった。21日に行った作業は調査地の設定だけである。



第53図　地層断面図（Ｓ＝1/100）



第54図　出土遺物実測図（Ｓ＝1/4）

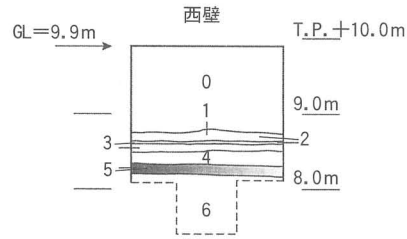
５．調査概要：０層は盛土で、現地表面の高さは、T.P.＋10.45mである。１層はN2/0黒色細粒砂混粘土の旧耕作土である。２層は10BG5/1青灰色粗粒砂混粘土。３層は10YR5/1褐灰色粗粒砂混粘土でマンガン斑が確認できる。４層は5Y5/1灰色細粒砂混粘土で細粒シルト質粘土のブロックが混入する。土師器・瓦器の破片が出土した。５層は5G3/1暗緑灰色細粒砂混粘土で土師器・弥生土器（１）の破片が出土した。１は壺の底部で、弥生時代後期のものと思われる。

４層は中世、５層は古墳時代～弥生時代の地層であることが確認できた。周辺での過去の調査では中世や古墳時代～弥生時代の遺構・遺物を検出している（西村公助1996・西村公助2000）ことから、今回の調査地にも同時代の遺構が存在している可能性が高いと思われる。（西村）

参考文献
・西村公助　1996「Ⅴ中田遺跡(第28次調査)」『中田遺跡(財)八尾市文化財調査研究会報告49』(財)八尾市文化財調査研究会
・西村公助　2000「Ⅷ中田遺跡(第36次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告66』(財)八尾市文化財調査研究会

42　中田遺跡（2004－135）の調査

1．調査名：専用住宅建設に伴う遺構確認調査
2．調査地：八尾市中田３丁目39番６、39番７
3．調査期間：平成16年８月２日
4．調査方法：規模約2.5×2.5m、面積約6.25m²１箇所について、現地表下2.5m前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成１/2500地図に記載のレベル高値(調査地北東に位置する市道安中・教興寺線の中央：T.P.＋9.7m)を使用した。



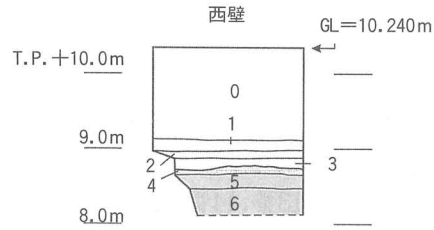
第55図　地層断面図（S＝1/100）

5．調査概要：【地層】現地表下1.1m前後までは客土・盛土(０層)。以下現地表下2.5m前後までの1.4m間で６層の地層を確認した。１層は暗灰色粘土質シルト～シルト。旧耕作土に相当する。２層はグライ化の顕著な暗オリーブ灰色粘土質シルト～シルトである。瓦器細片を含む。３層は暗オリーブ灰色粘土質シルト～シルト(グライ化)。４層はオリーブ灰色粘土質シルト(グライ化)である。５層はオリーブ灰色極粗粒砂～細礫混粘土シルト～シルトで、雲状の酸化鉄分を多く含む点が特徴的である。２～３㎝大のブロックが混在する非常に汚れた地層である。下層に存在する６層水成層の土壌化部分に相当する。なお、３～５層内には土師器細片が混在する。６層はオリーブ灰色～灰オリーブ色シルト～極粗粒砂である。水成層で、下方に向かうにつれて、粒子組成は粗粒化し、湧水も激しさを増す。
【検出遺構・出土遺物】検出遺構はなし。出土遺物は、２層内から瓦器細片が、３～５層内から土師器細片が出土した。いずれも器種や時期の特定は不明である。
6．まとめ：今回の調査地の北西約50mで実施された八尾市教育委員会の調査(中田遺跡(63－020))では、中世の耕作に伴う地層を確認している。これらは、本調査地で確認した５層土壌化層上面に対応する可能性が高い。当該期の耕作地の南東への広がりを予想し得る成果として注目したい。　　(樋口)

参考文献
・青木勘時　1990「15. 中田遺跡(ＮＴ89－02)」『八尾市文化財調査研究会年報　平成元年度』財団法人八尾市文化財調査研究会報告28　(財)八尾市文化財調査研究会
・近江俊秀　1988「１. 中田遺跡(63－020)の調査」『八尾市内遺跡昭和63年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告20　昭和63年度国庫補助事業　八尾市教育委員会

43　中田遺跡（2004－160）の調査

1．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
2．調査地：八尾市八尾木北２丁目18番１、18番２
3．調査期間：平成16年９月30日
4．調査方法：規模約2.0×2.0m、面積約４m²１箇所について、現地表(T.P.＋10.340m)下2.2m前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成１/2500地図に記載のレベル高値(調査地北東に位置する市道Ｔ字路中央：T.P.＋9.8m)を使用した。



第56図　地層断面図（S＝1/100）

5．調査概要：【地層】現地表下1.2m前後までは、客土・盛土。以下現地表下2.2m前後までの1.0m間で６層の地層を確認した。１層はグライ化の顕著な暗灰色細

礫混粘土質シルトである。旧耕作土に相当（層厚約0.15m）する。２層は暗オリーブ灰色細礫混粘土質シルト～シルト。３層は褐灰色細礫混粘土質シルト～シルト。両層ともに水田耕作土の可能性が高い。４層は灰黄褐色シルト～極細粒砂である。２～３㎝大のブロックが混在する地層で、土壌化が著しい。土師器や須恵器の破片が混在する。５層は黄褐色シルトの水成層である。雲状の酸化マンガンを極めて多く含む地層である。６層はオリーブ灰色を呈したシルト～細礫である。水平ラミナ構造をもつ水成層である。グライ化が著しい。

【検出遺構・出土遺物】検出遺構はなし。出土遺物は、１～４層内より、土師器や須恵器、瓦の破片が少量出土した。このうち、１～３層に包含されていた遺物については、本来は４層内に包含されていたものが、水田耕作等の撹拌により巻き上げられた可能性が高い。つまり、今回出土した遺物は、そのほとんどが４層内遺物と考えてよい。

６．まとめ：今回の調査地周辺では、西約50m地点で八尾市教育委員会による調査が行われている。ここでは、現地表下1.3m付近で古墳時代後期の遺物包含層（⑤層）を確認、当該期の居住域が付近一帯に展開している可能性を指摘（渕1991）している。この遺物包含層⑤層は、今回の調査の４層に相当する。４層上面を追いかけていけば、当該期の遺構を検出する可能性が極めて高い。（樋口）

参考文献

・渕　斎　1991「22.中田遺跡（90－427）の調査」『八尾市内遺跡平成２年度発掘調査報告書Ⅰ』八尾市文化財調査報告22　平成２年度年度国庫補助事業　八尾市教育委員会

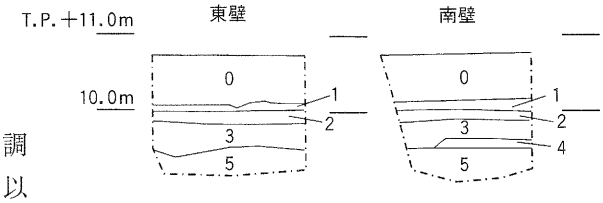
44　中田遺跡（2004－295）の調査

１．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市刑部４丁目206番13・207番２

３．調査期間：平成16年12月14日

４．調査方法：建設予定地の南東部に２×２ｍの調査区１箇所を設定し、現地表下（T.P.＋10.8m）以下約1.7mまでの掘削を行った。



第57図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

５．調査概要：現地表下1.7m前後までに６層（０～６層）を確認した。０層は盛土で層厚65㎝前後を測る。１層はN3/0暗灰色砂質シルトで旧作土である。２層は中礫を含む10YR7/3にぶい黄褐色砂質シルトで、鎌倉時代の遺物を極少量含む。３層は上部を中心に中礫を含む2.5Y4/1黄灰色砂質シルトで、古墳時代後半に比定される土師器、須恵器の小片を少量含む。４層は2.5Y6/1黄灰中粒砂混砂質シルト。５層は2.5Y7/1灰白色中粒砂～粗粒砂の河川堆積層で、湧水が多大である。層厚は0.45m以上を測る。

６．まとめ：２層で鎌倉時代、３層で古墳時代後期の遺物を含む地層を確認した。５層以下は河川氾濫に起因した洪水砂が確認され、周辺で実施した第38次調査（NT97－38）と同様の成果が得られた。（原田）

参考文献

・樋口　薫　2000「Ｘ中田遺跡第38次調査（NT97－38）」『（財）八尾市文化財調査研究会報告66』　（財）八尾市文化財調査研究会

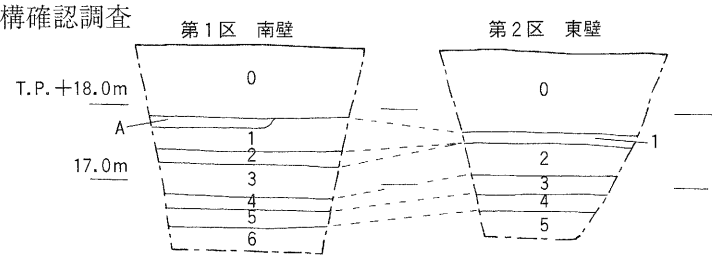
45　水越遺跡（2004－37）の調査

１．調査名：グループホーム建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市服部川５丁目７番１、13番、14番の一部、15番の一部

３．調査期間：平成16年５月６日

４．調査方法：建物基礎部分に3.0m×3.0mの調査区を２箇所設定した。南側を第１区、北側を第２区と呼称する。レベル高に



第58図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

ついては八尾市作成1/2500地図に記載されているレベル高値（調査地の北東側道路上：T.P.＋20.4m）を使用した。

5．調査概要：【第１区・第２区地層】現地表(T.P.＋18.8m)下約2.8mまでに７層の堆積を確認した。０層は盛土。１層は7.5YR3/4暗褐色細粒砂混粘土で、マンガン斑が多く認められ、上面は土壌化している。第１区では上面から切り込む溝状の落込みを検出した。落込みは南東から北西方向に伸びている。埋土は10Y7/1灰白色細粒シルトと細粒砂のラミナで、遺物の出土はなかった。２層は10Y4/1灰色粘土。３層はN5/0灰色中礫～粗粒砂で、扇状地の谷部を埋める土砂の堆積と思われる。４層は7.5Y6/1灰色粗粒シルト。５層は5B3/1暗青灰色粗粒シルト質粘土。６層は5B4/1暗青灰色細粒砂である。　（西村）

参考文献

・高萩千秋　1998「ⅩⅧ水越遺跡第6次調査(MS96－6)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告60』(財)八尾市文化財調査研究

46　美園遺跡(2003－487)の調査

1．調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査

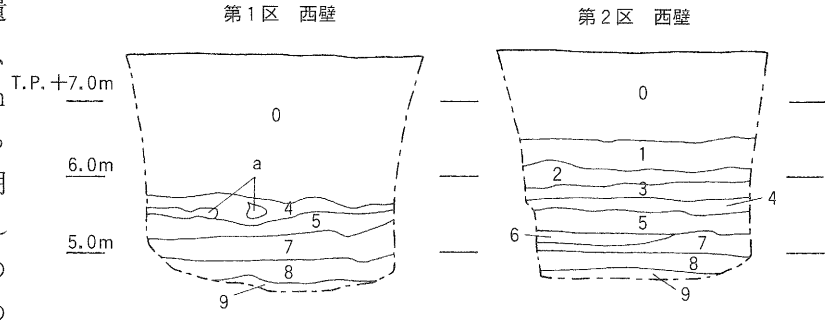
2．調査地：八尾市美園町３丁目61番１

3．調査期間：平成16年４月13日

4．調査方法：建築予定地内に３m四方の調査区を２箇所(西側－第１区、東側－第２区)設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.＋7.6m)下約３mまでの掘削を実施した。

5．調査概要：【層序】第０層－盛土(層厚／第１区－2.0m前後、第２区－1.2m前後)。第１区では以下記述する第２区に存在する第１～３層の堆積層が、現代の削平によって消滅していた。第１層－7.5YR6/3にぶい褐色シルト。近世の瓦片が出土。第２層－10YR6/1褐灰色シルト。中世の土師器および瓦器の破片が少量出土。第３層－10YR7/2にぶい黄橙色シルト(層厚0.15～0.3m)。古墳時代中期～後期の所産と見られる須恵器片が出土。第４層－10YR6/1褐灰色極細粒砂(層厚0.1～0.3m)。氾濫性の堆積層で、第１区では流れ込みによる粘土のブロックが混入。第５層－7.5YR7/3にぶい橙色砂質シルト～極細粒砂。水成層でラミナが確認できる。第６層－10BG7/1明青灰色砂質シルト。第２区に存在する水成層である。第７層－5BG5/1青灰色シルト。植物炭化ラミナが顕著に見られる。第８層－N3/0暗灰色粘土質シルト。第９層－10BG4/1暗青灰色砂礫混じり粘土質シルト。全般に淘汰が不良である。

6．まとめ：今回の調査では遺構は検出されなかった。しかし、第２区の現地表下1.2～1.8m(T.P.＋5.7～6.5m)に堆積する地層については、古墳時代中期～中世にかけての遺物が含まれることと、周辺における既往の調査成果から、当該期の遺構の存在が示唆される。　（岡田）



第59図　地層断面図（S＝1/100）

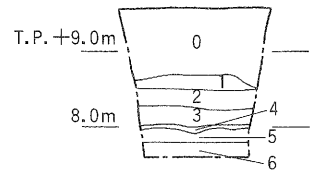
47　矢作遺跡(2004－85)の調査

1．調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査

2．調査地：八尾市高美町四丁目136-８

3．調査期間：平成16年７月６日

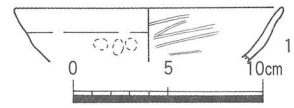
4．調査方法：建物基礎部分に2.0×2.0mの調査区を１箇所設定し調査を行った。レベル高は調査地の北西側約50mにある道路上の標高値(T.P.＋9.5m)を使用した。



第60図　地層断面図（S＝1/100）

5．調査概要：【地層】現地表下約2.0mまでに７層の堆積を確認した。０層は盛土。１層はN3/0暗灰

色細粒砂混粘土の旧耕作土である。２層は10YR6/2灰黄褐色細粒砂混粘土で、マンガン斑がみられ、粘土のブロックが混入する。３層は2.5Y6/1黄灰色粗粒砂混粘土で、マンガン斑がみられる。上面は撹拌されている。４層は5Y7/1灰白色細粒砂で、水成層である。５層は10Y5/1灰色粗粒砂混粘土で、シルト質粘土のブロックが混入している。瓦器（１）・土師器の破片が出土した。１は内面ミガキを雑に施し、外面はナデによる指圧痕が見える。６層はN4/0灰色細粒～粗粒砂のラミナで、河川堆積と思われる。



第61図　出土遺物実測図（Ｓ＝1/100）

６．まとめ：近隣の調査結果（原田1989）では、現地表下約1.6m前後の地層から切り込む平安時代～鎌倉時代の遺構を検出している。このことから今回確認した第５層は同時代の遺構になる可能性が高いと思われる。

（西村）

参考文献

・原田昌則　1989「Ⅰ矢作遺跡（第１次調査）」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要　平成元年度』（財）八尾市文化財調査研究会報告22　（財）八尾市文化財研究会

・成海佳子　1989「Ⅱ矢作遺跡（第２次調査）」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要　平成元年度』（財）八尾市文化財調査研究会報告22　（財）八尾市文化財研究会

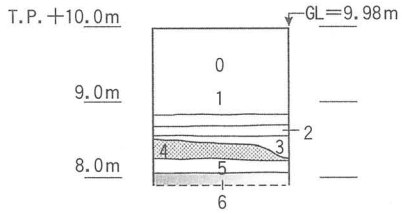
48　矢作遺跡（2004―154）の調査

１．調査名：長屋住宅建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市高美町３丁目60番の一部

３．調査期間：平成16年９月27日

４．調査方法：規模約1.8×0.8m、面積約1.44㎡１箇所について、現地表下2.0m前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成１/2500地図に記載のレベル高値（調査地南東に位置する（社）八尾納税協会前市道の中央：T.P.＋9.5m）を使用した。



第62図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

５．調査概要：【地層】現地表下1.1m前後までは、客土・盛土。以下現地表下2.0m前後までの0.9m間で６層の地層を確認した。１層はグライ化の顕著な暗灰色細礫混粘土質シルト～シルトである。旧耕作土に相当（層厚約0.2m）する。２層は暗オリーブ灰色細礫混粘土質シルト～細粒砂。こちらも水田耕作土の可能性が高い。３層は灰色細礫混粘土質シルト～シルト。ブロック土で構成された地層で、その上面は南から北に向かって緩やかに高度を下げている。下層の４層を基盤層とした遺構の埋土の可能性が考えられる。４層は灰黄褐色粘土質シルトで、雲状の酸化マンガンを極めて多く含む。土壌化層である。５層は黒褐色シルト質粘土～粘土質シルト。こちらも４層同様雲状の酸化マンガンの沈着が激しい。６層は褐灰色シルト質粘土。閉塞した湿地帯のような環境下に形成された泥状の堆積物である。

【検出遺構・出土遺物】なし。

６．まとめ：今回の調査地周辺を見ると、東約50m地点で実施された第１次調査地や、市道を挟んで南に隣接する地点で実施された第２次調査地が近接する。両調査地では、T.P.＋8.7～9.0m付近で弥生時代後期～室町時代の遺構を検出した。当然、今回の調査地でも当該期の遺構・遺物の検出が予想されたが、調査面積が僅少であったことなどから、明確な遺構の広がりを確認することはできなかった。なお、地層の対応関係を整理すると、第１・２次調査で確認された遺構面は、本調査における４層上面が対応する可能性が高い。

（樋口）

参考文献

・原田昌則　1989「Ⅰ矢作遺跡（第１次調査）」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要　平成元年度』財団法人八尾市文化財調

査報告22　(財)八尾市文化財調査研究会
・成海佳子　1989「矢作遺跡(第２次調査)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要　平成元年度』財団法人八尾市文化財調査報告22　(財)八尾市文化財調査研究会

49　矢作遺跡（2004－302）の調査

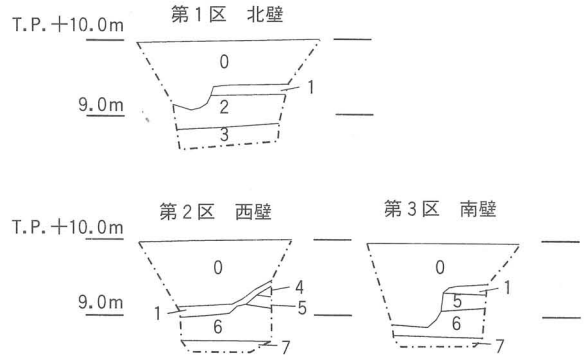
１．調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市松山町2丁目30番及び31番

３．調査期間：平成16年11月19日

４．調査方法：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査。２×２ｍ規模の調査区３箇所を設定。西側から１～３区と呼称。

５．調査概要：１～３区の現地表下1.5ｍ前後までの間で８層（０～８層）を確認した。



第63図　第１～３区地層断面図（Ｓ＝1/100）

１区：０層は客土で層厚0.55ｍ。１層は旧作土で10YR3/1黒褐色砂質シルト。２層は10YR6/2灰黄褐色砂質シルトに10YR5/6黄褐色のブロック。締まりの弱い不均質な層である。３層は2.5Y8/4淡黄色中粒砂を主体とする河川堆積。層厚0.25ｍ以上を測る。

２区：０層は客土で層厚0.85ｍ。１層は旧作土。10YR3/1黒褐色砂質シルト。４層は中粒砂が混じる10YR4/2灰黄褐色砂質シルト。５層は中粒砂が混じる10YR5/2灰黄褐色砂質シルト。６層は10YR3/2黒褐色砂質シルト。層厚0.5ｍ。よく締まり安定した層相で、中世の土師器、瓦器の小破片を極少量含む。７層は10YR4/1褐灰色砂質シルト。６層と同様、中世の土師器、瓦器椀の小破片を極少量含む。

３区：０層は客土および攪乱層。層厚0.55～1.10ｍ。１層は旧作土で10YR3/1黒褐色砂質シルト。５層は中粒砂が混じる10YR5/2灰黄褐色砂質シルト。６層は10YR3/2黒褐色砂質シルト。層厚0.35ｍ。中世の土師器片を含む。７層は10YR4/1褐灰色砂質シルト。

６．まとめ：２区および３区では旧作土層以下、比較的安定した層相が確認された。６・７層からは時期を明確にできなかったが、中世時期の土師器、瓦器椀の小破片が極少量出土している。２・３区の北側に設置した１区では、河川堆積層である３層が確認できることから、敷地内の北部には中世時期に河川が存在していたことが想定される。　（原田）

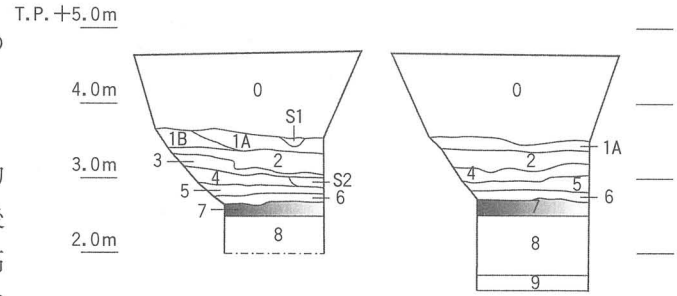
50　山賀遺跡（2004－124）の調査

１．調査名：配送センター建設に伴う遺構確認調査

２．調査地：八尾市新家町４丁目１－１の一部・６－１の一部

３．調査期間：平成16年８月11日

４．調査方法：規模約3.0×3.0ｍ、面積約９㎡２箇所について、現地表下3.0ｍ前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成１/2500地図に記載のレベル高値(調査地北東に位置する主要地方道大阪中央環状線北行側道と市道西郡第25号線の交差点：T.P.＋4.5ｍ)を使用した。



第64図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

５．調査概要：【地層】現地表下1.1ｍ前後までは客土・盛土(０層)。以下現地表下3.0ｍ前後までの1.9ｍ間で９層の地層を確認した。１層は、緑灰色～暗緑灰色粘土質シルト～シルトで、撹拌とグライ化が

著しい地層である。本層はさらに２層（１Ａ・１Ｂ）に細分できる。旧耕土に相当する。２層は、オリーブ灰色粘土質シルトである。若干グライ化の進行した撹拌層である（水田耕作土）。３層は、浅黄色シルト。第１区にのみ確認できた地層である。４層は、灰褐色粘土質シルト～細粒砂。上面には遺構と推測されるＳ２が確認できた。５層は、灰黄褐色粘土質シルト。水成層である。６層は浅黄色粘土質シルト（水成層）。７層はにぶい黄褐色粗粒砂。一時期の流路の埋土である。８層は灰色シルト質粘土～粘土質シルトの互層である。湿地性の堆積物である。９層は灰色シルト～極細粒砂。こちらも水成層である。

【検出遺構・出土遺物】なし。（樋口）

51　弓削遺跡（2004－259）の調査

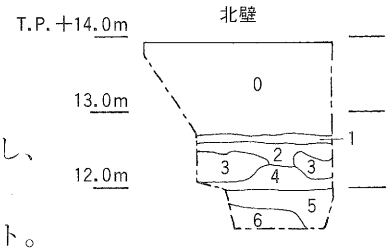
１．**調査名**：エレベーターホール建設に伴う遺構確認調査

２．**調査地**：八尾市志紀町南２丁目131

３．**調査期間**：平成16年11月４日

４．**調査方法**：建築予定地内に2.5m四方の調査区を１箇所設定し、現地表（T.P.＋13.9m前後）下約2.3mまでの掘削を実施した。

５．**調査概要**：【層序】第０層－盛土、第１層－N2/0黒色シルト。近・現代の作土層にあたる。第２層－7.5GY6/1灰緑色砂質シルト、第３層－2.5Y8/1灰白色～2.5Y8/6黄色中粒砂。洪水砂と推定されるが、遺物は含まれない。第４層－N6/0灰色シルト。一部に植物ラミナが見られる。第５層－N3/0暗灰色粘土質シルト。古墳時代前期に比定される古式土師器を少量含む。第６層－7.5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルト。上層の第５層と同時期頃の古式土師器片が少量出土した。



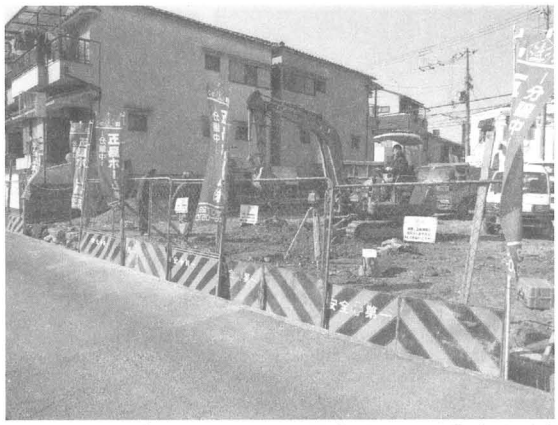
第65図　地層断面図（Ｓ＝1/100）

【検出遺構・遺物】遺構はなし。遺物は第５・６層から、古墳時代前期に比定される古式土師器が少量出土したが、砕片のため図化は不能である。

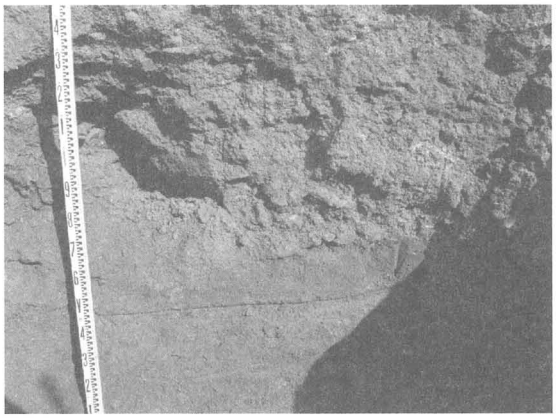
６．**まとめ**：今回の調査では現地表下約2.0～2.5m（T.P.＋11.5～12.0m）間において、古墳時代前期に比定される第５・６層の２層の堆積層を確認することができた。遺構は確認できなかったが、遺物の出土と周辺における既往の調査成果から当該期の遺構面が存在するものと思われる。（岡田）

1　老原2003-249　調査地周辺(東から)

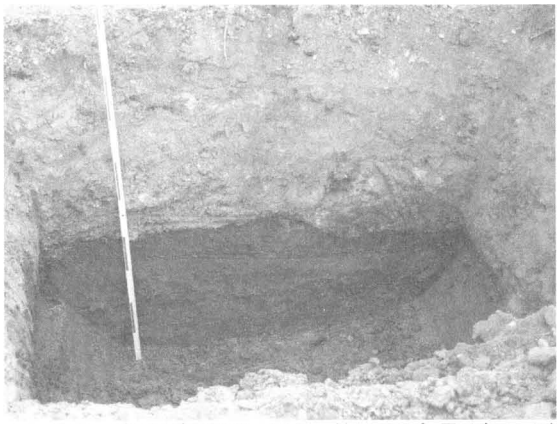
1　老原2003-249　南壁(北から)



2　恩智2003-388　調査地周辺(北東から)



2　恩智2003-388　北壁(南から)



3　久宝寺2003-412　第１区全景(南から)

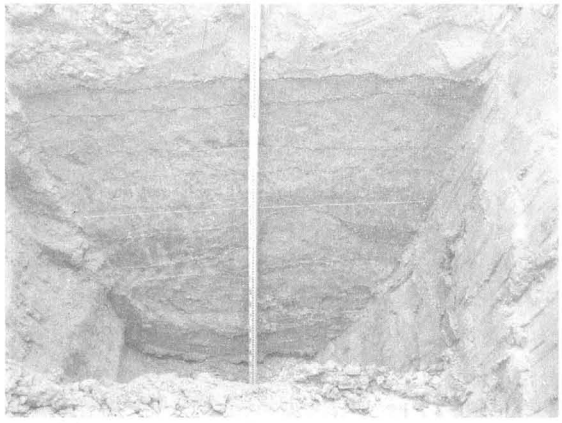
3　久宝寺2003-412　第４区全景(南西から)

4　久宝寺2003-418　第１区全景(南から)

4　久宝寺2003-418　第２区全景(南西から)

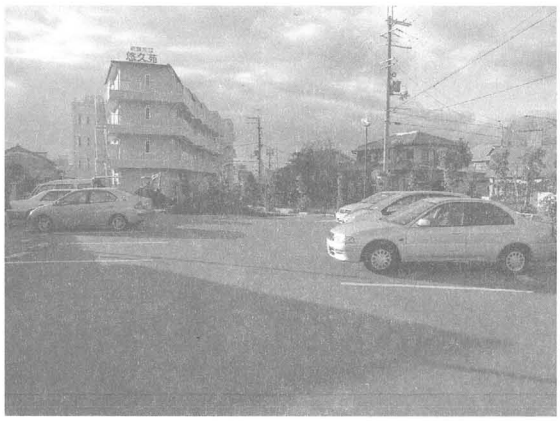
図版2

5　久宝寺寺内町2003-357　第１区西壁(東から)

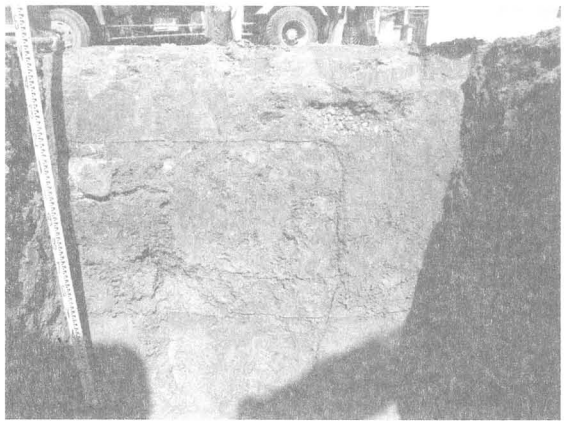


6　東郷2003-368　第１区南壁(北から)

7　東郷2003-464　調査地周辺(東から)

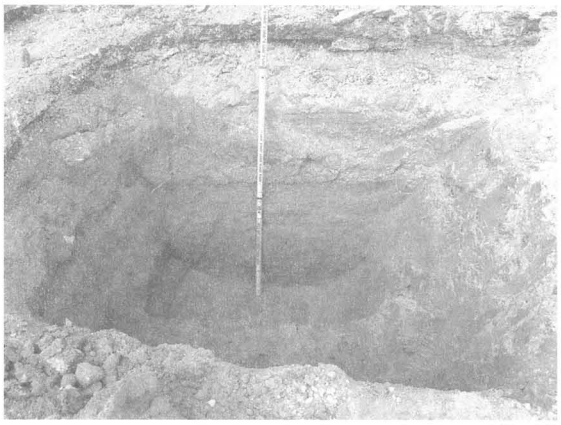


8　水越2003-356　調査地周辺(東から)



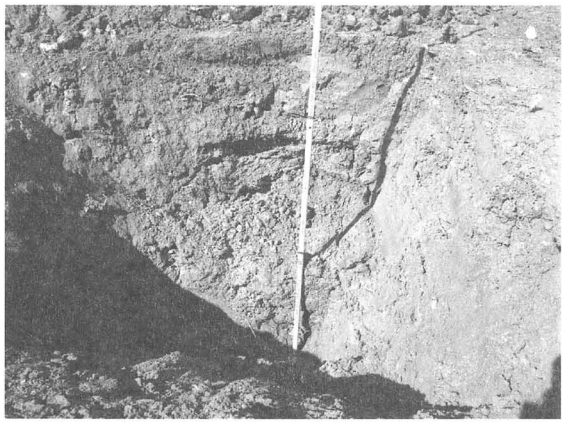
5　久宝寺寺内町2003-357　第２区北壁(南から)

6　東郷2003-368　第２区北壁(南から)

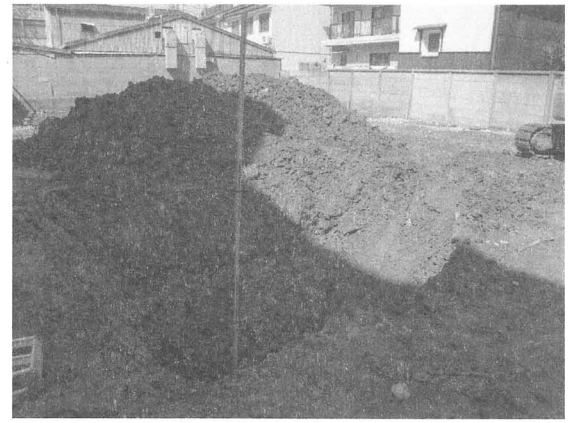


7　東郷2003-464　第１区全景(東から)

8　水越2003-356　第２区西壁(東から)



9　八尾寺内町2003-450　第１区西壁(東から)



9　八尾寺内町2003-450 第２区西壁(南東から)

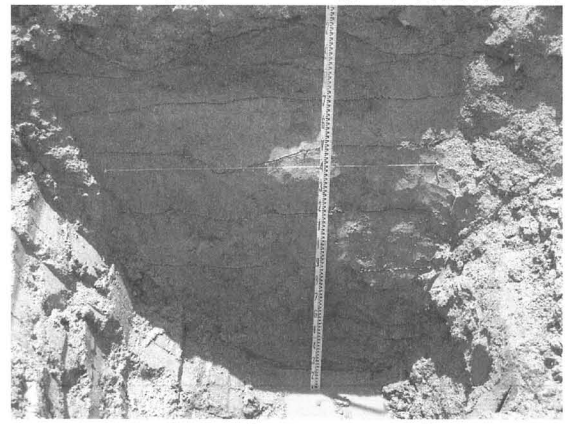
10　弓削2003-319　調査地周辺(南東から)

10　弓削2003-319　東壁(西から)

11　跡部2004-34　調査地周辺(北西から)

11　跡部2004-34　第１区南壁(北から)

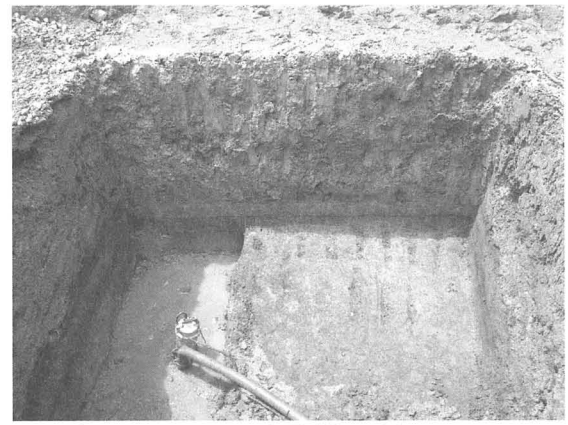
12　老原2004-26　調査地周辺(北西から)



12　老原2004-26　南壁(北から)

図版4

13　太田2003-400　掘削状況(南東から)



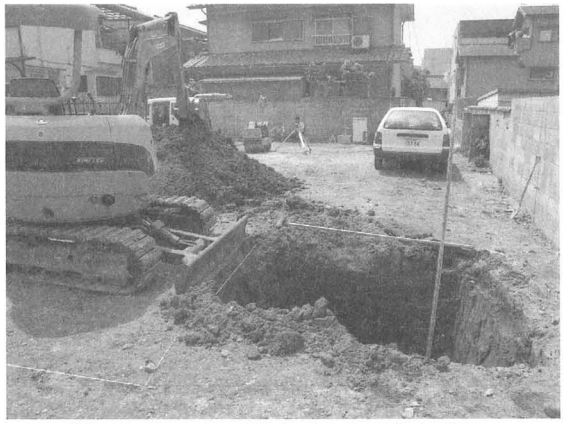
13　太田2003-400　全景(北から)

14　太田2003-330　調査地周辺(北から)

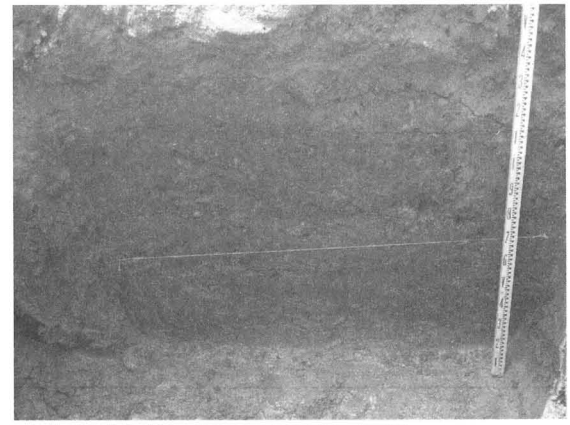
14　太田2003-330　西壁(東から)

15　恩智2004-15　調査地周辺(南から)

15　恩智2004-15　第２区東壁(西から)

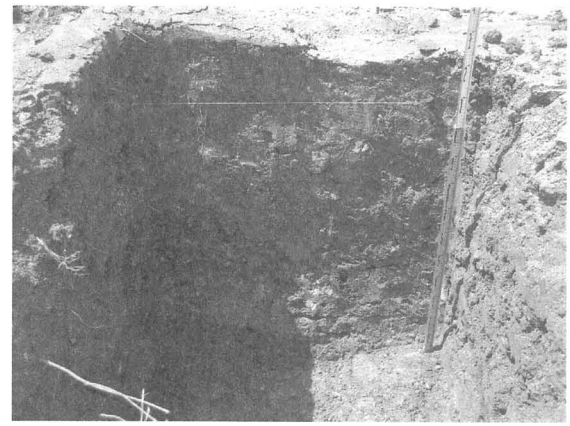


16　恩智2003-473　調査地周辺(北から)



16　恩智2003-473　南壁(北から)

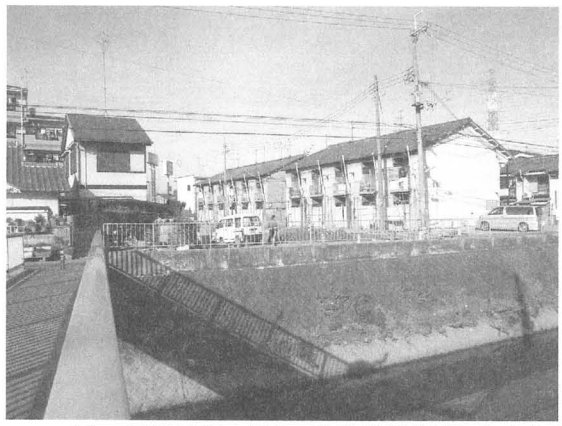
17　恩智2003-442　調査地周辺(北東から)



17　恩智2003-442　南壁(北から)

18　恩智2004-201　全景(南西から)

18　恩智2004-201　北壁(南から)



19　恩智2004-172　調査地周辺(南東から)

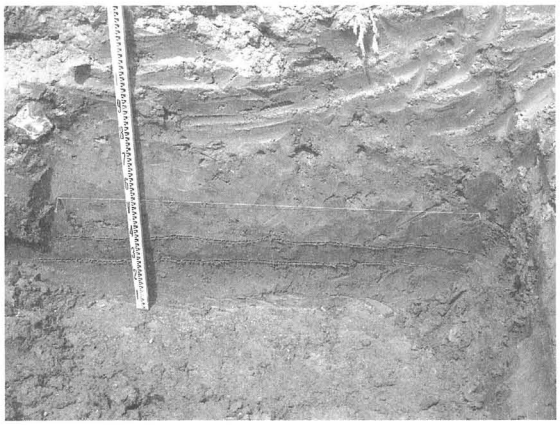
19　恩智2004-172　北壁(南から)

20　楽音寺2004-188　調査地周辺(南東から)

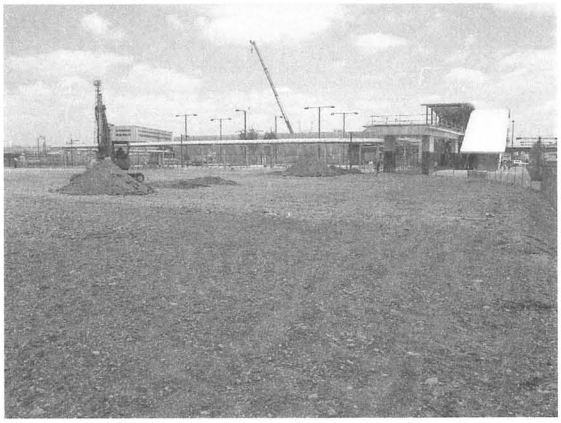
20　楽音寺2004-188　南壁(北から)

図版6

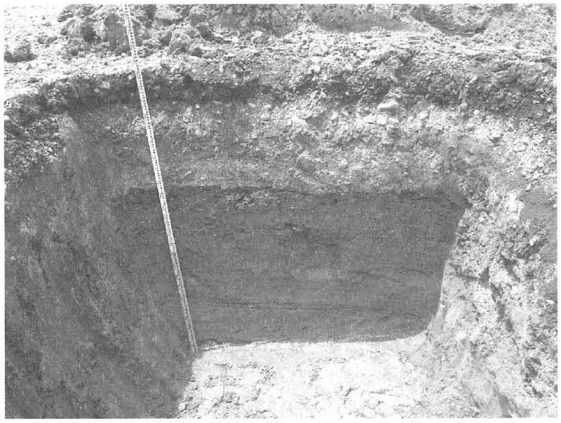
21　木の本2003-413　調査地周辺(北から)



21　木の本2003-413　西壁(東から)



22　久宝寺2004-72　調査地周辺(南から)

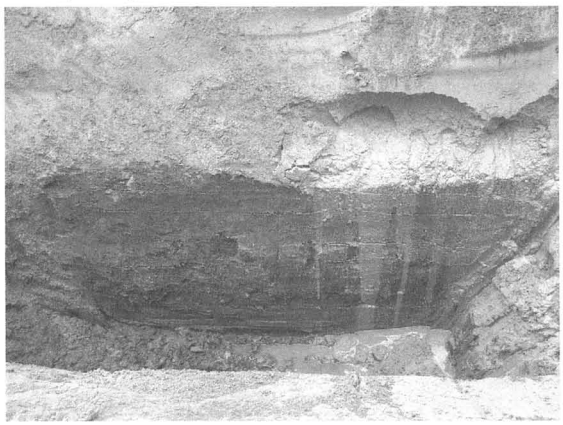


22　久宝寺2004-72　第１区南壁(北から)

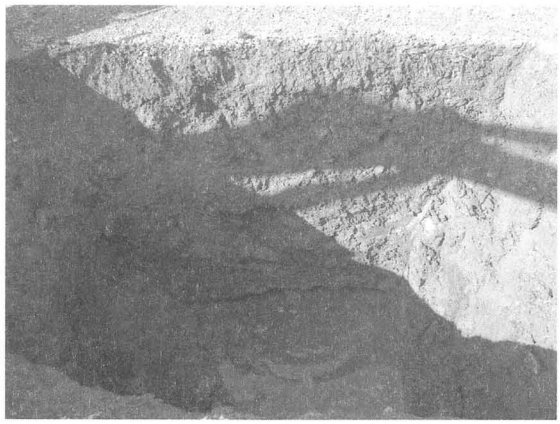
23　久宝寺2004-123　調査地周辺(南西から)

23　久宝寺2004-123　第１区北壁(南から)

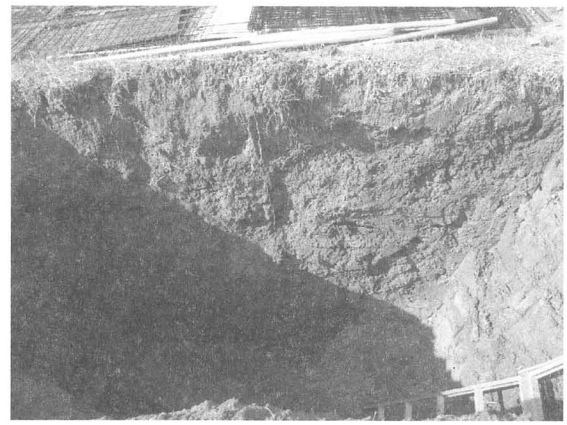
24　久宝寺2004-174　第１区西壁(東から)



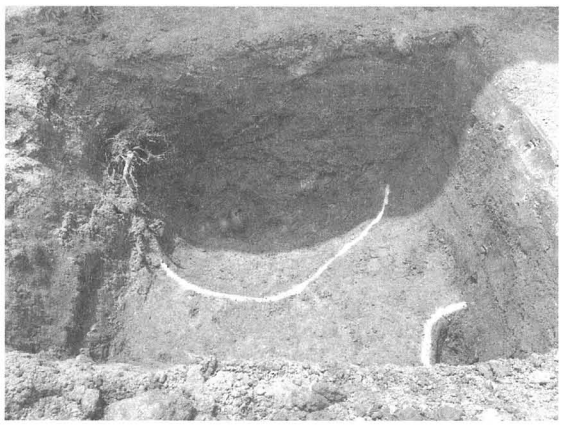
24　久宝寺2004-174　第２区西壁(東から)



25　久宝寺2004-269　第１区西壁(東から)

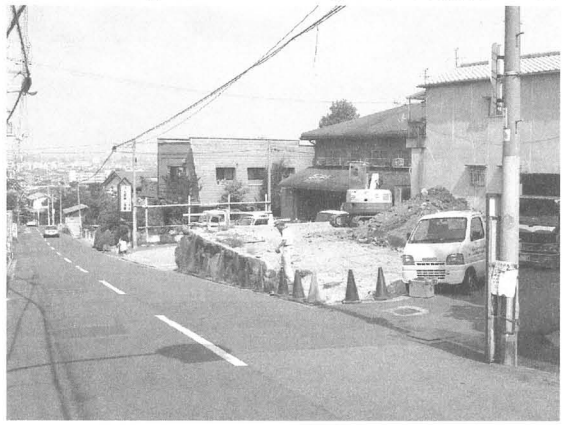


25　久宝寺2004-269　第２区西壁(東から)



26　郡川2003-369　第１区全景(北から)

26　郡川2003-369　SK102遺物出土状況(北から)



27　郡川2004-176　調査地周辺(南東から)

27　郡川2004-176　北壁(南から)

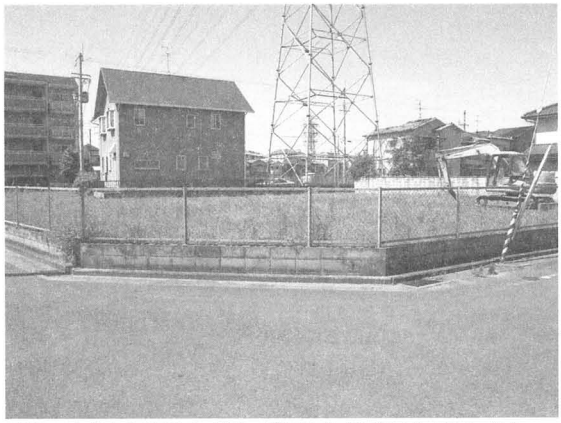
28　郡川2003-278　全景(東から)

28　郡川2003-278　西壁(東から)

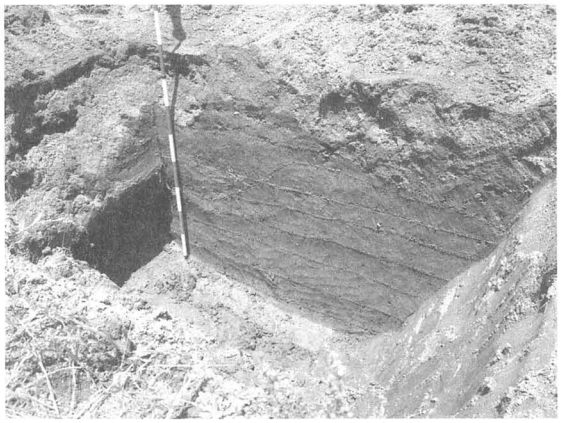
図版8

29　郡川2004-251　調査地周辺(南西から)

29　郡川2004-251　西壁(東から)



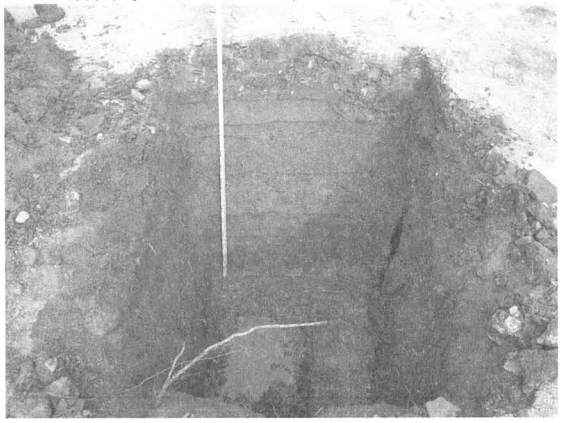
30　小阪合2004-76　調査地周辺(北東から)



30　小阪合2004-76　第１区北壁(南東から)

31　成法寺2004-119　第１区北壁(南から)

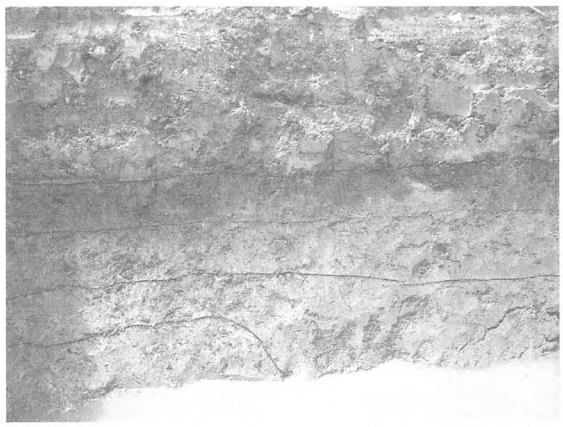
31　成法寺2004-119　第２区北壁(南から)



32　神宮寺2004-291　第１区北壁(南から)

32　神宮寺2004-291　第２区北壁(南から)

33　太子堂2004-183　第１区南壁(北から)



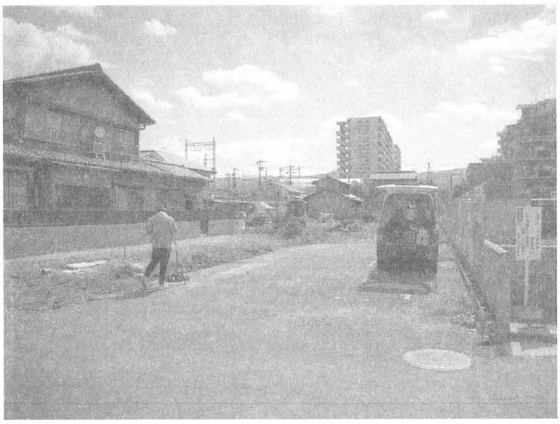
33　太子堂2004-183　西壁(東から)

34　大正橋2004-164　第１区西壁(東から)

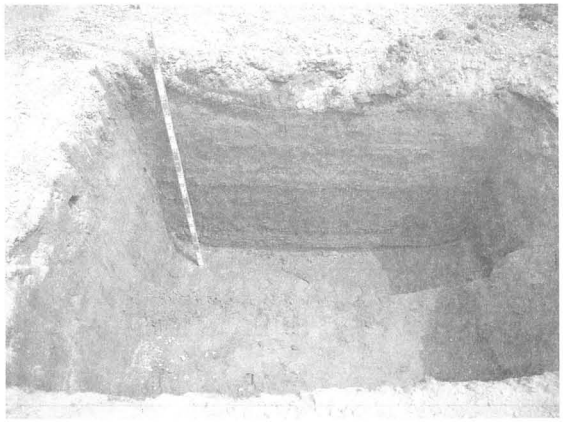
34　大正橋2004-164　第２区北壁(南から)

35　東郷2004-16　第１区全景(北から)

35　東郷2004-16　第２区全景(北から)



36　東郷2004-79　調査地周辺(南西から)



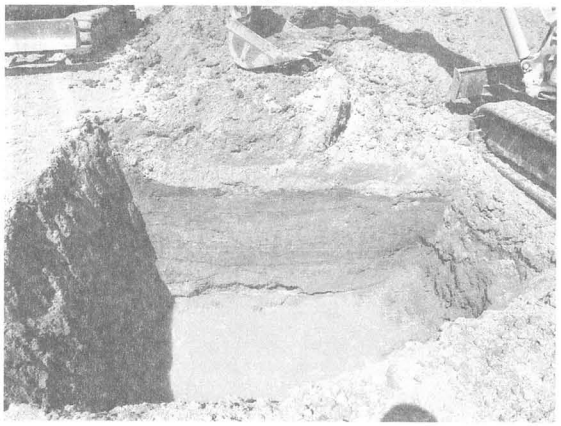
36　東郷2004-79　第１区北壁(南から)

図版10

37　東郷2004-141　第１区南壁(北から)

37　東郷2004-141　第２区南壁(北から)

38　東郷2004-128　調査地周辺(東から)

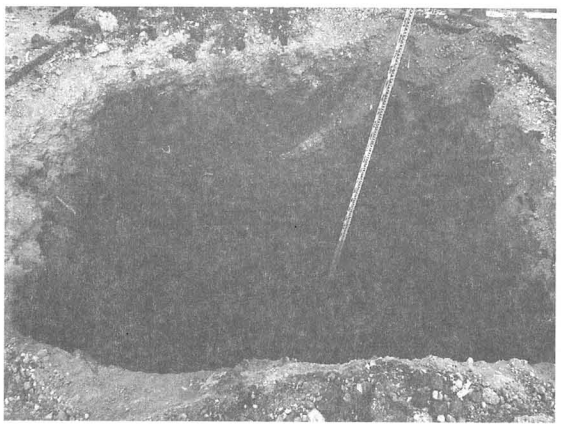


38　東郷2004-128　西壁(東から)

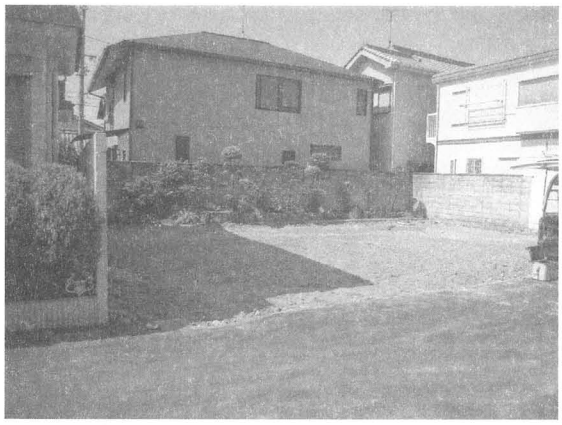
39　東郷2004-226　北壁(南から)

39　東郷2004-226　北壁(南から)

40　東郷2004-300　第１区北壁(南から)



40　東郷2004-300　第２区北壁(南から)



41　中田2004-46　調査地周辺(北東から)

42　中田2004-135　調査地周辺(北東から)

43　中田2004-160　調査地周辺(北西から)

44　中田2004-295　調査地周辺(西から)

41　中田2004-46　北壁(南から)

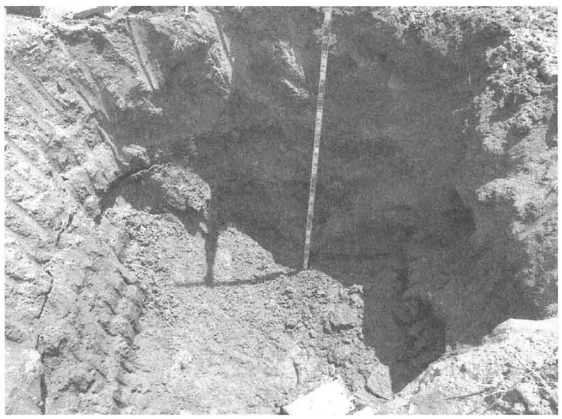
42　中田2004-135　西壁(東から)

43　中田2004-160　西壁(東から)

44　中田2004-295　南壁(北から)

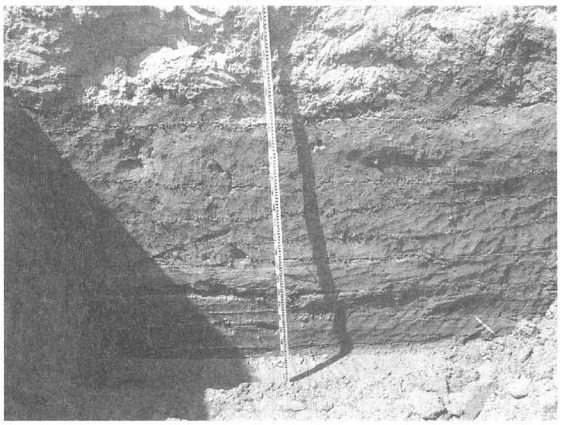
図版12

45　水越2004-37　調査地周辺(北西から)



45　水越2004-37　第１区南壁(北から)

46　美園2003-487　第１区西壁(東から)

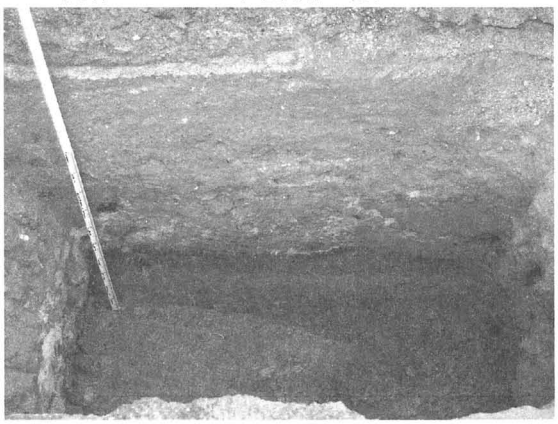


46　美園2003-487　第２区西壁(東から)

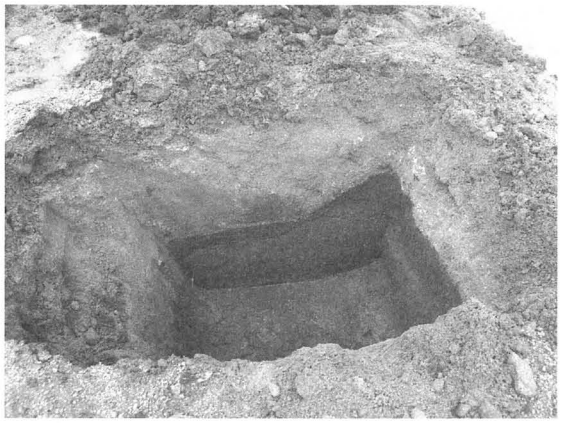
47　矢作2004-85　調査地周辺(北西から)

47　矢作2004-85　北壁(南から)

48　矢作2004-154　全景(南東から)



48　矢作2004-154　西壁(東から)



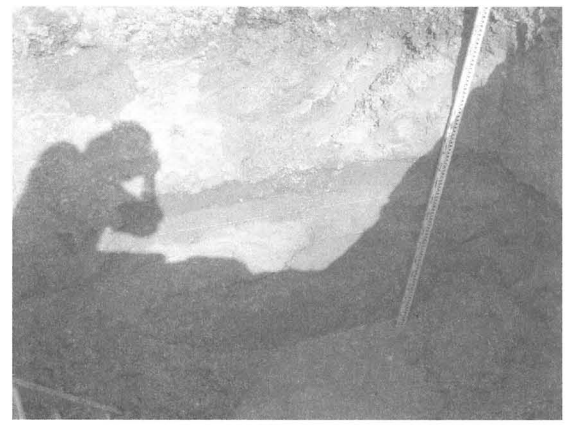
49　矢作2004-302　第２区西壁(東から)

49　矢作2004-302　第３区南壁(北から)

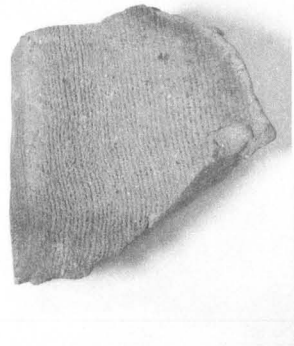
50　山賀2004-124　第１区西壁(東から)

50　山賀2004-124　第２区西壁(東から)

51　弓削2004-259　調査地周辺(南から)

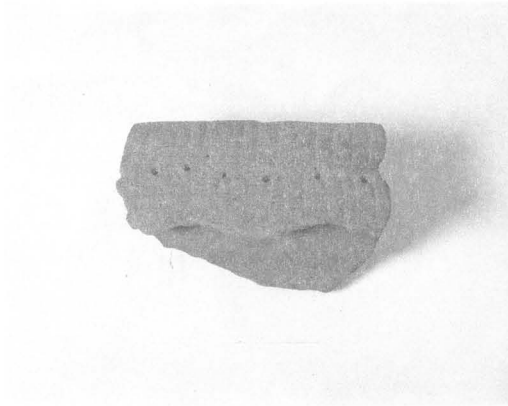


51　弓削2004-259　北壁(南から)



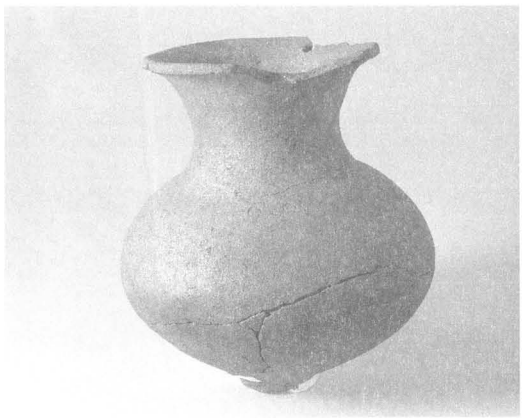
8　水越2003-356　出土遺物(4)

図版14

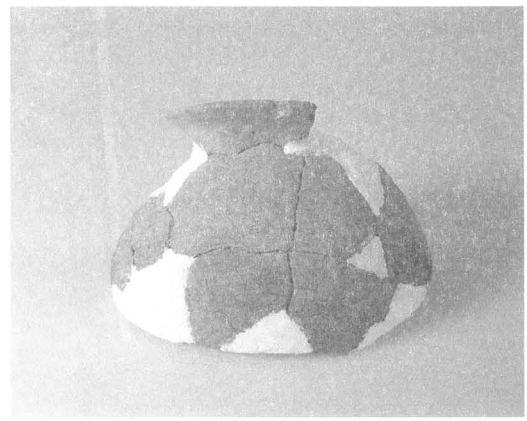


16　恩智2003-473　出土遺物(1)

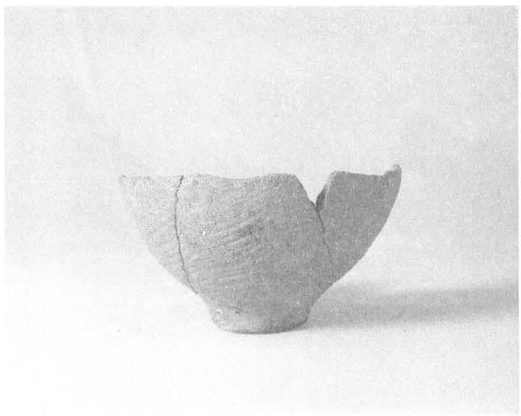
16　恩智2003-473　出土遺物(7)



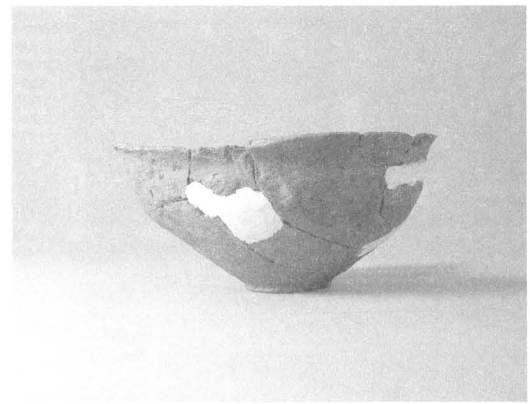
26　郡川2003-369　出土遺物(2)



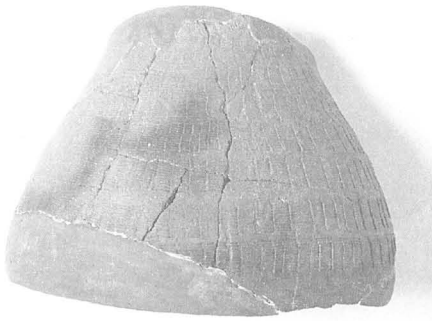
26　郡川2003-369　出土遺物(14)



26　郡川2003-369　出土遺物(27)



26　郡川2003-369　出土遺物(30)



32　神宮寺2004-291　出土遺物(2)

32　神宮寺2004-291　出土遺物(3)

報告書抄録

ふりがな	やおしないいせきへいせい16ねんどはっくつちょうさほうこくしょ
書名	八尾市内遺跡平成16年度発掘調査報告書
副書名	平成16年度国庫補助事業
巻次	
シリーズ名	八尾市文化財調査報告
シリーズ番号	５０
編著者名	岡田清一　高萩千秋　成海佳子　西村公助　原田昌則　樋口　薫
編集機関	八尾市教育委員会
所在地	〒581－0003　大阪府八尾市本町１丁目１番１号　☎０７２９－２４－８５５５
発行年月日	西暦2005年３月31日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北線 °′″	東径 °′″	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
老原遺跡	八尾市老原３	27212	38	34 36 12	135 36 13	20040121	9	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
恩智遺跡	八尾市恩智南町1	27212	30	34 36 10	135 37 48	20040305	2.25	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
久宝寺遺跡	八尾市渋川町１	27212	23	34 37 16	135 35 46	20040209	16	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
久宝寺遺跡	八尾市南久宝寺1	27212	23	34 37 19	135 35 33	20040325	18	工場建設に伴う遺構確認調査
久宝寺寺内町	八尾市久宝寺３	27212	79	34 37 28	135 35 31	20040304	8	個人住宅建設に伴う遺構確認調査
東郷遺跡	八尾市光町１	27212	37	34 37 47	135 36 24	20040203	18	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
東郷遺跡	八尾市北本町２	27212	37	34 37 47	135 36 22	20040317	27	有料老人ホーム建設に伴う遺構確認調査
水越遺跡	八尾市山畑	27212	42	34 37 32	135 38 31	20040115	22.5	グループホーム建設に伴う遺構確認調査
八尾寺内町	八尾市本町２	27212	880	34 37 27	135 36 10	20040319	25	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
弓削遺跡	八尾市志紀町南２	27212	71	34 35 33	135 37 10	20040123	9	倉庫建設に伴う遺構確認調査
跡部遺跡	八尾市跡部北の町3	27212	64	34 37 02	135 35 10	20040507	8	貸しビル建設に伴う遺構確認調査
老原遺跡	八尾市老原３	27212	38	34 36 10	135 36 18	20040526	9	個人住宅建設に伴う遺構確認調査
太田遺跡	八尾市若林町3	27212	68	34 35 21	135 35 18	20040521	6.25	店舗建設に伴う遺構確認調査
太田遺跡	八尾市太田新町３	27212	68	34 35 28	135 35 34	20040610	6.25	分譲住宅・共同住宅建設に伴う遺構確認調査
恩智遺跡	八尾市恩智北町３	27212	30	34 36 31	135 38 07	20040420	15.79	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
恩智遺跡	八尾市恩智中町２	27212	30	34 36 20	135 37 54	20040422	4	個人住宅建設に伴う遺構確認調査
恩智遺跡	八尾市恩智北町4	27212	30	34 36 26	135 38 18	20040524	1.44	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
恩智遺跡	八尾市恩智北町3	27212	30	34 36 32	135 38 06	20040922	9	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
恩智遺跡	八尾市恩智北町1	27212	30	34 36 33	135 37 50	20041224	10.75	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
楽音寺遺跡	八尾市楽音寺４	27212	51	34 38 24	135 38 26	20040817	6.25	個人住宅建設に伴う遺構確認調査
木の本遺跡	八尾市木の本1	27212	35	34 35 56	135 35 27	20040617	3.24	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
久宝寺遺跡	八尾市大阪竜華都市拠点土地区画整理事業３街区２画地	27212	23	34 37 04	135 35 10	20040601	19.25	店舗・立体駐車場建設に伴う遺構確認調査
久宝寺遺跡	八尾市大字亀井	27212	23	34 37 06	135 35 07	20040701･02	81.75	店舗付共同住宅建設に伴う遺構確認調査
久宝寺遺跡	八尾市南久宝寺１	27212	23	34 37 17	135 35 33	20041021	8	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
久宝寺遺跡	八尾市北亀井３	27212	23	34 37 06	135 34 45	20041028	10.58	スポーツ練習場建設に伴う遺構確認調査
郡川遺跡	八尾市黒谷６	27212	60	34 36 58	135 38 40	20040322･0527・28	34.25	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
郡川遺跡	八尾市郡川4	27212	60	34 37 02	135 38 36	20040813	2.25	個人住宅建設に伴う遺構確認調査
郡川遺跡	八尾市郡川2	27212	60	34 37 13	135 38 28	20040913・1022	4	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
郡川遺跡	八尾市教興寺4	27212	60	34 36 49	135 38 06	20041112	4	長屋住宅建設に伴う遺構確認調査
小阪合遺跡	八尾市青山町3	27212	40	34 37 15	135 36 56	20040614	7.29	老人ホーム建設に伴う遺構確認調査
成法寺遺跡	八尾市南本町２	27212	73	34 37 13	135 36 27	20041227	8	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
神宮寺遺跡	八尾市神宮寺5	27212	49	34 35 59	135 38 06	20041110	4.5	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
太子堂遺跡	八尾市太子堂4	27212	62	34 36 41	135 35 18	20040818	18	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
大正橋遺跡	八尾市太田8	27212	27	34 35 00	135 36 00	20041022	6.48	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
東郷遺跡	八尾市光町１	27212	37	34 37 43	135 36 23	20040421	12.5	保育園建設に伴う遺構確認調査
東郷遺跡	八尾市荘内町２	27212	37	34 37 28	135 36 41	20040708	12	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
東郷遺跡	八尾市光町２	27212	37	34 37 37	135 36 34	20040714	12.5	事務所付住宅建設に伴う遺構確認調査
東郷遺跡	八尾市北本町２	27212	37	34 37 44	135 36 16	20040812	9	専用住宅建設に伴う遺構確認調査
東郷遺跡	八尾市光町１	27212	37	34 37 50	135 36 25	20040921	6	店舗付住宅建設に伴う遺構確認調査
東郷遺跡	八尾市本町１	27212	37	34 37 26	135 36 12	20041206	18	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
中田遺跡	八尾市刑部１	27212	28	34 36 50	135 37 17	20040621・22	2.25	個人住宅建設に伴う遺構確認調査
中田遺跡	八尾市中田3	27212	28	34 36 54	135 36 52	20040802	6.25	専用住宅建設に伴う遺構確認調査
中田遺跡	八尾市八尾木北2	27212	28	34 36 45	135 36 58	20040930	4	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
中田遺跡	八尾市刑部４	27212	28	34 36 41	135 37 20	20041214	4	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
水越遺跡	八尾市服部川５	27212	42	34 37 30	135 38 28	20040506	18	グループホーム建設に伴う遺構確認調査
美園遺跡	八尾市美園町3	27212	34	34 38 05	135 35 46	20040413	18	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
矢作遺跡	八尾市高美町４	27212	74	34 36 55	135 36 44	20040706	4	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
矢作遺跡	八尾市高美町3	27212	74	34 36 57	135 36 42	20040927	1.44	長屋住宅建設に伴う遺構確認調査
矢作遺跡	八尾市松山町２	27212	74	34 36 55	135 36 26	20041119	12	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
山賀遺跡	八尾市新家町４	27212	32	34 38 38	135 35 53	20040811	9	配送センター建設に伴う遺構確認調査
弓削遺跡	八尾市志紀町南２	27212	71	34 35 33	135 37 07	20041104	6.25	エレベーターホール建設に伴う遺構確認調査

所収遺跡名		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
1	老原遺跡	集落	平安～室町時代	－	－	
2	恩智遺跡	集落	－	－	－	
3	久宝寺遺跡	集落	－	－	－	
4	久宝寺遺跡	集落	古墳時代　飛鳥～奈良時代	柱穴　溝	土師器　須恵器	
5	久宝寺寺内町	集落	室町時代～近世	－	磁器　瓦	
6	東郷遺跡	集落	－	－	－	
7	東郷遺跡	集落	－	－	－	
8	水越遺跡	集落	平安～鎌倉時代	－	土師器　瓦器　瓦	
9	八尾寺内町	集落	－	－	－	
10	弓削遺跡	集落	－	－	－	
11	跡部遺跡	集落	古墳～室町時代	－	－	
12	老原遺跡	集落	－	－	－	
13	太田遺跡	集落	－	－	－	
14	太田遺跡	集落	－	－	－	
15	恩智遺跡	集落	－	－	－	
16	恩智遺跡	集落	弥生時代	－	弥生土器　石器	
17	恩智遺跡	集落	－	－	－	
18	恩智遺跡	集落	－	－	－	
19	恩智遺跡	集落	－	－	－	
20	楽音寺遺跡	集落	－	－	－	
21	木の本遺跡	集落	－	－	－	
22	久宝寺遺跡	集落	－	－	－	
23	久宝寺遺跡	集落	古墳時代	－	須恵器	
24	久宝寺遺跡	集落	－	－	－	
25	久宝寺遺跡	集落	－	－	－	
26	郡川遺跡	集落	弥生時代　古墳時代	土坑	弥生土器	
27	郡川遺跡	集落	－	谷地形	－	
28	郡川遺跡	集落	－	谷地形　河川	－	
29	郡川遺跡	集落	弥生時代　古墳時代	－	弥生土器　須恵器	
30	小阪合遺跡	集落	－	－	－	
31	成法寺遺跡	集落	－	－	－	
32	神宮寺遺跡	集落	弥生時代	－	弥生土器　土師器	
33	太子堂遺跡	集落	－	－	－	
34	大正橋遺跡	集落	－	－	－	
35	東郷遺跡	集落	古墳時代　平安時代	土坑	弥生土器　土師器	
36	東郷遺跡	集落	奈良～平安時代	－	土師器	
37	東郷遺跡	集落	－	－	－	
38	東郷遺跡	集落	平安時代　鎌倉時代	－	土師器	
39	東郷遺跡	集落	－	－	－	
40	東郷遺跡	集落	飛鳥～奈良時代	河川	－	
41	中田遺跡	集落	弥生～古墳時代	－	弥生土器　土師器	
42	中田遺跡	集落	－	－	－	
43	中田遺跡	集落	－	－	土師器　須恵器　瓦	
44	中田遺跡	集落	古墳時代	－	土師器　須恵器	
45	水越遺跡	集落	－	－	－	
46	美園遺跡	集落	－	－	－	
47	矢作遺跡	集落	平安～鎌倉時代	－	瓦器	
48	矢作遺跡	集落	－	－	－	
49	矢作遺跡	集落	中世	－	土師器　瓦器	
60	山賀遺跡	集落	－	－	－	
51	弓削遺跡	集落	古墳時代	－	土師器	

八尾市文化財調査報告50
平成16年度国庫補助事業

八尾市内遺跡平成16年度発掘調査報告書

発　行　日　2005年３月31日
編集・発行　八尾市教育委員会
〒581-0003　八尾市本町１－１－１
TEL(0729)24－８５５５（直通）
印　　刷　(株)近畿印刷センター

＜八尾市刊行物番号　H16－87＞